

I 135-44



POLITICAL GEOGRAPHY  
OF  
JAPAN.

VOL. I.

BY

MANJIRO YAMAGAMI.

山上萬次郎著

日本帝國政治地理

第一卷

明治  
40 3 2  
丙寅

東京 大日本圖書株式會社

## 凡例

- 一、各篇中、重要ナル事項ニ付テハ、沿革ノ概要ヲ述ベ、又主要ナル列國ノ制度狀況ヲ對比スルコトニ力メタリ。
- 一、法制上及ビ統計上ノ事實中、特ニ年月ヲ記セザルモノハ、明治三十九年十一月一日現在トス。
- 一、日露戰爭ノ影響ヲ受ケタルコト甚シト認ムル事項ニ關スル統計ハ、故ラニ、明治三十六年又ハ明治三十六年度ノモノヲ掲グ。
- 一、表及ビ圖ニシテ調査年月ヲ示サザルモノハ、本文ト對照シテ、之ヲ詳ニスベシ。又表下圖トハ、特ニ密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ、讀者ハ、兩々對比考査スルヲ要ス。
- 一、地名ハ、主トシテ法令其ノ他官廳ニ於テ用キル所ニ從フ。
- 一、臺灣ニ付テハ、事項ノ輕重大小ニ從ヒ、或ハ別ニ別章別節トシ、或ハ特ニ章節ヲ設ケズシテ、適宜ニ篇中ニ記述セリ。是等特ニ說述セルモノノ外ハ、總テ内地ト一般ナ

リト知ルベシ。

一、樺太關東州韓國ニ付テハ、後卷ニ於テ、各別ニ篇ヲ起シテ、詳述スベキヲ以テ、特ニ一般ニ關係スルモノノ外ハ、臺灣ト異リテ、各篇ノ中ニ於テハ、之ヲ述ベズ。

一、書中ニ記述セル細大ナル事項ヲ搜索スルノ便ヲ計リ、別ニ精細ナル索引一冊ヲ出版ス。其ノ完成期日ハ、明治四十年二月下旬ノ豫定ナリ。

二

### 日本帝國政治地理 第一卷 目次

#### 緒論

..... 一頁

- (一) 地理學ノ定義 (二) 地理學ノ統合的規律 地人論 星雲說
- (三) 地理學ノ位置 地理學ハ獨立ノ一學科ナリヤ (四) 地理學ノ發達  
トレミー以前ノ地理學 トレミーノ地理學 パレニウスノ地理學
- カントノ地理學 カントノ地理學分類 ヴツタルノ地理學 フン  
ホルトノ地理學 最近ノ地理學 (五) 地理學ノ分類 ヲケネルノ  
地理學分類 地理學諸分科ノ範圍 (六) 人文地理學ノ範圍及ビ區分
- (七) 政治地理學ノ範圍 政治地理學ノ定義 (八) 政治地理學ノ現狀  
政治地理學ノ發達幼稚ナル原因 國勢ノ變化 教育上ノ價值
- (九) 日本帝國政治地理ノ研究 日本帝國政治地理研究ノ發達幼稚ナル  
原因 一般ノ原因 特種ノ原因 (三) 本書ノ目的

#### 第一篇 版圖

版圖ノ意義 獨立國ノ名稱

..... 三二

第一章 領土	三六		
領土ノ意義	領土ノ境界	領土觀念發達ノ沿革	列國ノ領土
第一節 我ノ國ノ領土	四一		
東亞ニ於ケル位置	海ト我ノ領土トノ關係	山野ノ分布	海流
河潮	氣候	面積	
第二節 帝國領土擴張ノ沿革	五五		
神武ノ創業	四道將軍ノ配置及ビ日本武尊ノ東征	三韓征伐	
北海道ノ收容	千島樺太ノ交換	琉球ノ征服	小笠原島ノ收容
臺灣ノ割取	遼東半島ノ割取ト還付	樺太ノ割取	關東州ノ租借
借	韓國保護權ノ確立		
第二章 領海	六七		
領海ノ意義	領海ノ區域		
第三章 結論	七〇		
第二篇 政治	七二		
第一章 國家ノ組織	七二		

第二章 天皇	七八			
國家ノ意義	權力ノ意義	政體	我ノ國ノ政體	帝國憲法
天皇ノ國法上ノ地位	神聖不可侵	大權	皇位繼承	攝政太
傳	列國ノ皇位繼承ノ制			
第三章 政治機關	八三			
三權分立	政治機關ノ區別	大權機關	國務大臣	樞密顧問
立法ノ意義	立法ノ順序	議會ノ權限	貴族院ノ組織	貴族
院議員數類別	多額納稅議員互選權者	衆議院ノ組織	選舉區	
議員數ノ配置	衆議院議員選舉權及ビ被選舉權	單記無記名		
選舉手續	歳費	通常會	臨時會	召集
務	衆議院議員ト人口及ビ選舉權者	衆議院議員ノ職業ト年齡		
外國ノ議會				
第四篇 司法	一一二			
司法機關	(一) 通常裁判所	三審制度	單獨制合議制	職員

區裁判所 地方裁判所 控訴院 大審院 裁判所ノ配置  
 (二)特別裁判所 軍法會議 樺戸網走十勝監獄 警察官署  
 憲兵部 (三)領事裁判權

## 第五篇 行政

行政ノ意義 中央行政ト地方行政 官治行政ト自治行政

### 第一章 中央行政

内閣 統計局 恩給局 印刷局 賞勳局 賞勳會議 法制局 馬政局 種馬牧場種馬育成所種馬所 馬政管區 文官高等試驗委員 各省 外務省 內務省 神宮司廳 神宮農學館 造神宮使廳 神部署 衛生試驗所 傳染病研究所 古社寺保存會 中央衛生會 日本藥局方調查會 土木出張所 大藏省 臨時國貨整理局 造幣局 稅關 稅務官署 煙草專賣局 鹽務局 臨時建築部 樟腦事務局 礦造試驗所 關稅所 關稅審查委員會 臨時橫濱港設備委員會 陸軍省 軍令卜軍政 海軍省 司法省 監獄 文部省 高等教育會議

中央氣象臺及日測候所 臨時緯度觀測所 測地學委員會 理學文書目錄委員會 農商務省 商品陳列館 中央度量衡檢定所 特許局 林區署 林野整理審查會 嶺山監督署 製鐵所 農事試驗場 花蒔檢査所 種牛牧場 工業試驗所 糖業改良事務局 逓信省 鐵道作業局 鐵道會議 臨時鐵道 國有準備局 通信官署 航路標識管理所 海事局 海務署 海員審判所 會計檢査院 行政裁判所 訴願

### 第二章 地方行政

現今ノ地方行政組織 地方行政沿革大要

#### 第一節 地方官治行政

(一)府縣 (二)郡 (三)市 (四)島 (五)町村 (六)沖繩縣ニ於ケル特例 (七)北海道ニ於ケル官治行政

#### 第二節 地方自治行政

普通自治團體ト特別自治團體 (一)町村 町卜村卜ノ別 法人ノ性質種類 町村制ヲ行ハザル地域 町村數 町村住民 町村公民 町村機關 議決機關 町村會 執行機關 町村長

町村行政監督 町村内少區 町村組合 (二)市議決機關  
 市會 執行機關 市參事會 市長 助役 區長 市行政  
 監督 (三)郡 郡之機關 郡會 郡參事會 郡長 郡行政監  
 督 郡組合 (四)府縣 府縣之機關 府縣會 府縣參事會  
 府縣知事 府縣行政監督 市部會 郡部會 (五)町村制未施行地ノ  
 自治行政 (六)水利組合 (七)沖繩縣ニ於ケル自治行政 (八)北海道  
 ニ於ケル自治行政

第三章 臺灣ノ政治機關 ..... 三二七  
臺灣施政ノ大要 立法 司法 行政 地方行政

第四章 皇室ノ諸機關 ..... 三三七

第五章 官吏ニ關スル制度 ..... 三三九  
官吏ノ性質 官吏ノ種類 官吏ノ階級 官吏ノ給與 文官  
 ノ任用資格 文官ノ人員 官吏待遇者 公吏

日本帝國政治地理 第一卷 目次終

日本帝國政治地理 第一卷 插圖版 目錄

一 日本帝國各大部面積及ビ海岸線比較 ..... 五一頁

二 日本帝國裁判所配置圖 ..... 一一八ノ次

三 馬政圖 ..... 一四四ノ次

四 日本帝國稅關管轄區域圖 ..... 一五二ノ次

五 稅務監督局管轄區域圖 ..... 一五六ノ次

六 鹽務局管轄區域圖 ..... 一八〇ノ次

七 大林區署管轄區域圖 ..... 一九六ノ次

八 鑛山監督署管轄區域圖 ..... 二一〇ノ次

九 海事局海務署管轄區域圖 ..... 二一八ノ次

一〇 府縣區劃圖 ..... 二二八ノ次

一一 地方自治行政區劃面積比較 ..... 二九四

一三 臺灣普通行政區劃圖……………三三六ノ次

日本帝國政治地理 第一卷 挿入表 目次

一 地理學分類表……………一七頁

二 獨立國表……………三一

三 主要列國本國領土面積表……………四〇

四 主要大島海岸線比較表……………四四

五 主要列國海岸線延長比較表……………四六

六 主要島別面積比較表……………五二

七 列國面積比較表……………五四

八 貴族院議員數調別表ノ一……………九二ノ次

九 衆議院議員選舉區別選出議員數別表ノ三……………九六ノ次

一〇 衆議院議員及ビ選舉者表……………一〇〇

一一 英國庶民院議員及ビ選舉者數……………一〇六



一二	裁判所表	一一九
一三	税關表	一五三
一四	稅務官署表	一五七
一五	稅務監督局及稅務署所在地表	一六三
一六	煙草專賣官署表	一七八ノ次
一七	鹽務局表	一八〇ノ次
一八	監獄表	一八六ノ次
一九	林區署管轄表	一九七
二〇	林區署名稱位置對照表	二〇一
二一	重要鑛產物產額	二一〇
二二	海事局及海務署表	二一九
二三	地方行政系統一覽表(別表ノ三)	二二八ノ次
二四	地方行政區劃面積員數表	二二九

二

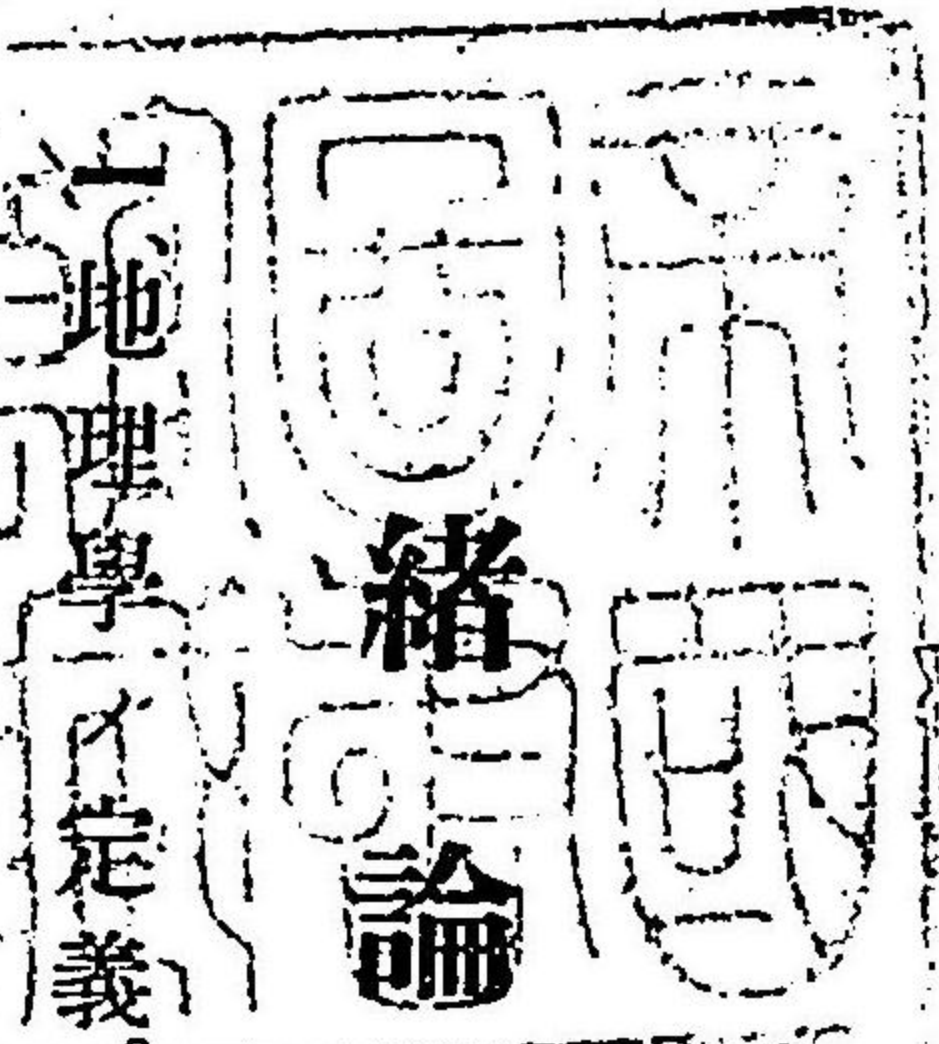
二五	天長年間六十六國二島表	二三四
二六	地方行政區劃地域名稱一覽表	二三八
二七	郡市役所島廳位置表(附北海道支廳及同區役所)	二七一
二八	臺灣總督府地方法院表	三三〇
二九	文官表(附試補列任見習員備)	三四七

三

# 日本帝國政治地理 第一卷

山上萬次郎 著

地理學ノ定義



地理學ハ、地表現象分布ノ系統的智識ナリ。

地表ノ現象、其ノ種類甚ダ多ク、其ノ性質亦概ネ複雑ナリト雖モ、其ノ地表分布ノ状態ヲ見レバ、自ラ一貫ノ原理ニ支配セラレ、一定ノ法則ニ律セラルルガ如シ。斯學ノ發達進步、尙頗ル幼稚ニシテ、未ダ悉ク是等ノ原理ヲ發見シ、法則ヲ確立シ得ルニ至ラズ。而カモ、地表現象ノ分布ニ關スル事實ノ蒐集ハ、日一日ヨリ盛ナルト共ニ、相應ナル序次ノ下ニ、之ヲ排列シ、適當ナル問題ヲ基トシテ、之ヲ比較シ、正確ナル考證ニ據リ

緒論

地理學ノ統合的規律

之對照シ、因果ノ聯絡ヲ其ノ間ニ求ムルノ趨勢ハ、最近ノ時代ニ於テ、益顯著ナルニ至レリ。蓋シ地表現象ノ分布ニ關スル吾人舊來ノ智識ハ、極メテ不正確ニシテ、非系統的ナリキ。之ヲシテ、正確ニシテ、系統的ナラシムルモノ、是レ最近地理學ノ新意義ナリトス。

### 二、地理學ノ統合的規律。

地理學範圍ノ廣大ナルハ、恰モ物理學及ビ化學ノ森羅萬象ヲ網羅スルニ似タリ。物理學化學ニハ、各部ヲ通シテ、**統合的規律**ノ行ハルルヲ見ル。物質及ビ勢力ナル二元ノ交渉關係是レナリ。地理學モ亦然リ。地表及ビ人間ナル二元ノ交渉關係ハ、其ノ統合的規律ニシテ、之ヲ説明スルハ、其終局ノ目的ナリ。物力二元ノ交渉中、物質ノ不滅ト、勢力ノ不滅トハ、物理學化學ノ根本法則タリ。最高原理タルニ對シテ、**進化說**ハ、現在ニ於テ、地理學ノ中心問題ナリ。彼ノ星雲說ノ如キ、地球進化論ノ完全ニ近キモノニシテ、地理學ノ一分科タル地球星學ハ、**統合的規律**ヲ茲ニ發見セリ。他ノ分科ニ於テ、之ニ

地人論

星雲說

地理學ノ位置

匹敵スル如キ進化大法則ヲ發見スルノ日モ、亦遠キニ非ルベシ。  
**三、地理學ノ位置。** 地理學ノ定義ハ、右ノ如ク、且ツ其ノ中心問題ハ、**地人二元ノ關係**ニアリトセバ、地理學ノ位置ハ、純然タル形而下ノ自然學科ニ非ズ、又形而上ノ人事學科ニ非ズシテ、其ノ中間ニ位スルモノナルコトハ、明カナリ。茲ニ於テ、地理學ハ、獨立セル學科トシテ存立シ得ルモノニ非ズトノ說アリ。其ノ根據トスル所ヲ概說セバ、左ノ如シ。

地理學ハ獨立ノ一學科ナリヤ

(イ)地理學ハ、數多ク分科ヲ有シ、**後文參照**、是等分科ハ、何ツレモ發達セル個々獨立ノ學科ナレバ、地理學ハ、是等獨立セル諸學科ノ總合的智識タルニ過ギズトノ說。之ニ對シテハ、物理學ハ、數多ク分科ヲ有シ、是等分科ハ、何ツレモ個々獨立ノ學科ナルコトニ想ヒ及ボスベシ。物理學ガ、一個ノ學科タル間、如上ノ理由ニヨリ、地理學ガ、獨立學科ノ資格ヲ失フコトナシ。

(ロ)地理學ハ、範圍非常ニ廣ク、且ツ不定ナルコト。史學哲學經濟學社會學等、範圍ノ非常ニ廣ク、且ツ不定ナルモノ、何ゾ限リアラン。學問ノ範圍ハ、其ノ進歩ト共ニ、伸縮アルコト、總ベテ皆然リ。地理學ハ、人間智識ノ總ベテヲ含ムモノニアラズ。例ヘバ、地理學ハ、猶一ノ家屋ノ如シ。其ノ材料タル岩石金屬材木等ハ、其ノ家屋ノ中ニ含マル。然レドモ、其ノ原料産地タル石切場鑛山森林等ハ、家屋ノ中ニ含マルモノニ非ズ。

(ハ)他學科ハ補助ヲ仰グコト、過大ナリトハ、說。借問ス、他學科ノ補助ナクシテ、獨立シ得ル學科ハ、幾何アリヤ。苟クモ斯クノ如クナラバ、史學社會學等ハ、一日モ立ツコト能ハザルナリ。而シテ、其ノ程度ノ問題モ、亦一定ノ標準ヲ以テ、律シ得ベキニ非ルナリ。

(ニ)地理學ニハ、正確ナル、統合的規律ナク、中心問題ナシトハ、說。是レ最モ有力ナル反對說ナリ。然レドモ、此ノ說ハ、地理學最近ノ意義前文參照ヲ度外セシ見解ナリ。蓋シ、切レ切レナル地文的人文的事實ヲ、或

ル原理ノ下ニ融化シ、或ル法則ノ下ニ統合シ、以テ意義アリ、生命アル學問トナサンコトハ、最近時代ノ新要求ナリ。勿論、地文的事實相互ノ間ニハ、科學上ノ原則アリ、人文的事實相互ノ間ニハ、社會學上ノ原則アリ、テ之ヲ融化シ、統合スルコトハ、前時代ニ於テ、已ニ著キ發達ヲ見タリト雖モ、或ハ揣摩臆測、或ハ牽強附會、科學上何等ノ基礎ナク、社會學上何等ノ根柢ナキ、極端ナル統合主義ノ普及ニ陥リシ外ニハ、着實ニ、公平ニ、穩健ナル統合主義ノ實行ヲ以テ、現時代ノ要求ニ答ヘシモノ、未ダ嘗テ之アラザリキ。一般ノ論者ガ、地理學ヲ以テ、正確ナル統合的規律ナク、中心問題ナシトセルモノ、亦宜ベナリト謂フベシ。然レドモ、地理學上大

小諸原理ノ發見、益多キヲ加フルノ今日ニ於テ、是等個々別々ノ原理ガ、現在ノ中心問題タル進化說ノ下ニ統一セラレ、二元ノ交渉關係、即チ所謂地人論ノ本體ヲ作り、以テ斯學ノ統合的規律トシテ確立セラルルノ日ハ、遠キニ非ルベシ。何ゾレノ學問モ、其ノ發達ノ時期、尚幼稚ノ狀態

地理學ノ發達

ニアリテハ、正確ナル統合的規律ト中心問題トハ、容易ニ存立セザルモノト知ルベシ。

(ホ)地理學ハ、應用學科ナリトハ、說。此ノ說ニ由レバ、地理學ノ各分科ハ、他ノ獨立セル學科ノ應用的方面ニ外ナラズ、例ヘキ、政治地理學ノ如キハ、國家學行政學等ノ應用的方面ナリ、而シテ、地理學全體ハ、是等應用的方面ノ智識ノ單ナル總合ニ外ナラズト。然レドモ、地理學ノ各分科ガ、單ニ應用的方面ノミナラズ、此ノ外、地人關係ノ法則ヲ説明シ得ベキ理論的方面ヲ具備スルコトハ、爭フベカラザル事實ナレバ、如上ノ說モ、亦中庸ヲ得タルモノニ非ズト知ルベシ。

**四、地理學ノ發達。** 學問トシテノ地理學ノ發達ト、發見ヲ主トセル地理探檢ノ進歩トノ間ニハ、密接ナル關係ノ存スルアリテ、兩者相互ニ影響ヲ授受セシモノナリ。然レドモ、二者各其ノ目的ヲ異ニスルヲ以テ、地理學ノ歴史ヲ説クモノハ、二者ヲ區別シテ論ズルヲ便ナリトス。

トレミー以前ノ地理學

英佛獨ノ地理學書多クコレニ從フ。茲ニハ、探檢的地理ノ歴史ハ、全ク之ヲ除キ、學問トシテノ地理學ノ發達ニ付キ、最モ主要ナル三四ノ學說ヲ紹介シ、以テ地理學最近ノ定義ト範圍トガ發生セシ、主ナル根源ヲ明カニスベシ。若シ夫レ、教育ノ一科トシテ見タル地理學發達ノ詳細ニ就イテハ、本書ノ目的以外ナレバ、是レ亦爰ニ述ベズ。

學問トシテ地理學ノ發達ハ、大畧之ヲ六期ニ分テ得ベシ。第一、トレミー以前ノ時代、第二、トレミー時代、第三、パレニッス時代、第四、カント時代、第五、リッテル及ビフンボルト時代、第六、最近時代コレナリ。

(イ)トレミー以前ノ時代。ギリシヤ學者ノ研究時代ニシテ、西曆紀元前ヨリ紀元二世紀ニ亘リ、細分シテ、**神秘時代**、**歷史時代**、**統合時代**、**數學時代**ト爲シ得ベシト雖モ、茲ニハ、一々説明セズ。地理學ノ理論的問題ハ、此ノ時代ニ於テハ、地球ノ形狀如何ニ存シ、最古ノ學者ハ、地球ノ形ヲ以テ、圓狀ナル平板トナセリキ。唯、ピタゴラス(Pythagorus)西曆紀元前五八〇年頃ニ

生ルハ地球ノ球形ナルヲ論ジタリシガ其ノ證據トスル所ハ他ナシ。唯最モ完全ナル立體即チ球ノミ以テ人間ノ住所タル此ノ世界ノ形タルニ足レリトナセシニアリ。ヘロドタス(西曆紀元前四八四年頃ニ生レ、同四二四年頃ニ死ス)ハ陸地ヲヨーロッパ・アジア・フリカノ三大陸ニ區別シ、自己ノ旅行セシ區域以外ニハ、對稱ヲ應用シ、已知水陸ノ性質ヨリ、未知部分ノ性質ヲ判斷セリ。例ヘバ、ナイル河ハ、北向スルニ先テ、西ヨリ東ニ流レザルベカラズ、是レダニユーブ河ガ南下スル前ニ西ヨリ東ニ流ルルニ對シ、之レト平衡ヲ得ルガ爲メナリトナセル如キ、其ノ最モ著キモノニシテ、對稱說ハ、所謂地理學原理ノ先驅ヲナシタリキ。アリストートル(西曆紀元前三八四年ニ生レ、三二二年ニ死ス)ハ、確實ナル材料ニヨリ、地球ノ形狀ヲ説明シ、始メテ科學的基礎ヲ地理學ニ與ヘタリ。人間ノ住居シ得ベキ部分ノ地形如何ハ、亦此ノ時代ニ研究問題トナリ、對蹠地ノ存在論ハ、最古ノ對稱說ノ援助ニヨリテ、屢唱道セラレタナリ。

リキ。

トレミーノ地理學

(ロ)トレミー時代。

トレミー(クラウデウス・プロトマイオス、西曆紀元前二世紀エジプトノアレキサンドリアニ於テ、地理學ヲ鼓吹セリ)ハ、ギ

リシヤ諸學者研究ノ結果ヲ總合シ、地球陸地ノ表面ヲ精確ニ記載シ、地圖ニ示スコトヲ以テ、重要ナル目的トシ、理論ハ、及ブ限ギリ論及セザリキ。氏ノ見解ニ由レバ、地理學ナル語ヲ地球全體ノ記載ノ意義ニ用ヒ、

別ニコログラフィ(地方誌、即チ一地方ノ詳細ナル記事)及ビトポグラフィ(處誌、即チ一層狹小ナル地方ノ精細ナル記事)ナル區別ヲ立テタリ。

要スルニ、近世以前ノ地理學ハ、此ノ人ニ依リテ建設セラレタルモノニシテ、其ノ地理學上偉績ノ詳細ハ、爰ニ省略ス。

パレニッスノ地理學

(ハ)パレニッス時代。

トレミー以後、地理探檢ノ發見ハ、學問トシテノ舊時ノ地理學ニ、一大革命ヲ與ヘ、特ニ地圖學ノ進歩ハ、之レニ伴ヒテ、益斯ノ學ニ新生面ヲ開キタリ。而シテ、學問トシテ地理學ヲ再興セシハ、實

ニドイツ人ベルンハルツス・バレンニウスナリトス。地理學ノ再建者タル此ノ大學者ハ、西曆紀元一六二二年ヲ以テ生レ、齡三十二滿タズ、同一六五〇年ヲ以テ逝ケリ。有名ナル大著「地理學通論」ハ、實ニ其ノ逝去ノ年ニ完成シ、長ク斯界ノ寶典タリキ。バレンニウスハ、地理學ヲ分チテ、地理學通論及ビ特論ノ二トナシ、通論ニ於テハ、地球全體、特論ニ於テハ、特別地方ヲ論ゼリ。更ニ地理學通論ヲ分テ、三トシ、一、絕對部ニハ、地球ノ形、大サ、位置、實質、水陸ノ分布、水界、氣界等ヲ論ジ、二、關係部ニハ、經度、緯度、氣候帶等ヲ論ジ、三、比較部ニハ、地點ノ位置、距離及ビ航海等ヲ論ジタリ。又特論ヲ分テ、三トシ、地部、天部、人部トセシガ、唯其ノ綱目ヲ示シタルノミニシテ、之レヲ詳論スルニ及バザリキ。バレンニウスノ地理學系統ノ綱目ハ、更ニ新事實ノ發見ト、杆格スルコトナク、遙ニ其ノ時代ニ先テル良書ニシテ、單ニ現象ノ事實ヲ記ス外、現象ノ因果的關係ヲ述べ、且ツ地形ガ、地理學上最モ大切ナルモノタルコトヲ、正確ニ認メシハ、之レヲ以テ初

メトス。

(二) カント時代。

カント(西曆紀元一七二四年ニ生レ、一八〇四年ニ死ス)ノ大哲學者タルハ、天下ノ能ク知レル所ナリ。獨リ其ノ科學上ノ素養ト地理學上ノ偉績トニ至リテハ、世上、特ニ我が國ニ於テ、多ク之レヲ認メザルモノアルハ、遺憾ナリト云フベシ。蓋シ、地理學ニ於テモ、カント以前ニハ、固ヨリ一人ノカントナク、カント以後ト雖モ、之レト並ビ稱スベキハ、僅カニ三四ノ指ヲ屈スベキノミ。

カントノ地理學  
カントノ地理學  
分類

カントノ著「地球ノ自然史及ビ天ノ理論」ハ、今日ノ所謂星雲說ヲ發表セルモノニシテ、地球星學ノ統合的規律トシテ、唯一無三ノ大原理ナリ。其ノ後、ラブラスハ、其ノ「世界系統論」ニ於テ、カントト獨立ニ之レヲ證明シ、加フルニヘルシアルノ研究ニヨリ、星雲說ハ、現今ノ完全ヲ得ルニ至レリ。星雲說ノ詳細ハ、拙著大地文學卷之四ニ詳論セルヲ以テ、爰ニ省ク。此ノ大法則ノ外、カントハ、地理學ノ系統ヲ、下ノ如ク定メタリ。先ヅ

緒論

地文地理ヲ以テ自然ヲ総合シ、他ノ地理學分科ノ基礎タルベキモノトナセリ。其ノ所謂他ノ地理學分科ニハ五ツアリ。一、數學地理(地球ノ形狀大サ運動及ビ太陽系中ニ於ケル地球ノ位置ヲ論ズ)、二、道德地理(各地方人類ノ風俗品性等ヲ論ズ)、三、政治地理、四、商業地理、五、宗教地理ニシテ、地表上現象分布ノ相互的作用及ビ因果的關係ノ明確ナル論斷ハ、是等ノ分科ニ屬シ、特ニ地文地理ガ人間ノ活動ニ及ボス影響ハ、此ノ中ニ含マル。此ノ如ク、分類ノ形式ヲ舉ゲタレドモ、カントハ、數學地理ヲ以テ、地文地理ノ豫備ニシテ、且ツ全ク地文地理トハ、獨立ノモノトナセリ。其ノ所謂地文地理ハ、更ラニ二ツニ分レ、第一ノ總論ハ、地球及ビ總ベテ之ニ屬スルモノ、即チ水氣陸ヲ論ジ、第二ノ特論ハ、地球ノ特産物、即チ人間及ビ動植物ヲ論ズ。地形ニハ、特ニ重キヲ置キ、人事地理學ノ諸分科ハ、スベテコレニ左右セララルモノナルコトヲ明カニセリ。

Human Geography

ホフンボルト及ビリッテル時代。フシホルト及ビリッテルハ、近世地理學ノ鼻祖ナリ。リッテル(西曆紀元一七七九年ニ生レ、一八五九年ニ死ス)ノ「比較地理學」ハ、十九世紀無比ノ大著作ニシテ、地理學ノ結論ヲ得ルニ、一地方ノ研究ヨリセズ、諸地方ノ現象ヲ比較シテ、斷定スルヲ本領トシ、地形及ビ氣候ガ、人間ノ活動ニ及ボス影響ニ論及シ、主トシテ歴史の方面ニ重キヲ置キ、以テ近世地理學ノ基礎ヲ完成セリ。

リッテルト殆ド同時代ニ出デタルアレキサンデル・フアン・フンボルト(西曆紀元一七六九年ニ生レ、一八五九年ニ死ス)ハ、地理學ノ理論ニ就キ、根本的ニハ、リッテルト略ボ同ジ見解ヲ有シ、斯學ニ一大進歩ヲ與ヘタリ。

フンボルトハ、自然ニ統合主義アルコトヲ主張シ、前世紀ノ學者ガ、秩序ナク、系統ナク、單ニ蒐集セシ觀察資料ト、地表ノ垂直的相貌(地形ノ高低等)及ビ水平的相貌(海岸線ノ出入等)トノ關係ヲ研究シ、地形ガ氣候生物、特ニ人間ニ至大ナル關係アルコトヲ證明シ、主トシテ、地文の方面ニ重キヲ置キ、以テ近世地理學ノ基礎ヲ完成セリ。フンボルトノ智識ノ多

リッテルノ地理學

學ノ鼻祖ナリ。リッテル(西曆紀元一七七九年ニ生レ、一八五九年ニ死ス)

ノ「比較地理學」ハ、十九世紀無比ノ大著作ニシテ、地理學ノ結論ヲ得ルニ、

一地方ノ研究ヨリセズ、諸地方ノ現象ヲ比較シテ、斷定スルヲ本領トシ、地形及ビ氣候ガ、人間ノ活動ニ及ボス影響ニ論及シ、主トシテ歴史の方面ニ重キヲ置キ、以テ近世地理學ノ基礎ヲ完成セリ。

リッテルト殆ド同時代ニ出デタルアレキサンデル・フアン・フンボルト(西

曆紀元一七六九年ニ生レ、一八五九年ニ死ス)ハ、地理學ノ理論ニ就キ、根本的ニハ、リッテルト略ボ同ジ見解ヲ有シ、斯學ニ一大進歩ヲ與ヘタリ。

フンボルトハ、自然ニ統合主義アルコトヲ主張シ、前世紀ノ學者ガ、秩序

ナク、系統ナク、單ニ蒐集セシ觀察資料ト、地表ノ垂直的相貌(地形ノ高低等)及ビ水平的相貌(海岸線ノ出入等)トノ關係ヲ研究シ、地形ガ氣候生物、特ニ人間ニ至大ナル關係アルコトヲ證明シ、主トシテ、地文の方面ニ重キヲ置キ、以テ近世地理學ノ基礎ヲ完成セリ。フンボルトノ智識ノ多

フンボルトノ地理學



最近ノ地理學

方面ニ涉リシコト其ノ旅行イ大々的ナリシコト其ノ大著「宇宙」ノ人心ニ與ヘタル感化ノ甚ク深カリシコト加フルニ其ノ地理學上ニ於ケル他ノ功績ノ非常ニ多ク且ツ大ナリシコトハ近世地理學ノ建設者トシテリッテルト並稱スベキ聲譽ヲ斯ノ人ニ荷ハシムルニ至レリ。

(一)最近ノ時代。斯クノ如ク學問トシテノ地理學ニ就イテハトレミ  
 一之レヲ創メバレニッス之レヲ再建シカント之レガ系統ヲ定メリッテルトフンボルトトハ之レヲ大成シタリ。而シテ最近時代ノ進歩ハ其ノ條項ノ精細ニ於テ又其ノ教育的方面ノ應用ニ於テ固ヨリ非常ニ大ナルモノアリ。然リト雖モ其ノ地理學ノ意義ヲ定ムル上ニ於テハ或ハリッテルノ比較地理ヲ主張シリッテルノ如ク歴史的要素ヲ主トスルモノアリ。或ハ埃ノジウス・ベンク・米ノデビスノ如ク地形ニ重キヲ置キ地理中ノ特種方面ヲ研究スルヲ以テ本領トスルモノアリ。ラアヘルノ如ク地理學ヲ以テ一面ニハ自然科學タルヲ認ムルト同時ニ歴史及

地理學ノ分類

ビ文明ノ舞臺トシテ地表ヲ見タル人類地理學ノ必要ヲ論ジ而カモリッテルノ説ニハ全然賛成セザルモノアリ。其ノ他英ノガイキー、獨ノワグネル、及ビリヒト・ホーフン、佛ノルクリュー、及ビラバランノ如キ諸家ノ説一定セズ。要スルニ一方ニハ人類の歴史の方面ヲ主トシ一方ニハ地質的地形的方面ヲ重シ二者其ノ研究ノ方法ニ於テハ至大ナル徑庭アルニ似タレドモ地理學ノ中心問題ヲ以テ地人關係ノ原理ニアリトスルハ最近時代ノ思潮ナリトス。

**五、地理學ノ分類。**地理學最近ノ意義其ノ求ムル所ノ統合的規律及ビ之レニ從フ中心問題ハ前ニ述ブル所ヨリテ其ノ大體ヲ知ルベシ。而シテ之レヲ研究スル順序ニ於テハ之レヲ分類スルヲ以テ最モ便利ナリトス。地理學ノ分類ハ前文地理學ノ發達ニ述ベシ如ク其ノ骨髓ニ於テハ前代ノ學者之レヲ盡クセリ。トレミー・バレニッス・カントノ分類ヲ總合セバ最モ進歩セル今代ノ分類ニ近キモノヲ得ルハ難

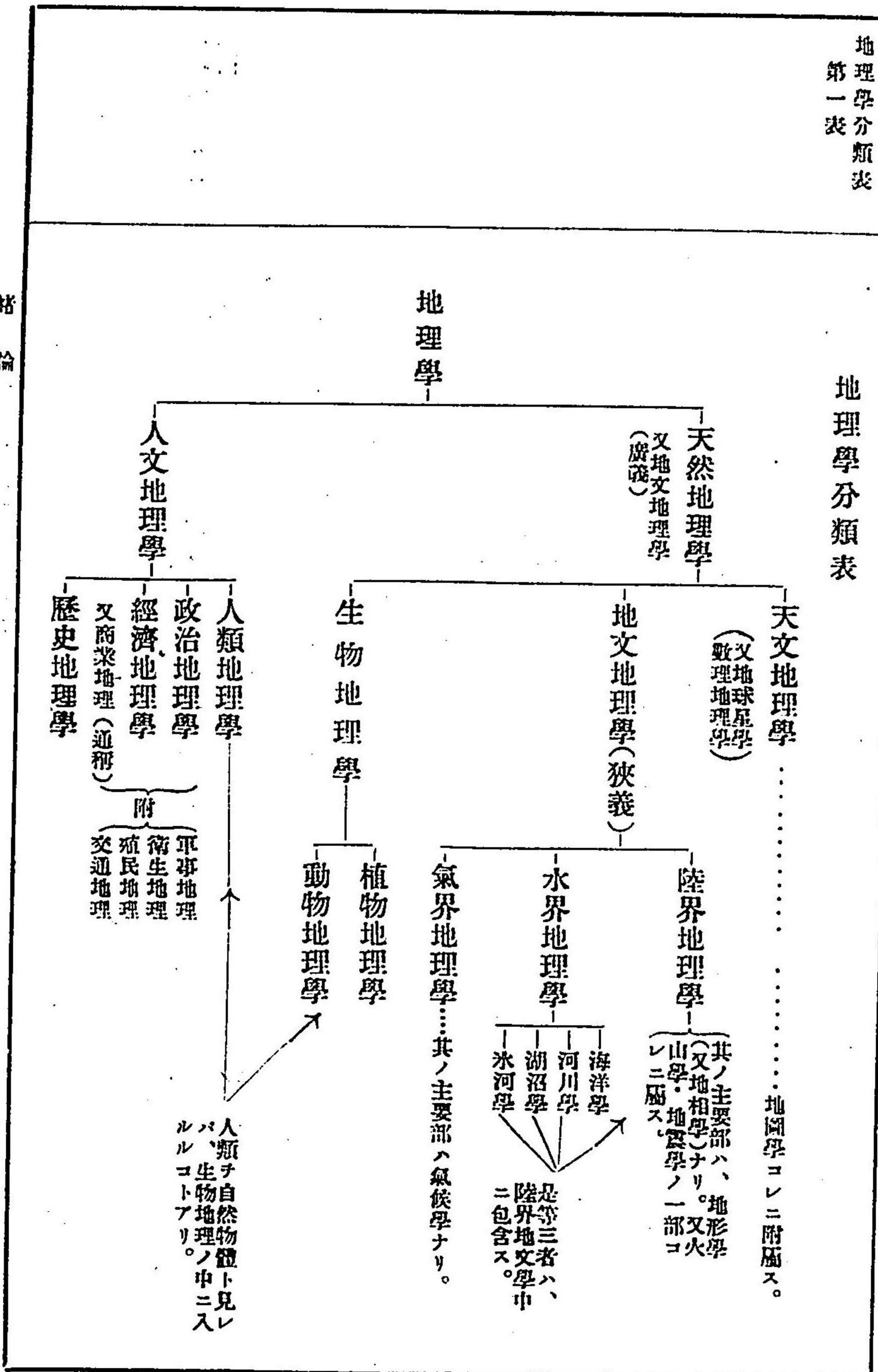
キニ非ルナリ。

今代諸學者ノ斯學ニ下シタル分類ヲ示シ、之レヲ比較シ、之レヲ批評スルコトハ、甚ダ有益ニシテ、興味アルコトナレドモ、本書ノ主タル目的ニ省ミ、爰ニハ全ク之レヲ略シ、唯其ノ一例ヲ示ス。左ニ掲グルモノハ、一部分ヲワグネルノ分類ニ基キ、他ハ著者ノ私意ヲ以テ編述セルモノナリ。

ワグネル氏地理學ノ定義及ビ區分。地理學ノ教ユル所ハ、其ノ發達ノ歴史ニ從ヘバ、二様アリ。第一ハ、地球ヲ以テ自然物體トシ、自然現象ハ、一定ノ規律ニ從ヒテ、其ノ表面ニ活動シ、以テ無數生物ノ生活狀態ニ影響ス。此ノ部ヲ自然地理學トス。第二ハ、地球ヲ以テ天然法則ニ盲從セザル一種高等ノ生物タル人間ノ住所トシテ地球ヲ論ズ。此ノ部ヲ人文地理學トス。人文地理學ハ、歴史ト自然科學トヲ連繫スル紐ナリ。要スルニ、地理學ハ、歴史的要素ヲ含ムル、自然科學的學問ナリ。而シテ、教授ノ目的、其ノ他ノ事項ニヨリテ、地理學ヲ通論ト特論トニ大別シ、通論ヲ數學地理、地文地理、生物地理、人類地理ノ四ツニ區分セリ。

ワグネルノ地理學分類

地理學分類表  
第一表



緒論

地理學諸分科ノ範圍

今各分科ニ關シ、其ノ最モ必要ナル事項ニ就イテノミ、左ニ略述スベシ。

地、文、地、理、學、最、近、ノ、意、義、  
 地文地理學ハ、地球ノ自然ヲ論ズルモノニシテ、自然科學ナリ。然レドモ、最近ノ意義ニ於テハ、地球ノ自然現象ノ成因ヲ論ジ、且ツ是等現象ガ、人間ハ、生活狀態ニ及ボセル結果ニ及ブモノトセリ(デビス氏地文學第六頁)。故ニ、全ク人間ヲ離レテ、地文ヲ説クハ、斯學最近ノ意義ニ非ズト知ルベシ。

廣、義、及、ビ、狹、義、ハ、地、文、地、理、學、  
 狹義ノ地文地理學ハ、生物地理學及ビ天文地理學ヲ含マズシテ、陸界、水界、氣界ノ三者ノミヲ包括ス。之レヲ示スベキ適當ナル名稱ナキヲ以テ、暫ラク狹義ノ地文學ナル語ヲ用フ。

地、圖、學、ハ、位、置、  
 地●圖●學●ハ、學問トシテハ、應用數學ノ一科、技術トシテハ、圖書ノ一部ニシテ、普通教育上ニ於テハ、地理科ノ中ニ加フベキモノナリ。其ノ位置ハ、舊ニヨリテ、天文地理學ノ中ニ附屬セシムルヲ便トス。

陸、界、地、理、學、ノ、範、圍、  
 其ノ大部分ハ、地形學(又地相學)ナリ。學者或ハ地形學即チ陸界地理學トナスモノアリ。内、外、ノ、地、變、力、ハ、地、表、ノ、上、ニ働キテ、其ノ地質ノ異ナルニ從ヒ、種々ノ形相ヲ生ズ。即チ地形地相ハ、地變力ト地質トノ交渉關係ノ結果ナリ。之レヲ論ズルモノハ、地形學ナリ。普通ノ意義ニ於テハ、地形學ハ、陸地ノ形相ヲ論ズルモノニシテ、海岸及ビ海底ヲ包括スレドモ、水氣兩界ヲ含マザルモノト知ルベシ。

火、山、學、ノ、大、部、地、震、學、ノ、一、部、ハ、地、形、學、中、ニ、入、ル、  
 水、界、地、理、學、ノ、區、分、  
 大々的ノ水即チ海洋、流ル、所ノ水、即チ河川、流レテ先ヅ滯ル所ノ水、即チ湖沼、固體ノ水、即チ氷河、是等四者ハ、地球水界ノ全體ヲ包括ス。水界地理學ハ、廣義ニ於テ、是等四分科ヲ含メドモ、河川湖沼氷河ノ三者ハ、通常陸地ノ水トシテ、陸界ノ中ニ入ル、モノト知ルベシ。

氣界地理學ノ範圍。陸界及ビ水界ガ如何ニ氣界ニ影響ヲ及ボスカ、氣界現象ノ分布ハ如何ニ動植物人類ニ關係ヲ及ボスカ。是レ氣界地理學ノ範圍ニシテ、其ノ豫備タリ基礎タルハ、氣象學氣象學即チ空氣ノ物理學ナル補助學科ナレドモ、其ノ終局ノ解釋ハ、氣候學氣候學原理ノ闡明ニアリト知ルベシ。  
Chimatology

生物地理學ノ範圍。動物植物ノ外、自然物體トシテ、人間ヲモ、此ノ中ニ論ズルコトアリ。例ヘバ、人種分布ノ事項ノ如シ。

自然地理學ガ人文地理學ノ基礎タルコト、地形ガ地文地理學ノ根本タルコト、地理學ノ各分科ハ相互ニ密接ナル關係ヲ有スルコトニ就イテハ、爰ニ省ク。

六、人文地理學ノ範圍及ビ區分。人文地理學ハ、地表ヲ人類ノ住所トシテノ地理學ナリ。人類モ、亦他ノ天然物體ト同ジク、自然ノ法則ニ支配セラル、ハ、固ヨリ之ヲ免レズ。然レドモ、人類ハ他ノ生物ヨリモ一層高等ナルモノナリ。其ノ自然ニ制セラル、自カラ限リア

人文地理學ノ範圍及ビ區分

政治地理學ノ範圍

ルト同時ニ、一方ニ於テハ、又自然ヲ支配ス。即チ人類ハ、自然ニ盲從スルモノニ非ルナリ。而シテ、人類活動ノ舞臺トシテ、地表ヲ觀察スレバ、其ノ方面、一ナラザレドモ、大別シテ、三トナシ得ベシ。一ニハ、政治的方面、二ニハ、經濟的方面、三ニハ、歷史的方面ニシテ、政治地理學、經濟地理學、歷史地理學ノ三大部門ハ、之レニ由リテ成ル。自然物體トシテ人類ヲ論ジ、人種ノ異同分布ヲ論ズル人類地理學ハ、此ノ外ニ屬シ、或ハ動物地理學植物地理學ト共ニ、之レヲ天然地理學ノ一分科タル生物地理學ノ中ニ包括スルコトアレドモ、通常之レヲ人文地理學ノ一科トス。

七、政治地理學ノ範圍。人文地理學ノ四分科ハ、其ノ關係甚ダ密接ニシテ、範圍ノ經界判然タラザルモノ多シ。就中、範圍ノ最モ廣漠タルモノハ、政治地理學ナリ。政治地理學ノ事項中、其ノ沿革ヲ論ズルハ、歷史地理學ノ一部ニ亘リ、其ノ住民ヲ説クハ、人類地理學ニ入り、其ノ産業ヲ述ブルハ、經濟地理學ノ著キ部分ヲ含ム。固ヨリ、歷史地理學ト

諸論

氣界地理學ノ範圍。陸界及ビ水界ガ如何ニ氣界ニ影響ヲ及ボスカ、氣界現象ノ分布ハ如何ニ動植物人類ニ關係ヲ及ボスカ。是レ氣界地理學ノ範圍ニシテ其ノ豫備タリ基礎タルハ氣象學(即チ空氣ノ物理學ナル補助學科ナレドモ其ノ終局ノ解釋ハ氣候學ノ原理ノ闡明ニアリト知ルベシ。  
Meteorology  
Climatology

生物地理學ノ範圍。動物植物ノ外自然物體トシテ人間ヲモ此ノ中ニ論ズルコトアリ。例ヘバ人種分布ノ事項ノ如シ。

自然地理學ガ人文地理學ノ基礎タルコト地形ガ地文地理學ノ根本タルコト地理學ノ各分科ハ相互ニ密接ナル關係ヲ有スルコトニ就イテハ爰ニ省ク。

六、人文地理學ノ範圍及ビ區分。人文地理學ハ地表ヲ人類ノ住所トシテノ地理學ナリ。人類モ亦他ノ天然物體ト同ジク自然ノ法則ニ支配セラルハ固ヨリ之ヲ免レズ。然レドモ人類ハ他ノ生物ヨリモ一層高等ナルモノナリ。其ノ自然ニ制セラルハ自カラ限リア

人文地理學ノ範圍及ビ區分

ルト同時ニ一方ニ於テハ又自然ヲ支配ス。即チ人類ハ自然ニ盲從スルモノニ非ルナリ。而シテ人類活動ノ舞臺トシテ地表ヲ觀察スレバ其ノ方面一ナラザレドモ大別シテ三トナシ得ベシ。一ニハ政治的方面ニハ經濟的方面三ニハ歴史の方面ニシテ政治地理學經濟地理學歴史地理學ノ三大部門ハ之レニ由リテ成ル。自然物體トシテ人類ヲ論ジ人種ノ異同分布ヲ論ズル人類地理學ハ此ノ外ニ屬シ或ハ動物地理學植物地理學ト共ニ之レヲ天然地理學ノ一分科タル生物地理學ノ中ニ包括スルコトアレドモ通常之レヲ人文地理學ノ一科トス。

七、政治地理學ノ範圍。人文地理學ノ四分科ハ其ノ關係甚ダ密接ニシテ範圍ノ經界判然タラザルモノ多シ。就中範圍ノ最モ廣漠タルモノハ政治地理學ナリ。政治地理學ノ事項中其ノ沿革ヲ論ズルハ歴史地理學ノ一部ニ亘リ其ノ住民ヲ説クハ人類地理學ニ入り其ノ産業ヲ述ブルハ經濟地理學ノ著キ部分ヲ含ム。固ヨリ歴史地理學ト

政治地理學ノ範圍及ビ區分

政治地理學ノ定義

雖モ之レヲ廣義ニ解スレバ、人文地理學諸分科ノ沿革論ヲ包括スルガ故ニ、其ノ範圍非常ニ廣シ。然リト雖モ、之レヲ政治地理學ニ比スレバ、日ヲ同フシテ語ルベカラズ。要スルニ、政治地理學ハ、人類ノ活動上、政治ノ舞臺トシテ、地表ヲ觀察シ、地表上、政治現象ノ分布ニ關スル系統的智識ヲ得之レニ就イテ、地人交涉關係ノ統合的規律ヲ發見スルヲ以テ本領トス。

政治地理學ノ現狀

八、政治地理學ノ現狀。近世ニ於ケル地理探檢ハ、未ダ至レリ盡セリト云フヲ得ズ。然レドモ、之レヲ以テ教育ニ適用シタル地理學ニ比スレバ、其ノ發達遙カニ大ナリ。教育ニ適用シタル地理學ハ、生物學ニ對シテ、尙確カニ一籌ヲ輸セリト雖モ、學問トシテノ地理學ニ比スレバ、其ノ進歩亦遙カニ大ナリ。學問トシテノ地理學ニ於テ、地人關涉ノ統合的大規則ノ發見セラレタルモノ、果シテ幾何カアル。想フテ爰ニ至レバ、斯學ノ現狀ニ就イテ、長大息ノ已ム能ハザルモノアリ。コレ

政治地理學ノ發達幼稚ナル原因

地理學的現象ハ、其ノ特色トシテ、概ネ複雜トコト、絶エズ變化スルコト、豫想シ難キコト多キヲ以テナリ。政治地理學ノ不進歩ニ至リテハ、特ニ其ノ甚シキヲ見ル。純政治地理學ノ著作トシテハ、著者ノ寡聞ナル、僅ニラッセル氏ノ一著書Tatzei-Politische Geographieルヲ知ルノミ。而カモ、其ノ説明、抽象ニ過ギ、實用ニ遠カリ、斯學本來ノ目的ニ適合セザルコト、少々ナリトセズ。ワグネル氏地理學通論ノ一部、少シク政治地理學ニ論及スト雖モ、事實ノ不備ニ至テハ、前者、同一ノ憾ヲ遺セリ。而シテ、法學士山本信博氏ノ政治地理學博文館發兌帝國百科全書ノ一編ハ、一般政治地理ニ關スル邦文唯一ノ著作アリ。蓋シ、政治地理學ノ發達極メテ幼稚ナル主因ハ、下ノ如シ。一、政治現象ノ地理的分布ハ、概ネ複雜ナリ。二、政治地理學ノ事項ハ、甚ダ煩多ナリ。三、政治地理學材料ノ蒐集ハ、甚ダ困難ナリ。四、近代國勢ノ變遷ハ、甚ダ急劇ナリ。何ゾレノ時代ニ於テモ、國家運勢ノ隆替ハ、常ニ已ムナシト雖モ、十八世紀ノ末葉以後ヨリ今日ニ至

國勢ノ變化

教育上ノ價值

ル間ノ如ク甚シキハアラザラン。思想的政治的經濟的革命ノ連リニ起レルガ上、内亂外戰ノ絶エザルニ加ヘテ、應用科學ノ進步ハ、是等現象ノ多クヲ一層頻繁複雑ニシタレバ、一定ノ時期ニ於ケル國家現在ノ狀況ヲ調査研究スルコトハ、容易ノ業ニ非ルノミナラズ、調査漸ク了ルノ頃ハ、國勢一變其ノ所謂政治地理學ノ材料ハ、單ニ最近史料ノ斷片タルニ過ギズシテ、學者ヲシテ、茫然自失スルニ至ラシム。五、教育上、政治地理學ノ價值ハ、當局者ニ認メラルルコト甚ダ少シ。地理學通論ノ一部タル地文地理學ト、地理學特論ノ郷土地理、帝國地理、世界地理ノ一部又ハ全體トハ、初等中等高等教育ニ大切ナル位置ヲ占メタレドモ、政治地理學ノ豫備タリ、基本材料タル法制經濟ノ科目ハ、漸ク最近ニ及ンデ、我が國ノ中等教科中ニ設ケラレシニ過ギズ。而カモ、此ノ法制經濟科目ハ、教授ノ現狀ヨリ見ルニ、抽象ノ理論ニ偏シ、實用ノ條項ニ遠カリ、特ニ地理的要素ヲ含マズ、隨テ政治地理學ノ實質ハ、殆ド全ク此ノ中ニ加味

セラレザルモノト知ルベシ。加之、中等以上及ビ中等以外ノ教育ニ於テ、他ノ地理學諸分科ハ、概ネ直接間接ニ其ノ位置ヲ得タレドモ、政治地理學ニハ、其ノ所アルヲ見ズ。例ヘバ、商業地理ガ、實業學校及ビ實業專門學校ニ於テ、商品學ノ研究ト共ニ、益重ンゼラルルコト、地文學ガ、人文地理ノ全體ト並行シ、地理學特論ト對立シテ、高等師範學校ノ教程ニ編入セラレ、而カモ、政治地理ハ、僅カニ人文地理ノ一部トシテ、殘留スルニ過ギザルコト、數ヘ來リ、數ヘ去レバ、一トシテ政治地理學ノ發達ヲ障碍スル所以ニ非ルハナシ。僅カニ高等學校ノ一部ニ於テ、特別ナル位置ヲ有スルアリテ、少シク吾人ノ意ヲ強クスルニ足ルガ如シト雖モ、豫備教育ニ於ケル施設、特ニ第三流トシテ取扱ハルル其ノ課程ノ現狀ハ、毫モ斯學ノ發達普及ヲ促スニ至ラザルナリ。自ラ標榜シテ、籍ヲ斯學ニ置クモノ、豈卓勵風發以テ機運ノ回轉ヲ講ゼズシテ可ナランヤ。

### 九、日本帝國政治地理ノ研究

日本帝國政治地理研究ノ甚

日本帝國政治地理ノ研究

ダ大切ナルハ、言フ埃タズ。之ニ由リテ、日本帝國國勢ノ現狀ヲ詳ニシ、  
 之レニ由リテ、帝國將來趨勢ノ一斑ヲ察シ、之レニ由リテ、政治地理上ニ  
 於ケル帝國ノ特色ヲ確認シ、之レニ由リテ、政治上ニ於ケル帝國ノ世界  
 的位置ヲ明カニシ得ベケンバナリ。然ルニ、日本帝國政治地理學ノ研  
 究ハ、一般ノ政治地理學研究ノ幼稚ナルヨリモ、尙一層幼稚ニシテ、論述  
 ハ、基礎タル材料ノ蒐集スラ、未ダ十分ニ行ハレズ。統合的規則ヲ其ノ  
 間ニ求メ、中心問題ヲ決定スルノ機運ヲ見ルガ如キハ、前途尙遼遠ナリ  
 ト謂フ可シ。有名ナル矢津昌永氏ノ「日本政治地理」ハ、帝國政治地理ニ  
 關スル邦文唯一ノ著作ナリ。ライオン氏ノ「日本モ一部政治地理ニ論及  
 セルニ過ギズ。先キニハ、金田榎太郎氏、後ニハ、山崎直方氏ガ各地學雜  
 誌ノ論說ニ於テ、人文地理學、或ハ政治地理學ノ必要ヲ唱道セシコトア  
 リキ。然レドモ、未ダ日本帝國ノ政治地理ニ關シテ、何等ノ詳細ナル系  
 統ヲ立テシモノアリシヲ聞カザルナリ。

日本帝國政治地  
 理研究ノ發達幼  
 稚ナル原因  
 一般ノ原因

帝國ノ政治地理研究ノ現狀、斯ク進歩セザルハ、二ツノ原因ニヨル。  
 一般ノ原因ニハ、前文ニ述ベシ如キ、五箇ノ條項アリ。即チ第一ニハ、日  
 本帝國政治現象ノ地理的分布ハ、甚ダ複雑ナリ。例ヘバ、地方行政區劃  
 ノ如シ。本書第五篇第二章第一節ヲ讀ムモノ、誰レカ其ノ複雑ナルニ  
 驚カザランヤ。而カモ、此ノ最モ重要ナル事項ハ、通常學者ノ輕々看過  
 セシ所ノモノナリ。第二ニハ、日本帝國政治地理ノ事項ハ、極メテ煩多  
 ナリ。例ヘバ、陸海軍ノ教育ノ如シ。本書第七篇第六章ヲ見テ、之レヲ  
 知ルベシ。第三ニハ、材料ノ蒐集極メテ困難ナリ。統計ノ如キ、或ハ曆  
 年ヲ以テシ、或ハ會計年度ヲ以テシ、或ハ調査ノ條件ヲ異ニシ、單ニ數字  
 ノ上ヨリ比較對照シテ、論斷ヲ待ルニ難ク、且ツ材料ノ往々刊行セラレ  
 ザルモノアリ。第四ニハ、近代國勢ノ變化、我が國ノ如ク甚シキハナシ。  
 維新後未ダ四十年ニ達セズ、而カモ渺タル武陵桃源的ノ別天地ヨリ、一  
 躍シテ、世界ノ一等國トナリ、東洋第一ノ大帝國トナレリ。其ノ政治地



特種ノ原因

理學的現象ノ複雜ナル固ヨリ怪ムニ足ラズ。王政維新、西南ノ役、日清日露戰爭等ノ重要事件ハ、經濟的ノ膨脹ト、日本人ノ特色タル應用科學上ノ模倣的獨創ト相待テ、帝國ノ國運ニ、頻繁ナル大變化ヲ來タシ、政治地理ノ研究者ヲシテ、應接ニ遑ナカラシムルニ至レリ。第五ニハ、我が國ノ教育上、政治地理學ノ價值ノ認メラレザルハ、前ニ述ベシ如シ。

帝國ノ政治地理研究ヲ困難ナラシムルモノ、如上ノ原因ノ外ニ、尙特種ノ原因アリ。比較的最近ノ統計甚ダ得難ク、調査材料ノ殆ド全部ハ、政府ノ各局部ニアリテ、局外者之レヲ入手スルコト容易ナラズ。學會及ビ地方團體ニ、完全ナル調査材料ノ存スルモノ少シ。政府ノ材料、特ニ陸海軍ニ關スルモノハ、公表セラレザルモノ多ク、隨テ已知ノ事實ヨリ、特種ノ概算推定ヲ行ハザルベカラズ。例ヘバ、陸軍兵員ノ數ノ如シ、完全ナル調査材料アル場合ニ於テモ、編述ノ目的ニ對シテハ、特ニ複雜ナル計算ヲ行ヒ、概括的ノ表ヲ作り、特別ナル製圖ヲ必要トス。是レ等

本書ノ目的

ノ事實ハ、著者ヲシテ、本書ノ編纂上、幾回カ筆ヲ投ゼシムルノ機會ヲ與ヘタリキ。而シテ、帝國政治地理學ノ價值ガ、殆ド全ク教育上ニ認メラレザル理由ハ、其ノ責、寧ロ教育者ニアラズシテ、地理學者ニ存スルガ如シ。蓋シ、從來ノ政治地理ハ、材料ノ蒐集甚ダ不完全ニシテ、事實ハ、誤謬甚ダ多ク、之レニ基ケル決論ハ、極端ナル臆斷ニ陥リタルヲ以テ、穩健ナル教育家ガ、之レヲ排斥シタルハ、固ヨリ怪シムニ足ラズ。要スルニ、日本帝國政治地理研究ハ、現在ハ、尙根本材料ノ蒐集時期ニアリ。一般地理學ニ於ケルトレミ、目錄時代ニ、匹敵スベキ程度ニスラモ、未ダ達セザルモノナリ。

一〇、本書ノ目的。本書ノ目的ハ、日本帝國ノ政治現象、特ニ其ノ地理的分布ヲ説明シ、正確ニシテ豐富ナル材料ニ基ヅキ、日本帝國國勢ノ現狀ヲ明カニスルヲ以テ目的トス。故ニ、專ラカヲ材料蒐集ノ方面ニ注ギ、統合的規律ノ發見ニ就イテハ、其ノ確定ノモノヲ除キ、概ネ臆斷

想像ヲ逞フスルヲ避ケタリ。彼ノ法制經濟ノ理論的要素及ビ歴史的要素ヲ加ヘシヨト、稍過著ナルハ、専門家ヨリ視レバ、雞肋タリ、蛇足タルベキモ、是レ一般讀者ノ便ヲ計リ、且ツ中等教育者ノ參考ニ供スル著者ノ微意ニ外ナラズ。多者ハ、敢テ日本帝國政治地理學上ノトレミヲ以テ、自ラ擬スルモノニ非ラズト雖モ、正確ナル事實ノ叙述ト、豐富ナル材料ノ排列トニ重キヲ置キタルヲ以テ、識者ガ著者ニ責ムルニ、其ノ目錄的タリ、記載的タルヲ以テスルハ、敢テ厭フ所ニ非ズ。若シ夫レ、是等ノ材料ヲ融化シ、事實ヲ統合シ、以テ眞個學術的ノモノニ大成スルハ、來ルベキ時ト、當ルベキ人トニ待チ、今ニ於テハ、敢テ自ラ任ゼズ。本書若シ他日ノリッテルニ對シテ、其ノ研究材料ノ一斑トナルヲ得バ、著者ノ幸ハ、之レニ過ギザルナリ。

## 第一篇 版圖

版圖ノ意義

版圖トハ、一國主權者ノ支配權ノ下ニ在ル陸地及ビ海面ノ稱ナリ。地球ノ面積ハ、大約五億一千萬方呎アリト雖モ、其ノ各國ノ版圖ニ屬スル部分ハ、僅少ナリ。

陸地ハ、概テ各國ノ領有スル所ナレドモ、兩極不毛ノ地域ハ、固ヨリ未ダ何國ヘモ屬セズ。而シテ、海面ニ至リテハ、其ノ陸地ニ近接セル一部分ガ所謂領海トシテ、各國主權ノ下ニ在ルノミニシテ、其ノ他廣漠タル水面ハ、決シテ一國ノ獨占領有ヲ容サズ、之ヲ公海ト稱ス。

世界ノ獨立國ハ、現今大小五十四アリ。兩極不毛ノ地ト、公海トヲ除キ、世界ノ表面ヲ分割シテ、各其ノ版圖トシ、互ニ富強ヲ謀ルニ汲々タリ。

獨立國ノ名稱ハ左ノ如シ。

亞細亞洲

Asia.

八ヶ國

第二表  
獨立國ノ名稱

日本	Empire of Japan.
清	Empire of China.
暹羅	Kingdom of Siam.
暹羅	Monarchy of Siam.
尼泊尔	Kingdom of Nepal.
阿富汗斯坦	Kingdom of Afghanistan.
波斯	Monarchy of Persia.
波斯	Sultanate of Ormuz.
歐羅巴洲	Europe.
露西亞	Empire of Russia.
瑞典	Kingdom of Sweden.
挪威	Kingdom of Norway.
丁林	Kingdom of Denmark.
獨逸	Empire of Germany.
奧地利匈牙利	Monarchy of Austria-Hungary.
羅馬尼亞	Kingdom of Rumania.

二十一國

塞爾維	Kingdom of Servia.
蒙特內哥羅	Monarchy of Montenegro.
土耳其	Sultanate of Turkey.
希臘	Kingdom of Greece.
荷蘭	Kingdom of Netherlands.
白耳森	Kingdom of Belgium.
盧森堡	Grand Duchy of Luxembourg.
瑞西	Swiss Confederation.
意大利	Kingdom of Italy.
英吉利	United Kingdom of Great Britain and Ireland.
佛蘭西	Republic of France.
摩納哥	Principality of Monaco.
西班牙	Kingdom of Spain.
葡萄牙	Kingdom of Portugal.
阿非利加洲	Africa.
阿比西尼亞	Kingdom of Abyssinia.

四十四國

公界	Congo Independent State.
モロコシ	Sultanate of Morocco.
リベリア	Republic of Liberia.
北亞米利加洲	North America. 十一ヶ國
亞米利加合衆國	United States of America.
墨西哥	United Mexican States.
海峽	Republic of Cuba.
ハイチ	Republic of Haiti.
サントドミンゴ	Republic of Santo Domingo.
グアテマラ	Republic of Guatemala.
ホンデュラス	Republic of Honduras.
サルバドル	Republic of Salvador.
ニカラグア	Republic of Nicaragua.
コスタリカ	Republic of Costa Rica.
巴拿馬	Republic of Panama.
南亞米利加洲	South America. 十ヶ國

哥倫比亞	Republic of Colombia.
ベネズエラ	Republic of Venezuela.
エクアドル	Republic of Ecuador.
伯刺西爾	United States of Brazil.
秘魯	Republic of Peru.
ボリボヤ	Republic of Bolivia.
パラグアイ	Republic of Paraguay.
ウルグアイ	Republic of Uruguay.
アルゼンチン	Argentine Republic.
智利	Republic of Chili.

即チ現今ノ獨立國五十四ノ中、八國ハ亞細亞洲、二十一國ハ歐羅巴洲、四國ハアフリカ洲、十國ハ北亞米利加洲、十一國ハ南亞米利加洲ニ在リ。而シテ、大洋洲ニハ、一ノ獨立國アルコトナシ。

更ニ全世界ノ獨立國ヲ、君主國ト共和國トニ區別スレバ、五十四國ノ中、君主國ハ、二十九ニシテ、共和國ハ二十五ナリ。而シテ、南北亞米利加

洲ニハ、一ノ君主國ナク亞細亞洲ニハ、一ノ共和國アルコトナシ。  
前掲諸國ノ外、名義上獨立國ト稱セラル、モノ、其ノ數少カラズト雖  
モ、孰レモ完全ナル主權ヲ有セズ、他國ノ附庸タルニ過ギザルヲ以テ、茲  
ニ之ヲ揭ゲズ。我ガ比隣ノ韓國ノ如キモ、日露戰爭前ニ在リテハ、獨立  
國タリシモ、戰後條約ヲ以テ、我ガ保護權ノ下ニ立ツニ至リ、茲ニ全ク獨  
立國ノ事實ヲ喪失セリ。

### 第一章 領土

領土ノ意義

領土ノ境界

領土トハ、版圖ヲ構成セル陸地ノ部分ナリ。陸地ニ附隨セル河湖池沼等ハ、固ヨリ領土ノ一部タリ。  
領土ノ境界ハ、地形ニ從フモノト、人爲的假設線ニ依ルモノトノ別アリ。

地形ニ從フトハ、山脈河川湖沼海岸等、天然ノ地形ニ依リテ、分界ヲ爲

スモノニシテ、普ク人ノ知レル所ナリ。人爲的假設線ニ依ルトハ、經緯線等人爲ノ線ヲ以テ、兩國ノ境界ト爲スモノニシテ、英領加奈陀ト北米合衆國トガ、緯線ヲ以テ、加奈陀トアラスカトガ、經線ヲ以テ、境界線ヲ定メタルガ如シ。我ガ國ニ於テモ、臺灣トフリビン群島トノ境界ハ、明治二十八年八月十七日公布、日西兩國宣言ヲ以テ、バシール海峽ノ航行シ得ベキ海面ノ中央ヲ通過スル所ノ緯度竝行線ト定メラレタリ。  
山脈ヲ以テ、國ヲ接スルトキハ、山脈ノ最高點ヲ以テ國境トシ、航行シ得ベキ河川ヲ以テスルトキハ、水底ノ最深所ヲ境トシ、航行シ得ベカラザル河川ナルトキハ、其ノ中央線トス。湖水ノ沿岸二國以上ニ屬スルトキハ、諸國ハ、其ノ沿岸ノ割合ニ應ジテ、之ヲ分有ス。但シ關係諸國ノ條約、又ハ先占ニ依リテ、以上ノ原則ニ例外ヲ來スハ、固ヨリ言ヲ須タザルベシ。

領土ハ、主權即チ國家ノ支配スルモノナルヲ以テ、領土ノ觀念ハ、國家

領土觀念發達ノ沿革

觀念ニ伴ヒテ發達セリ

原始時代ニ於ケル人類ノ状態ハ飽キテハ眠リ覺メテハ食ヒ、吾モ禽獸ト相擇フ所ナシ。然ルニ人類ノ社會的賦性ハ長ク個々分離スルヲ容サズ。自カラ團體ヲ形成シ以テ他族及ビ禽獸ノ迫害ニ當ルニ至レリ。此ノ時ニ當リ人類ノ生業ハ遊牧ニ在リ。多數ノ家畜ヲ率非、水草ヲ逐ヒテ轉居シ、一定ノ住所ヲ有スルコトナシ。之ヲ遊牧ノ時代ト謂フ。

此ノ時ニ當リテヤ、團體アリト雖モ、固ヨリ未ダ治者被治者ノ別ナク、一所ニ定住セザルガ故ニ、土地獨占ノ觀念ヲ有セズ。

然ルニ人類益繁殖シ、天産ノ衣食ニ充ツベキモノ、自カラ乏シキヲ告ケ、加フルニ、人類ノ嗜好漸次複雑ナルニ及ビテハ、一定ノ土地ニ定住シ、稼穡ノ業ニ從フノ止ムヲ得ザルニ至レリ。是ニ於テ乎、農業時代ヲ生ゼリ。

農業時代ニ及ビテハ、其ノ生業ノ性質上、一定ノ土地ヲ獨占スルノ必要ヲ生ズルガ故ニ、茲ニ領土觀念ノ萌芽ヲ生ゼリト謂フヲ得ベシ。人類ノ一所ニ定住シテ、農業ヲ營ムニ及ビテヤ、團體ノ組織モ、自カラ發達シ、勇者ハ之ガ首長ト爲リテ、團體員ヲ指揮シ外侮ヲ禦ギ、内業ヲ勵ム。是ニ於テ乎、治者ト被治者トノ端ヲ開キタリ。

團體ノ首長ハ、初メ團體中ノ勇者、或ハ強力ヲ以テ、或ハ他ノ推ス所トナリテ、之ニ當

リタレドモ、此ノ如キハ、勇者ノ死亡ト共ニ、團體ノ解體ヲ來シ、或ハ混亂ヲ生ジ、未ダ以テ其ノ永久的鞏固ヲ期スルニ足ラズ。是ニ於テ乎、自然ノ必要ハ、終ニ首長世襲ノ制ヲ生ジ、首長ハ、生殺與奪ノ權ヲ掌握シ、以テ其ノ團體ヲ統御シ、團體ノ占據セル土地ハ、即チ首長ノ私有財産ニシテ、團體員ハ、首長ノ命ヲ奉ジ、耕耘ノ業ニ從フモノトナレリ。國家及ビ領土ノ觀念ハ、是ニ於テ大ニ發達セリ。

此ノ時代ニ於テハ、權力ト權利トノ思想未ダ劃然分別スル所ナク、君主ハ、絕對無限ノ權力者ニシテ、又權利者タリ。故ニ國家ト君主トノ別、亦從テ明ナラズ。領土ト君主ノ財産トハ、其ノ事實ニ於テモ、觀念ニ於テモ、更ニ相甄別セラルルコトナシ。然ルニ、世運ノ進歩ニ從ヒ、權力ト權利トハ、全ク其ノ種類ヲ異ニシ、權力ハ、治者ノ被治者ニ對スル不平等ノ力ニシテ、權利ハ、國家ノ保障セル平等ナル私益上ノ力ナルコト明ニシ、乃チ領土ハ、國家權力ノ行使セラルル土地ノ區域ニシテ、君主ノ財産ハ、權利ノ目的物タルベキ者ナルガ故ニ、領土ト國有財産又ハ御料財産トノ別、終ニ明瞭ナルニ至レリ。

之ヲ要スルニ、領土ノ觀念ハ、遊牧民ノ一所ニ定住シテ、農耕ヲ事トスルニ及ビテ、其ノ萌芽ヲ發シ、君主世襲ノ制起リテ、君主ノ支配スル土地ハ、君主ノ所有ナリトスルニ及ビテ、大成シ、權力ト權利トノ思想發達シ

列國ノ領土

テ、君主ノ所有ナルト否トヲ問ハズ、其ノ權力ノ下ニアル土地ハ、總テ領土ナリトスルニ至リテ、完成セリ。

世界ノ陸地ハ、兩極未發ノ地域ヲ除クノ外、或ハ完全ナル領土トシテ、或ハ其ノ保護國トシテ、五十四ノ列國、之ヲ分有ス。主要ナル列國ノ本國領土ノ面積ヲ示セバ、左ノ如シ。

第三表

主要列國本國領土面積表

國名	本國
英吉利	一二一、三〇〇 <sup>方里</sup>
佛蘭西	二〇七、〇五〇
獨逸	二〇八、八三〇
露西亞	八、六四八、三九五
北米合衆國	二、九七〇、二三〇
暹羅	二二〇、〇〇〇
清國	四、二七七、一七〇
日本	一四七、六五七

備考。本表中、日本ノ部ハ、臺灣澎湖島樺太南部關東州租借地ヲ屬地トス。又露西亞及ビ支那ノ領土中ニハ、本國屬地ノ別ヲ立ツルコト難キモノアリ。本表中露西亞ノ領土ニ就イテハ、政家年鑑所載ノモノヨリ、樺太南部ノ面積概算一萬二千方哩ヲ控除シタリ。

### 第一節 我が國ノ領土

日露戰役前、帝國領土ノ極點ハ、北緯二十一度四十八分ヨリ、五十度五十六分ニ及ビ、東經百五十六度三十二分ヨリ、百十九度二十分ニ至リ、南米智利ト共ニ、世界第一ノ狹長國タリ。今ヤ韓國ヲ保護ノ下ニ置キ、新ニ樺太ノ南半部ヲ獲得シテ、我が國ノ境域ハ、著ク其ノ面積ヲ増加スルニ至レリ。

國運ノ隆替ガ、邦土ノ位置、形狀ニ繫ルコト、論ヲ須タズ。我が帝國モ、固ヨリ亦其ノ數ニ免レズ。以下項ヲ分チテ、之ヲ略述スベシ。

(一) 東亞ニ於ケル我が領土ノ位置。我が國ノ領土ハ、大小數百ノ島嶼

東亞ニ於ケル位

ヨリ成リ、北ハ堪察加ヨリ、南ハ清國福建省ニ及ブノ間、相連リテ、東亞ノ海岸ヲ掩フ。其ノ形、恰モ一列ノ防波堤ニ似タリ。

我ガ國ガ東亞ノ全而ヲ掩フノ形勢ハ、自カラ東洋ノ霸權ヲ掌握スベキ使命ヲ有スルモノナリ。蓋シ、世界何レノ國ト雖モ、苟クモ東亞ニ於テ、安全ニ其ノ外交上及ビ商業上ノ利益ヲ維持伸張セントスルモノハ、之ガ防波堤タル我ガ帝國ヲ無視スルコト能ハザレバナリ。

我ガ國ハ、島國ナリ。東ハ、太平洋ヲ隔テ、遠ク亞米利加洲ト相對シ、西ハ、日本海、東海、黃海等ヲ隔テ、支那朝鮮等ト相望ム。抑モ古來海運ノ術未ダ進歩セザル時代ニ於テ、大戦争ノ起ルハ、多ク國境ノ相接スルモノノ間ニ於テス、假令ヒ、一タビ海ヲ越エテ、他國ヲ追撃スルコトアルモ、克ク十全ノ功ヲ收ムルモノ、極メテ稀ナリ。我ガ帝國ガ開國以來、大陸ノ戰亂ニ關與シタルコト少ク、獨立シテ能ク穩健ナル發達ヲ爲シタルハ、職トシテ其島國ナルニ因ラズンバアラズ。而モ平和ノ交通ハ、山

海ト我が領土トノ關係

嶽ノ峻ヲ涉ルヨリモ、海洋ニ由ルコト、却テ至便ナルガ故ニ、古來支那朝鮮ハ、自國ノ文明ヲ我ニ輸入シ、或ハ印度ノ文化ヲ紹介シ、以テ大ニ我ガ國運ノ進歩ヲ帮助セリ。

(二)海ト我が領土トノ關係。我ガ領土ハ、島國ナリ。島國又ハ半島國ガ、古來東西ヲ通ジテ、概ネ文化ノ進歩最モ速カナリシコトハ、史乘ノ明ニ證スル所ナリ。有名ナル希臘羅馬ノ文明、印度ノ發達、英國ノ隆運等、即チ是レナリ。蓋シ海面ハ、各地ノ文明ヲ載セテ、之ヲ茲ニ輸スヲ以テナリ。我ガ國ニシテ、若シ大陸内地ニ介在セン乎、今日ノ文運ヲ見ルコト能ハザリシナルベシ。

等シク島國ト言フト雖モ、海岸ノ出入甚ダ多キモノアリ、甚ダ少キモノアリ。其ノ多キモノハ、少キモノヨリモ、文化ノ發達上、好良ナル形状ヲ有セリトス。コレ文運輸入ノ最良通路タル海面ニ接觸スルコト、長ケレバナリ。



陸地ノ海面ニ接スル線ヲ海岸線ト謂フ。海岸線ノ長短ヲ説クハ、陸地ノ面積ニ比較スルヲ通常トス。我ガ國ノ海岸線ハ、其ノ割合ニ長キコト、世界比儔ヲ見ルコト少シ。

我ガ領土ノ沿岸ハ、岬角港灣ノ出入夥シク、海岸線ノ延長、七千七百餘里ニ及ブ。之ヲ各地方ニ就イテ見レバ、九州ノ西岸及ビ日本内海ノ海岸、最モ屈曲ニ富ミ、北海道及ビ臺灣ハ、海岸線短ク、本州ノ太平洋沿岸ハ、日本海沿岸ニ比シテ、著ク長シ。斯クノ如キ海岸線ノ地方的差異ハ、又文化發展ノ地方的差異ニ、影響ヲ及ボセシコト、少カラザルヤ必セリ。我ガ領土中、主要ナル大島ノ海岸線ヲ比較スレバ、左ノ如シ。

主要大島海岸線比較

島 別	海 岸 線	面 積	海岸線一里ニ付面積
本州(含島ヲ)	二、四七五 <sub>里</sub>	一四、五七一 <sub>方里</sub>	九、五 <sub>方里</sub>

第四表

四 國	九 州	北 海 道	本 州	全 國
六七六	一、八四七	六五〇	三〇〇	七、七七一
一、一八一	二、六一八	五、〇八四	二、二五三	二九、三二四
一・七	一・四	七・八	七・五	三・八

海岸ノ性質ヲ比較スルニハ、第一、海岸線ノ總延長ヲ以テ、面積ヲ除シ、海岸線ノ長サノ單位(例ヘバ一里)ニ就テノ面積(方里)ノ割合ヲ見ルコトアリ。第二、陸地ト等シキ面積ヲ有スル四地理(四)ヲ算出シ、此四國ノ長サト、其ノ陸地ノ海岸線ノ長サトノ比ヲ見出スコトアリ。此ノ外ニモ、尙コレアリ、而シテ第二法最モ適當ナレドモ、爰ニハ、舊ニ依リテ、第一ノ法ヲ取レリ。尙日本海岸ノ性質ノ詳細ナル研究ノ内、概ニ至リテハ、日本地文學ニ譲リテ、爰ニ省略ス。

右ノ略表ニヨリテ見レバ、海岸線ノ屈曲ハ、北海道及ビ臺灣ニ少キコト、九州及ビ四國ハ、此ノ點ニ於テ、著ク勝レルモノアルヲ知ルベシ。歐羅巴諸國中、主要ナル列國ノ海岸線延長ヲ以テ、我ガ國ニ比スレバ、左ノ如シ。

第五表

主要列國海岸線延長比較

國名	海岸線	面積	海岸線一哩ニ付面積
英吉利	八〇〇 <sup>哩</sup>	一三二、三〇〇 <sup>方哩</sup>	一五・二五 <sup>方哩</sup>
佛蘭西	六九五	二〇七、〇五〇	二九七・九一
獨逸	二二六	二〇八、八三〇	九六六・八一
奧國	二四〇	二四一、三三〇	一、〇〇五・五四
伊太利	七一八	一〇、五五〇	一五三・九七
和蘭	八〇	一二、六五〇	一五八・一三
西班牙	三七〇	一九四、七九〇	五二六・四三
葡萄牙	一三〇	三五、四九〇	二七三・〇〇
日本	一七、四〇七	一四七、六五五	九・二九

備考。本表ハ本國ノミノ計算ニシテ、屬地ヲ含マズ。又露西亞ノ領土ハ寒帯ニ連リ、氣候上文化ノ發達遲緩ナル部分大ナルヲ以テ、海岸線ト文化トノ關係ヲ見ルニ不便ナルガ故ニ、本表ヨリ省ク。

見ルベシ、海岸線ノ延長ト、文化トノ關係淺カラザルコトヲ。

山野ノ分布

(三) 山野ノ分布。我が國ノ地形ハ、狹長ニシテ、臺灣山系日本崑崙山系樺太山系等相連リテ、之ガ脊骨ヲ成シ、大小無數ノ山嶽起伏相依ルヲ以テ、廣漠タル平原少シ。然レドモ、小原野ハ、海岸ニ沿ヒテ、各地ニ散在シ、農耕ノ業、頗ル盛ナリ。而シテ、峰巒ノ重疊起伏セルコトハ、氣候ノ溫和ナルト、海灣出入シ、無數島嶼散布セルコトト、相須テ、我が國土ノ風光ヲ美ナラシム。世呼テ東洋ノ樂園トス。

山河ノ風光ガ、住民ノ性情ニ偉大ノ影響ヲ及ボスコトハ、自然ノ理ナリ。我が國ノ風光ハ、此ノ如ク、優美ナルガ故ニ、國民ノ性情、亦自ラ溫雅ニシテ、美術心ニ富ム。然レドモ、其ノ美ヤ小ニシテ、雄渾ノ絶勝ニ乏シキガ故ニ、國民ノ人物、亦自ラ纖小ナルノ弊ヲ免レズ。

(四) 海流。海流ハ、潮汐トハ、全ク其ノ性質ヲ異ニシ、恰モ陸上ニ於ケル河川ノ如ク、海中ニ於テ、畧ボ一定ノ徑路ヲ有シ、彼ヨリ是ニ、海水ノ轉流スルモノナリ。海流ハ、氣候ニ變化ヲ來シ、漁業航海業等ニ影響ヲ及ボ

海流

河湖

スモノニシテ、國民生活上、至大ノ關係ヲ有ス。

本邦近海ノ海流中、主要ナルモノハ、黒潮及ビ親潮トス。

黒潮ハ、又日本海流ト稱ス。南方臺灣附近ヨリ來ル暖流ニシテ、九州附近ニ到リ、分レテ本支二流トナリ、我が領土ヲ抱キテ、北東ニ進行ス。其ノ太平洋ニ出デタル本流ハ、金華山附近ニ到リテ、我が國土ヲ離レ、日本海ニ入リタル支流ハ、對馬海流ノ名ヲ得、其ノ流末ハ、遠ク宗谷附近ニ達ス。黒潮ノ流ルル所ハ、鱈其ノ他ノ水産物蕃殖シ、概ネ雨量ニ富ミ、時ニ氣温ヲ上昇セシム。

親潮ハ、一ニ之レヲ千島海流ト呼ブ。ベーリング海ヨリ來ル寒流ニシテ、千島及ビ北海道ノ東岸ヲ經テ、金華山附近ニ到リ、黒潮ト相會スルニ及ビテ、其ノ行ク所ヲ知ラズ。親潮ノ通過スル所ハ、昆布其ノ他ノ水産物ニ富ミ、概テ雨量少ク、氣温ヲ下降セシム。

(五)河湖。我が邦土ハ、地形狹長ニシテ、山骨之ヲ縦斷スルガ故ニ、河川

ノ流域短ク、其ノ幅從テ狹シ。湖水モ、亦琵琶湖ヲ除ク外、見ルニ足ルモノナシ。故ニ、之ヲ大陸ニ比スレバ、淡水航運ノ便、極メテ乏シ。

北海道ヲ除ク外、我が國河川流域面積ノ最モ大ナルモノハ、太平洋斜面ノ利根川ニシテ、實ニ一千〇二十二方里ヲ占メ、之ニ次グモノハ、日本海斜面ノ信濃川ニシテ、七百九十四方里ヲ占メ、太平洋斜面ノ北上、木曾二川、日本内海斜面區域ノ淀川、日本海斜面ノ阿賀川、之ニ次ギ、何レモ、五百方里ヲ超ユ。而シテ、本流ノ長サニ於テハ、信濃川最モ大ニシテ、九十六里ニ達セリ。水系ノ延長最モ大ナルモノ、亦利根川ヲ以テ第一トシ、實ニ一千一百二十一里ニ上リ、淀川一千一百〇三里ヲ以テ第二ニ居リ、信濃川ノ九百八十一里、北上川ノ九百六十二里、又之ニ次グ。而シテ、航路ノ最モ長キハ、舟筏ヲ通算シ、利根川ノ二百七十里餘、第一ニシテ、信濃川ノ百七十八里、淀川ノ百六十八里、之ニ次ギ、北上川、阿賀川、隅田川、最上川、木曾川、各百里以上ヲ以テ、又之ニ次グ。

氣候

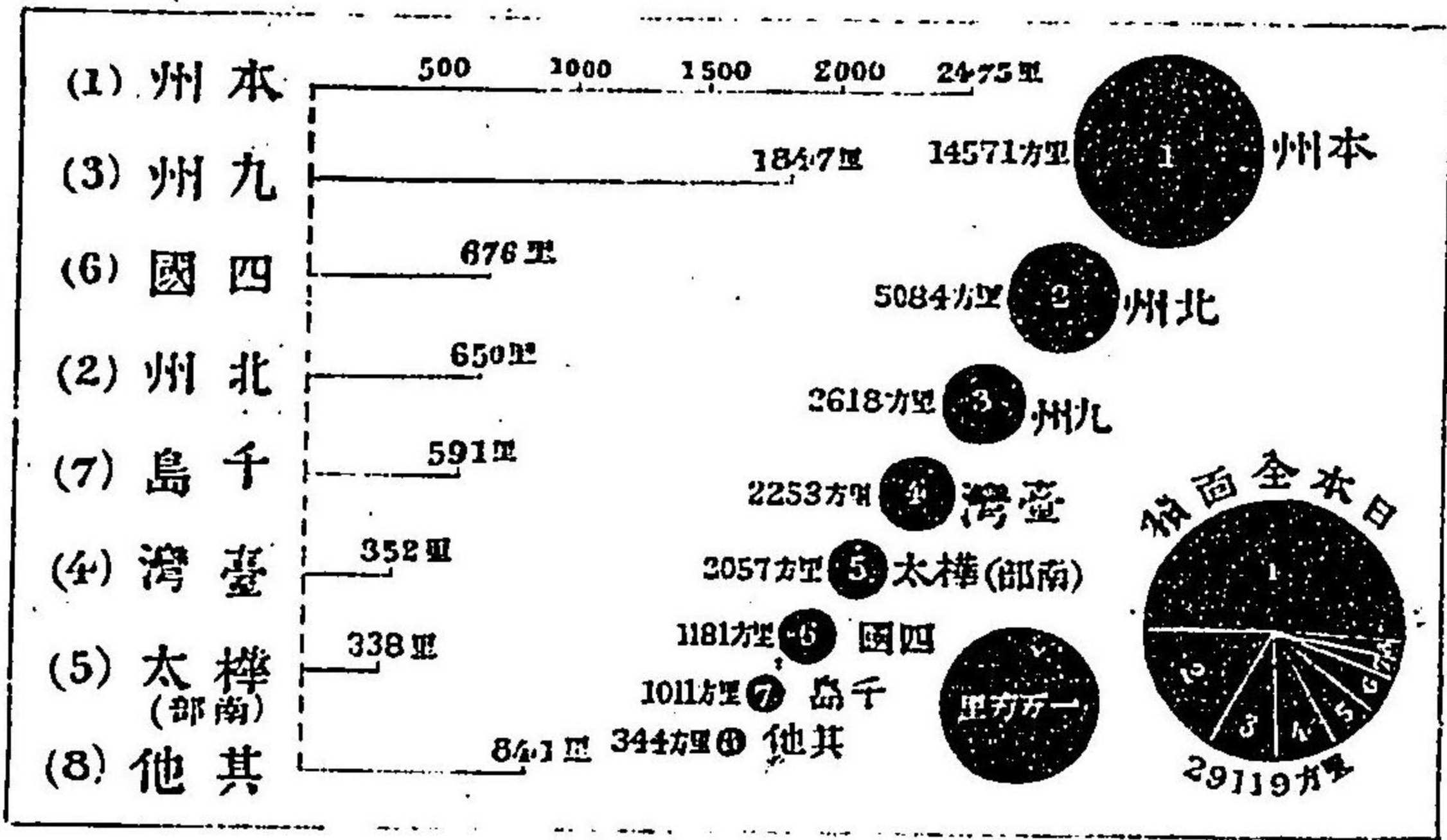
(六) 氣候。 國ノ氣候ハ、山河ノ形勢、海洋ノ位置、海流ノ方向、其ノ他、多般ノ事情ニヨリテ、固ヨリ相同ジカラズト雖モ、大體ニ於テハ、赤道ヲ距ルノ遠近ニ從テ、異同アルコト、言フ須タズ。

我が邦土ハ、臺灣ノ南部、少シク熱帶ニ跨ルト雖モ、國ノ大部ハ、北溫帶ニ屬シ、新附ノ領土、樺太ノ寒ト雖モ、尙寒帶ニ達セザルコト、甚ダ遠シ。故ニ、氣候ハ、全體ニ溫和ニシテ、山海各種動植物ノ發育ニ適シ、生業ノ進歩發達ニ至便ナリ。唯而カク生活ニ適應セル土地タルノ事情ガ、數百年來領國政策ノ餘弊ト相須テ、國民ノ郷土愛着心ヲ、過度ニ強大ナラシメタルハ、興國ノ氣運ニ妨グル所、尠シトセズ。

面積

(七) 面積。 我が領土ノ面積ハ、臺灣及ビ樺太ヲ加フルトキハ、約二萬九千方里アリ。舊來ノ領土ノミヲ以テスルモ、約二萬四千八百方里、即チ約十四萬七千七百方哩アリテ、之ヲ歐洲ノ強國ニ比スルモ、其ノ本國ノミヲ以テスレバ、英國ハ、十二萬餘方哩ニシテ、我ヨリ小ニ、佛獨兩國ハ、我

第一圖



ヨリ、約六萬方哩大ナルニ過ギズ。我が國ノ國勢、彼等諸國ニ比シテ、弱小ナルヲ免レザルハ、近世ノ文化ニ浴スルコト、彼ヨリ遅ク、海外ノ屬地ヲ有スルコト、彼ノ如ク、大ナラザレバナリ。近年我が國運大ニ發展シ、嚮キニ臺灣ヲ獲得シ、今ヤ樺太ヲ回復シ、又關東州ノ租借權ヲ得、更ニ韓國ヲシテ、我が保護權ノ下ニ立タシメ、爲ニ我が主權ノ舊領土以外ニ及ブモノ、稍廣キヲ致セリ。我が領土中、面積ノ最モ大ナル

ハ、固ヨリ本州ニシテ、全領土ノ約半ヲ占メ、北海道、九州、臺灣、四國順次之ニ次グ。  
我ガ領土ノ面積ヲ、各主要島別ニ示セバ、左ノ如シ。

第六表

主要島別面積比較表		土地別	木	地	島	合	計	百分比
本州	14,492,211	7,809,100	14,571,112	49.69				
四國	1,151,334	2,904,333	1,180,677	4.93				
九州	2,311,866	3,056,668	2,617,544	8.93				
北海道	5,056,678	2,700,900	5,083,877	17.34				
千島	1,011,499		1,011,499	3.45				
佐波	56,633		56,633	0.19				
隱岐	21,818		21,818	0.07				
淡路	36,555		36,555	0.13				
壹岐	8,555		8,555	0.03				
對馬	43,955		43,955	0.15				
合計	28,670,566	14,418,377	28,670,566	100.00				

琉球	小笠原	澎湖	樺太	總計	關東州租借地	韓國
156,911	4,500	2,253,212	8,007	2,512,630	205,000	11,090,110
0.54	0.01	7.68	0.03	8.85	0.72	38.62

關東州租借地ハ、事實我ガ領土ト擇ブ所ナシト雖モ、名義上ノ主權ハ、尙清國ニ在ルヲ以テ、茲ニハ、別ニ之ヲ掲グ。  
關東州ノ外、韓國月尾島及ビ絕影島ノ一部ハ、往年、我ガ海軍貯炭所トシテ、租借權ヲ獲得セシ所ナリ。  
韓國ハ、名義上獨立國ナリト雖モ、明治三十八年十一月十七日調印韓國保護協約ハ、我ニ完全ナル保護權ヲ與ヘタルヲ以テ、今ヤ、韓國ト我ガ

國トノ關係ハ、英國ト埃及佛國トチユニス。安南トノ關係ニ相似タリ。終リニ、左ニ主要ナル列國ノ面積ヲ表示スベシ。

第七表

列國面積比較表。

國名	本國	屬地	合計
英吉利	111,300,000 <sup>方哩</sup>	11,260,950 <sup>方哩</sup>	122,560,950 <sup>方哩</sup>
佛蘭西	507,000,000	4,089,076	511,089,076
獨逸	508,830,000	1,017,820	509,847,820
露西亞	8,648,395	—	8,648,395
奧國	241,330,000	19,767	241,349,767
伊太利	110,550,000	188,538	110,738,538
亞米利加	22,970,330	7,790,717	30,761,047
合衆國	1,311,320,000	2,840,000	1,314,160,000
暹羅	330,000,000	—	330,000,000
日本	147,957	98,975	246,932

備考 本表ノ屬地ニハ、租借地及ビ保護國ヲ包含ス。又北米合衆國ノアラスカ布哇

等ハ、屬地ニ入ル。露西亞ノ領土ニ就イテハ、政家年鑑所載ノモノヨリ、樺太南部ノ面積概算一萬二千方哩ヲ控除セリ。日本ノ屬地中ニハ、臺灣澎湖島樺太南部關東州、韓國ヲ含ム。

### 第二節 帝國領土擴張ノ沿革

太古我が大日本帝國ノ歴史ハ、遼瀋トシテ、其ノ詳細ヲ知ルニ由ナシ。伊弉諾伊弉册ノ二神、始メテ大八洲ヲ生成シ、二神ノ御子天照大神靈德ヲ備ヘ、神威八紘ニ震ヒテ建國ノ業、茲ニ大成ス。大八洲トハ、今ノ淡路四國、隱岐九州對馬壹岐佐渡及ヒ本州ヲ指ストイヘルモ、神代ニ於テハ、之ヲ詳ニシ難シ。天皇ニ入りテ、歴史ハ、漸ク明カニナルト共ニ、帝國領土擴張ノ事實モ、之ヲ闡明ニシ得ルナリ。

#### 神武ノ創業

##### (一) 神武ノ創業

神武天皇ハ人皇第一代ノ天皇ナリ。祖宗ノ遺烈ヲ承ケテ、日向ニ在ス。天資英邁ニシテ國土統一ノ大志アリ。皇族及ビ群下ヲ率キテ、日向ヲ發シ、水路ニ由リテ、筑紫安藝等ヲ經、吉備ニ至リ、居ルコト數年、過ミテ浪速ノ國ニ着シ、河内紀伊ヲ經、沿道到ル所、土表ヲ征服シテ、大和ニ入り、地ヲ槇原ニトシテ、大都ヲ奠シ、九五ノ位ニ即キ玉フ。之ヲ我が國ノ紀元元年トシ、大日本帝國百世ノ基礎茲ニ成ル。恰モ西曆紀元前六百六十年ニシテ、周ノ惠王三十七年ニ該當セリ。

四道將軍ノ配置

及ビ日本武尊ノ東征

當時帝國領土ノ區域ハ、明瞭ナラズト雖モ、今ノ大和國ヲ中樞トシテ、近畿諸州ハ、王化ニ浴シ、中國・四國・九州モ亦皇威ニ服シタルコトハ、略ホ疑ナ容レズ。而シテ、東方諸國ニ至リテハ、一部遠征軍ノ多少足跡ヲ印シタルモノアルベキモ、未ダ完全ニ我が統治權ノ下ニ屬セザリシナルベシ。

(二) 四道將軍ノ配置及ビ日本武尊ノ東征。

人皇十代崇神天皇ニ至リ、荒服ノ地王威ニ從ハザルヲ以テ、北陸・東海・西海及ビ丹波ニ四人ノ皇族ヲ簡派シ、四道將軍トイフ。四道將軍能ク任ニ適シテ、綏撫督懲宜キヲ制シ、其ノ東海ニ派セラレタルハ、遠ク合津ニ入ル。是ニ至リテ、我が皇ノ恩威大ニ行ハル、ニ至レリ。

崇神天皇ノ朝(紀元七百七十年)東國地方ニ蕃居セル蝦夷、俗強暴悍ニシテ、王化ニ服セズ。天皇日本武尊ニ命ジテ、之ヲ征セシム。尊乃チ大和ヲ發シ、伊勢・尾張・三河・遠江ヲ經、駿河ニ入り、賊ヲ破リテ、伊豆・相摸ヲ略シ、海ヲ渡リテ、房總半島ニ進ミ、更ニ轉ジテ陸奥ニ入り、到ル所賊酋ヲ征服シ、轉ジテ常陸ヨリ甲斐・武藏・信濃・美濃等ヲ巡歴シテ、伊勢ニ至リ、病ノ爲メニ薨ズ、之ヲ日本武尊ノ東征トス。

此ノ舉ハ、實ニ神武ノ創業ヲ完成シタルノ大事業ニシテ、奥羽極北部ヲ除クノ外、本州ノ全部ハ、茲ニ完全ニ我が領土主權ノ下ニ屬スルニ至レリ。

(三) 三韓征伐。日韓ノ交通ハ、崇神ノ朝、任那ニ日本府ヲ置キタルニ始マル。

三韓征伐

紀元八百六十年、神功皇后三軍ヲ率ヒテ、新羅ヲ征ス。新羅直ニ降り、高麗百濟ノ二國亦款ヲ納レ、三韓悉ク服ス。之ヲ三韓征伐トス。是レヨリ、三韓ハ、我が屬地トナリ、朝貢永ク絶エザリシモ、紀元千三百年代ノ終リ、推古天皇ノ朝ニ至リ、藩屬制御ノ弊ニ堪ヘズ、終ニ三韓ヲ棄ツルニ至レリ。居ルコト八九百年、豐臣秀吉ノ朝鮮征伐アリタリト雖モ、功終ニ成ラズ。

尙詳細ハ、第六篇外政ノ下ニ、外政ノ沿革ニ就イテ述ブル所ヲ看ルベシ。

(四) 北海道ノ收容。

北海道ノ收容

日本武尊東征以後、年所ヲ經ルニ從ヒ、皇化漸ク北陸ニ及ビ、本州ノ全部ハ、終ニ我が版圖タルニ至リタリト雖モ、北海道即チ蝦夷地ハ、猶未ダ化外ノ地タルヲ免レズ。齊明天皇ノ朝、阿倍比羅夫遠ク蝦夷ヲ征シタリト雖モ、邊陲ノ地、未ダ以テ我が領土ト爲スニ至ラズ。後坂上田村麿ノ武勇ヲ以テスルモ、津輕海峽ヲ以テ、彼我ノ分界ト爲スヲ得タルニ過ギズ。蝦夷ノ稍我が領土ノ觀ヲ呈スルニ至リタルハ、鎌倉時代ニ在リ。鎌倉ノ初、源賴朝、安倍貞任ノ末裔安藤季信ヲシテ、津輕ノ守護タラシメ、後又蝦夷ヲ管セシム。南北朝ノ頃、安藤貞季、松前ニ赴キ、下國氏ト稱ス。又若狹ノ人、武田武敏、蠣崎氏ノ女婿トナリ、蠣崎氏ヲ稱ス。其ノ孫、義廣、松前ニ在リテ、秀吉ニ屬ス。徳川氏ノ世ニ至リ、城ヲ福山ニ築キテ、氏ヲ松前ト改ム。

當時幕府ハ、北海道ヲ擧ゲテ、松前氏ノ治ニ一任シ、深ク之ニ干與スルコトナカリシ

モ、明和ノ頃ヨリ、露人北邊ニ出沒スルニ及ビ、幕府大ニ虞ル所アリ。寛政ノ頃、松前氏ヲ督シテ、兵備ヲ嚴ニセシム。享和三年、幕府自ラ東蝦夷地ヲ收メテ、箱館政廳ヲ開キ、奉行ヲ置ク。文化四年、更ニ西蝦夷地ヲ收メ、政廳ヲ松前ニ移シテ、松前奉行ヲ置キ、全蝦夷地ヲ統治セシム。文政四年、東蝦夷地ヲ松前氏ノ所領ニ復シタルモ、復々之ヲ收メテ、幕府ノ直轄トシ、箱館奉行ヲ置キテ、開拓ノ事ニ從ハシメ、南部津輕兩藩ニ命ジテ、北門警衛ノ任ニ當ラシム。之ヲ北海道收容ノ沿革トス。

千島樺太ノ交換

(五) 千島樺太ノ交換。千島及ビ樺太ハ、共ニ古來我が國民ノ往來シタル所タリシト雖モ、朔北ノ邊境、多ク之ヲ顧ミルモノナカリシ。然ルニ、明和二年、露國人始メテ占守島ニ來リ、繼テ擇捉得撫ニ至ル。其ノ後、漸次樺太北海道等ニ來リ、或ハ島嶼ニ占據シ、又五市ヲ乞フ。是ニ於テ乎、幕府大ニ警戒スル所アリ。吏員ヲ簡派シテ、極北ヲ巡見セシメ、終ニ蝦夷地ヲ以テ、其ノ直轄ト爲スニ至レリ。而モ、比年、日露人ノ間、小紛絶ユル時ナシ。嘉永六年、露國使ヲ遣ハシ、樺太ノ境界ヲ定メ、ノトヲ求ム。文久二年、幕吏露都ニ至リ、八月十九日、北緯五十度ヲ以テ、國境線トシテ、更ニ兩國ノ委員、實地ニ臨ンテ之ヲ確定センコトヲ約シテ歸ル。文久三年、露國ノ委員、樺太ニ來リタルモ、幕府舍テテ省セズ。國內紛亂、幕府之ニ應メルノ迫ナシ。慶應二年ニ至リテ、更ニ使ヲ露都ニ派シタルモ、議相協ハズ。樺太ハ、猶日露兩國ノ舊狀ヲ改ムルコトナシ。明

琉球ノ征服

治維新ノ後、同七年、榎本武揚ヲ特命全權公使トナシテ、露國ニ派遣シ、八年八月終ニ全樺太ヲ擧ゲテ、露國ニ附シ、千島列島ヲ我ニ讓テ、紛議茲ニ熄ム。此ノ條約ヲ、千島樺太交換條約ト稱ス。是ヨリ三十年間、樺太ハ、露國ノ領土タリ。

(六) 琉球ノ征服。

琉球開闢ノ歴史ハ、太古ニ屬シ、固ヨリ之ヲ詳ニスルヲ得ズト雖モ、其ノ舊史ニ於テ、開國ノ初、一男一女自然ニ生出セリトアリ。又一人アリ、天帝子ト稱ス。三男二女ヲ生ム。長男ヲ天孫氏トナシ、國君ノ始、次男ハ、按子即チ諸侯ノ始、三男ハ、百姓ノ始、長女ハ、君々ノ始メ、次女ハ、祝々ノ始トイフ。天孫氏ノ世、推古天皇以後、琉球人ノ我ニ往來シタルモノ、數次史上ニ散見セリ。文武天皇ノ朝、諸島ヲ分チテ二郡トシ、大隅國ニ屬セシメタリ。是レ琉球ノ我ガ屬地ト爲リタル始トス。爾來久シク我ガ藩屬タリシモ、淳和天皇ノ時、之ヲ大隅國管下ヨリ離シ、舊來ノ關係ハ、較其ノ薄キヲ致スニ至レリ。

後鳥羽天皇、文治三年、源爲朝ノ子、舜天王、逆臣ヲ誅シ、天孫氏ニ代リテ、王ト爲ル。此ノ年、幕府島津氏ヲ以テ、琉球諸島ノ地頭タラシム。是ヨリ子孫相續ギテ、襲職シタルヲ以テ見レバ、僻陬ニテ、其ノ政令十分ナラザリシトハ云ヘ、琉球ハ、猶我ガ風化ヲ受ケシモノト云フベシ。琉球ハ、舜天王ノ後、名君賢主相續ギテ、荒山セシガ、玉城王以來、國大ニ亂レ、國內ハ三分サレ、玉城王中央ニアリテ、中山王ト稱シ、今勝仁按司、北方ニアリ



テ北山王ト稱シ、大里按司南方ニアリテ、山南王ト稱ス。山南王察度、遂ニ中山王ヲ滅シテ、自ラ中山王トナル。後、龜山天皇文中元年、明主朱元璋新興ノ餘威ヲ以テ、中山王ヲ招ク。王乃チ臣ト稱シ、方物ヲ獻ズ。琉球ノ支那朝廷ニ款ヲ納レタルハ、之ヲ以テ嚙矢トス。是ヨリ先キ、我ニ南北朝ノ亂アリ、島津氏力ヲ南海ニ用キル能ハザリシガ故ニ、後醍醐天皇延元年間ヨリ、琉球ハ復タ島津氏ニ貢セザリシガ、是ニ至リテ、全ク明國ノ所屬ノ委トナレリ。稱光天皇ノ世、佐敷ノ按司尙己志、中山王ト爲ル。威徳アリ、討テ山南、山北ヲ亡ホシ、琉球茲ニ統一ス。實ニ後花園天皇永享元年ナリ。明之ニ姓ヲ賜フテ、尙ト稱ス。

此ノ如ク、支那ノ封册ヲ受ケタリト雖モ、未ダ全ク我が本土ト絶テルニアラズ。時々島津氏ニ來聘シ、或ハ襲撃ヲ賀シ、猶我レニ其シク禮ヲ失スルニハ至ラザリキ。然レドモ、其ノ我レニ對スル關係ハ、大國ニ從フニ過ギズシテ、臣事スルニアラズ。唯兩國ノ鼻息ヲ窺フヲ以テ、其ノ方針トセリ。之ヲ日明兩屬ノ時代トス。

土御門天皇文明二年、伊平屋島首見村ノ人、尙四推サレテ、琉球國王ト爲ル。今ノ尙氏ノ祖ナリ。

豊臣秀吉一統ノ後、島津氏ヲシテ、沖繩ヲ招カシム。尙寧王使者ヲ遣ハシ、大ニ秀吉ノ款待ヲ受ク。然ルニ、朝鮮ノ役起ルヤ、糧食ヲ琉球ニ課ス。誅求煩ナリ、尙寧怒ミテ

貢セズ。加フルニ、征韓ノ舉、功就ラザルヤ、琉球我レチ輕ンシ、明ノ封册ヲ受ケテ、其ノ援護ヲ恃ミ、我が命ヲ奉セズ、島津氏、之ヲ貢ルコト、數次効ナシ。慶長十四年四月、乃チ兵ヲ發シ、討テ之ヲ平ケ、尙寧ヲ擒ニス。之ヲ琉球ノ征服トス。是ヨリ琉球ハ、全然島津氏ノ領地トナレリ。尙氏ノ之ニ王タルハ、故ノ如シ。爾後、貢納聘問志ルコトナク、内治外交都テ島津氏ノ指揮ニ從フ。其ノ後、琉球猶竊ニ明清ノ封册ヲ受ケ、方物ヲ獻ズレドモ、幕府難ヲ懼レテ問ハズ。然レドモ、島メニ琉球ノ我が屬國タルノ事實ハ、未ダ全ク之ヲ失ハザリシナリ。

王政維新ノ後、明治五年九月十四日、琉球國王入朝ス。封シテ、琉球藩王ト爲シ、華族ニ列ス。同七年ニハ、沖繩縣人ノ爲メニ臺灣征伐アリ。同八年、清國ニ入貢スルコトヲ嚴禁シ、清ノ正朔ヲ奉ズルコトナカラシメ、以テ我が領土タルノ實ヲ舉ゲシメントス。島人巴ムヲ得ズシテ、一タビ之ニ服シタルモ、其ノ後、數次政府ニ哀訴シ、又歐米各國公使ニ頼リ、日清兩屬ノ舊ニ復セントス。清國之ヲ煽動シ、列國亦嗾ヲ容レントスルノ勢アリ、事稍紛糾ヲ見ルニ至ラントス。明治十二年、政府乃チ意ヲ決シ、琉球藩ヲ廢シテ、沖繩縣ヲ置キ、斷乎トシテ、之ニ臨ミ、以テオカニ事ナキヲ得タリ。是ニ於テ乎、琉球ハ、終ニ全ク我が完全ナル領土ノ一部ト爲レリ。

(七) 小笠原島ノ收容。小笠原島ハ、文祿二年、小笠原貞頼ノ發見セシ所ニシテ、未

小笠原島ノ收容

ダ、拓地、殖民ノ功ヲ擧グルニ至ラズ。然ルニ天保元年、伊太利人、其ノ徒屬十數人ヲ率キ來リテ、父島ニ住シ、繼テ英人數人、母島ニ來リテ居ル。嘉永六年、合衆國水師提督ハ、ルリ、我が國ニ來ルノ途次、薩泊シ、後其ノ部下ヲシテ、探檢測量ヲ終ヘシメ、標ヲ立テテ合衆國ノ領地ト爲サントセリ。幕府安ンセズ。然レドモ、時内外多事ニ際シ、手ヲ下スニ迫ナシ。文久元年、徳川氏巡檢使ヲ派シテ、各島ヲ測定シ、同二年ニ至リ、漸ク八丈島民數十人ヲ移住セシメタレドモ、國事多端、其ノ擧中道ニシテ廢ス。維新ノ後、明治六年、政府意ヲ茲ニ注キ、吏ヲ派シテ、島民ヲ治セシメ、始メテ小笠原島ニ於ケル領土權ヲ確定スルコトヲ得タリ。

臺灣ノ割取

(八) 臺灣ノ割取

臺灣ノ地、東亞ニ見ハレタルハ、隋煬帝ノ大兵ヲ擧ゲテ、之ヲ討チタルニ始マル。然レドモ、當時隋國ハ未ダ之ヲ以テ領土ト爲サズ。降リテ、元ノ世ニ至リ、澎湖島ニ巡檢使ヲ置キタルモ、明ニ至リテ、之ヲ廢セリ。

我が邦人ガ、臺灣ト關係ヲ有スルニ至リシハ、正確ニ何時ニアルヤチの知シ難シト雖モ、我が南北朝ノ末頃ヨリ、戰國ノ終ニ當リ、國內ニ志ヲ得ザル者ハ、孤劍扁舟ヲ長風ニ驅リテ、朝鮮支那ノ沿海地方ニ遠征ヲ企テ、草ヲ海賊ヲ業トシ、所謂ばは人船ノ到ル所皆風ヲ忽ミテ、之ニ墜ケリ。支那ニテハ、之ヲ倭寇ト稱ス。而シテ、臺灣ノ地ハ、本國ト支那トノ中間ニ在セルヲ以テ、此ノ地ニ根據地ヲ置キ、海上ノ利權ヲ占メ、或ハ臺

灣ノ蕃地ニモ入りテ、土蕃ノ征服ヲモナシタリ。尋テ、豐臣秀吉、海外經略ノ志アリ。臺灣ヲモ附屬セシメントシテ、原田孫七郎ガ呂宋ニ赴クノ途、此ノ國ニ書ヲ寄セテ、入貢ヲ勸メ、宛ツルニ高山國(タカサゴ)ノ稱號ヲ以テセリ。其ノ後、海賊ハ禁セラレ、外國交通ノ局面ハ、一變シテ、商人ノ支那南洋ノ貿易ニ從フ者多ク、臺灣ヘモ寄港移住スル者多キニ及ベリ。明政府ハ、乃チ巡檢司ヲ澎湖島ニ置キテ、日本人ノ侵略ニ備ヘタリ。徳川氏ノ初年、長崎ノ村山等安、家康ノ委任ヲ受ケテ、臺灣征伐ニ赴キシモ、後援ナクシテ、敗レ歸リ、爾來臺灣ヘ、和蘭人ノ爲メニ占領セラレ、屢日本人ト、和蘭人トノ間ニ葛藤ヲ生ジ、寛永五年ニハ、濱田彌兵衛ノ和蘭領事損害要償談判アリ。又西班牙人モ來リテ、諸種ノ事業ヲ計畫シ、西班牙、和蘭ノ衝突ヲ惹起シテ、遂ニ西班牙人ハ、和蘭人ノ爲メニ驅逐セラレタリ。

清朝ノ起ルヤ、明ノ遺臣鄭成功、恢復ヲ圖ラントシ、支那ノ南部ニ兵ヲ擧ゲシモ、清軍ニ敗ラレ、遂ニ臺灣ヲ占領シ、和蘭人ヲ逐ヒ、自ラ一國ヲ立テ、明ノ正朔ヲ奉ズ。其ノ孫、克映立ツニ及ビ、清軍ノ滅スル所トナリ、臺灣全島ハ、遂ニ清國ノ有ニ歸セリ。實ニ支那ノ康熙二十二年、我が靈元天皇、天和三年トス。

明治ノ世ニ至リ、四年、琉球人臺灣ニ漂着セル者、蕃人ノ殺戮スル所ト爲ル。七年、我が政府、罪ヲ清國ニ問フ、議協ハズ。此ノ年、蕃人又我が國人ヲ虐待ス。政府乃チ征蕃

ノ議ヲ決シ、軍ヲ遣ハシ、牡丹番ヲ征ス、之ヲ臺灣征伐ト謂フ。清國抗議ヲ提出ス。大久保利通全權辦理大臣トナリ、清國ニ赴キ和ヲ議シ、條約ヲ締結シ、償金ヲ得テ歸ル、之ヲ北京條約ト謂フ。

明治二十七年日清ノ役起ル。我が軍大ニ勝テ、同二十八年三月臺灣ヲ占領ス。和成ルヤ、清國臺灣ヲ割キテ、我レニ讓ル。時、正ニ明治二十八年五月八日ナリトス。

遼東半島ノ割取ト還付

(九)遼東半島ノ割取ト還付。日清ノ役、我が軍ノ全勝ニ歸スルヤ、清國和ヲ請ヒ、明治二十八年四月十七日、下ノ關ニ於テ、講和條約ノ調印ヲ畢ヘ、同五月八日、芝罘ニ於テ、條約書ノ交換ヲ爲シタリ。之ヲ下ノ關係約トス。

下ノ關係約ハ、朝鮮ノ獨立ヲ保證シ、清國ニ於ケル我が領事裁判權ヲ認識シ、貿易港ヲ開キ、軍費ヲ賠償スル外、清國ハ、我ニ臺灣諸島及ビ遼東半島ヲ割讓セリ。其ノ割讓セントスル遼東半島ノ區域ハ、安平河口、海城營口ニ亘ル折線以南ノ地タリ。然ルニ、忽チ露佛、獨三國ノ干渉的提言アリ。同二十八年十一月八日、更ニ清國ト條約ヲ訂結シ、僅少ノ報償ヲ得テ、遼東ノ地ヲ、清國ニ還附セリ。後幾ナラズシテ、獨逸ハ膠州灣ニ於テ、露國ハ、旅順、大連ニ於テ、佛國ハ、廣州灣ニ於テ、各清國ヨリ一定ノ地域ヲ租借セリ。尙詳細ハ、第六篇外政ノ中沿革ニ就イテ陳アル所ヲ看ルベシ。

樺太ノ割取

(一〇)樺太ノ割取。遼東半島ノ還付ハ、遂ニ以テ東洋ノ平和ヲ維持スルニ足ラズ。

關東州ノ租借

明治三十七年、日露隙ヲ播ヘ、連戰一年有半、我が軍大ニ勝テ、北米合衆國ポーツマスニ於ケル日露全權大使ノ談判ハ、三十八年九月五日、終ニ講和條約ノ調印ヲ了リ、樺太島南半部即チ北緯五十度以南ハ、茲ニ帝國ノ版圖ニ歸スルニ至レリ。明治八年以降露國ノ之ヲ領有セルコト、僅ニ三十年トス。

(二)關東州ノ租借。遼東還付ノ翌年、明治二十九年五月、露帝戴冠式ノ典アルヤ、清國ハ、李鴻章ヲシテ、露都ニ使セシム。其ノ要彼得堡ニ着スルヤ、李ハ露國ト密約ヲ締結セリ、之ヲカシニ「密約ト稱ス。其ノ約款ノ主要ナルモノハ、膠州灣ノ租借權ヲ、露國ニ與フルコト、清國ハ、旅順口、大連灣ノ防備ヲ嚴ニシテ、有事ノ日、之ヲ露國ノ用ニ供スルコト、及ビ滿洲鐵道敷設權ヲ、露國ニ許スコトニ在リタルガ如シ。然ルニ、此ノ密約未ダ實行セラレザルノ時ニ於テ、明治三十年、獨逸ハ、口ヲ宣教師遭難ニ藉リテ、膠州灣ヲ占領シ、終ニ之ガ租借權ヲ獲タルヲ以テ、露國ハ、爲メニ刺激セラレ、同年十二月、軍艦ヲ遣ハシテ、旅順口ヲ占領シ、清國ニ迫ルニ、膠州灣ト同一條件ヲ以テ、租借ノ權利ヲ得ンコトヲ以テセリ。明治三十一年三月二十七日、露清約成リ、清國ハ、獅子高懸關店以南ノ地ヲ割キテ、露國ニ租借權ヲ與ヘタリ。露國ハ、即チ旅順口ノ防禦設備ヲ完

ウシ、以テ東洋ニ於ケル多年ノ計策タル唯一ノ不凍港ヲ得、又大連灣ヲ經理シテ、滿洲鐵道ノ東洋ニ於ケル起點トシ、以テ一ハ滿韓ノ領土主權ヲ迫害シ、一ハシベリヤヲ開

立 韓國保護權ノ確

發シ、且歐亞ノ交通、貿易ヲ占斷スルノ策ヲ立テタリ。  
明治三十七八年ノ役、我が大勝ニ歸シ、ポーツマスノ和議成ルニ及ビ、露國ハ、關東州ノ租借權ヲ、我ニ讓與シタルヲ以テ、明治三十八年十二月二十二日、清國ト條約ヲ結ビ、從來露國ガ關東州ニ於テ租借シタル地域ハ、終ニ我が租借地ト爲ルニ至レリ。遼東還付ヲ距ルコト、實ニ約十年ナリトス。

(三) 韓國保護權ノ確立。三韓ガ、久シク我ト外交上ノ關係ヲ絶テタルハ、三韓征伐ノ下ニ、之ヲ略述セリ。

明治維新ノ後、征韓論起リテヨリ、日韓ノ關係年ニ紛糾シ、清國ト對韓勢力ヲ競ヒテ、日清戰役ト爲リ、以テ清國ヲ半島ヨリ逐フヤ、露國代リテ、我が施設ニ抵抗シ、終ニ日露戰役ヲ醸シ、我レ大ニ勝ツ。明治三十八年九月五日、米國ポーツマスニ於テ、日露講和ノ約ヲ締結セリ。

ポーツマスニ於テ、日露全權ノ講和談判ヲ議スルノ時、明治三十八年八月十二日、日英新協約成ル、攻守同盟條約ナリ。此ノ條約ハ、帝國ガ、韓國ニ於テ、政事上、軍事上、經濟上、卓絶ナル利益ヲ有シ、其ノ利益ヲ擁護増進セムガ爲メ、必要ナル指導管理保護ノ措置ヲ爲スコトヲ公認セリ。而シテ、ポーツマス條約ハ、明ニ同一意義ノ一條ヲ加ヘ、露國ヲシテ、余ク其ノ野心ヲ韓國ニ絶タシメタリ。

領海ノ意義

降リテ十一月十七日、日韓新協約成ル。新協約ハ、日英新協約及ビ日露講和條約ノ公認セル所ニ逐ヒ、帝國ハ、韓國ノ外交權ヲ我レニ收メ、又我が代表者トシテ、京城ニ統監ヲ置クコトヲ定メタリ。乃チ各國公使ハ、漸次國旗ヲ撤シテ、韓國ヲ去リ、韓國ノ外交ハ、我が震盪ニ於テ、之ヲ行フコトナレリ。是ニ於テ乎、韓國ハ、埃及ノ英國ニ於ケル、サニスノ佛國ニ對スルガ如ク、今ヤ全ク、我が保護國ノ位置ニ立チ、神功皇后三韓征伐ノ遺業ハ、約一千七百年ノ後、數倍ノ成功ヲ以テ、復興スルヲ得タリ。明治三十九年二月一日、統監府及ビ理事廳成ル。理事廳ハ、舊時ノ領事館ニ該當スルモノナリ。韓國ニ關スル外交ノ沿革ニ付テハ、第六篇外交ノ下ニ、陳ブル所ヲ參照スベシ。保護國ハ、固ヨリ國法上ノ領土ニアラズト雖モ、事實ニ於テハ、領土ト敢テ擇ア所ナシ。是レ玆ニ我が國勢ノ隆替ヲ示スガ爲メ、領土擴張ノ沿革ノ下ニ、韓國ヲ説キタル所以ナリ。

第二章 領海

領海トハ、版圖ヲ構成セル海ノ部分ナリ。

Territorial Seas. 海面ハ、領海ト公海トニ分ツ。公海トハ、何レノ版圖ニモアラズ、諸國

民一樣ニ之ヲ使用シ、又之レヨリ利益ヲ舉グルヲ得ル海面ニシテ、海洋ノ大部分ハ、之ニ屬ス。領海ハ、之ニ反シテ、一國主權ノ支配ノ下ニ在ルモノナリ。

領海ノ區域

領海ト、公海トノ境界ハ如何

領海ノ區域ハ、海岸ニ沿ヒ、干潮(低潮)線ヨリ三哩ノ點ヲ連結シタル線内海面ニシテ、其ノ陸地ヲ所有スル國ノ版圖タリ。其ノ他ノ海面ハ、總テ公海トス。

領海ノ區域ヲ三哩ト爲シタルハ、當時ニ在リテ、砲彈ノ到着スベキ距離ハ、凡ソ三哩ナリシニ基キタルモノニシテ、以爲ラク海面ヲ以テ、一國ノ版圖ト爲スニハ、國家ハ之ヲ防衛スルノ實力アル範圍タルヲ要スト。干潮線ヨリ三哩以内ヲ以テ、領海トスルノ原則ニハ、一、二ノ例外アリ。港灣又ハ内海ニシテ、其ノ海峡六哩以内ナル場合ニ於テ、其ノ兩岸共ニ一國ノ領土タルトキハ、其ノ海峡以内ノ海面ハ、總テ領海ニシテ、干潮

線ヨリ三哩以内ナリヤ否ヤヲ問フヲ須キズ、我が瀬戸内海ノ如シ。

海峡ノ幅員六哩以内ナル場合ニ於テ、其ノ兩岸ノ所屬相異ルトキハ、海峡ノ中央ヲ以テ、相互領海ノ境界トス、從テ其ノ干潮線ヲ去ル里程ハ、共ニ三哩以内ナリ。

領海ノ區域ヲ擴張スベシトノ論ハ、近世大砲ノ着弾距離延長セルト共ニ、世論ニ上リ、西曆一千八百九十三年ジエネバ<sup>ジュネーブ</sup>府ニ開キタル萬國國際法協會ハ、之ヲ六哩ト爲サントスルノ希望ヲ決議シ、又實例ニ於テモ、海口十哩以内ノ港灣ハ、總テ領海トセルモノアリト雖モ、未ダ共ニ確定セラル國際法ナリト稱スルヲ得ザルガ如シ。

領海ニアラズト雖モ、各國ハ、之ニ對シテ、漁業取締其ノ他ノ規則制限ヲ設クルコトアリ。又數國相協定シテ、公海ニ於ケル漁業區域ヲ定メ、又漁獵ノ方法ヲ制限スルコトアリ。然レドモ、是等ハ、單ニ其ノ關係諸國ノ人民ニ對シテ、効力ヲ有スルニ過ギズシテ、以テ他國ノ人民ヲ支配

スルコトヲ得ズ。故ニ、其ノ海面ガ、一定ノ國家ノ主權ノ下ニ屬シタルモノト謂フベカラザルコトハ、明白ナリ。

### 第三章 結論

我が邦土ハ、蜿蜒トシテ、東亞ノ全面ヲ掩ヒ、自カラ東洋ノ霸權ヲ掌握スベキ勞ヲ爲シ、氣候溫和ニシテ、地味豐沃、各種海陸ノ産物ニ富ミ、住民智アリ、情アリ、又勇アリ。加フルニ、二千五百有餘年ノ歴史ハ、國民義勇奉公ノ美德ヲ涵養シテ、世界其ノ比ヲ見ズ。封建ノ世、鎖國ノ政策ハ、人爲ヲ以テ、國運ノ發展ヲ防遏シタリト雖モ、明治ノ維新ハ、天成ノ能力ト、積世ノ蘊蓄トヲ發揮シ、開國未ダ四十年ナラズシテ、國威八紘ニ揚リ、直ニ宇内列強ノ班ニ入ルコトヲ得タリ。然レドモ、翻テ天下ノ大勢ヲ觀レバ、大小無數ノ列國、互ニ勢力ノ擴張ニ力メ、邦土ノ大國富ノ饒、文物ノ盛ニ於テ、我ノ遠ク及バザルモノ、亦尠カラズ。生ヲ帝國ニ享クル者、豈

大ニ奮ハザルベケンヤ。

## 第二篇 政治

### 第一章 國家ノ組織

國家ノ意義

●國家トハ、一定ノ土地ニ住スル人民ノ團體アリテ、之ヲ統御スル權力主體ノ存在スル組織ヲ謂フ。故ニ、國家タルニハ、版圖ト、國民ト、政治組織トノ三要素アリ。

羅馬法王ハ、版圖ヲ有セズ、故ニ羅馬 (See and Church of Rome) ハ、國家ニアラズ。古代遊牧ノ民ハ、一定ノ土地ニ占據セザルノミナラズ、又政治組織ヲ有セザルヲ以テ、固ヨリ國家ト稱スベキニアラズ。假リニ、何レノ國籍ヲモ有セザル人類團體アリ、首長ヲ奉戴シテ、阿非利加内地ニ侵入シ、首長ハ、其ノ團體員ニ對シテ、絶對無限ノ權力ヲ有スルモノアリトスルモ、一定ノ土地ヲ領有スルニ至ラザレバ、是レ亦國家ヲ形成セズ。

權力ノ意義

國家ナル文字ハ、場合ニ依リテ、其ノ意義ヲ異ニス。或ハ一定ノ組織ヲ稱シ、或ハ治者ヲ指シ、或ハ被治者ヲ示ス。故ニ國ノ主權者ヲ以テ、國家ト呼ブコトアリ。一定ノ土地ニ住スル人民ノ政治的集合體ヲ以テ、云フコトアリ。茲ニ國家ト稱スルハ、一定ノ組織ノ意義ニ於テス。

●權力ハ、國家ノ要素ナリ。●權力トハ、●權利ニ對スルノ語ナリ。●權利ハ、●權力ノ保護ノ下ニ於テ、主張スルコトヲ得ル平等ノ力ナリ。●權力ハ、之ニ反シ、更ニ他ノ制肘ヲ受ケズシテ、其ノ被治者ヲ強制スル不平等ノ力ナリ。

●權力ハ、●國家主權者獨リ之ヲ有ス。●國民ハ、●絶對ニ之ニ服從セザルベカラズ、故ニ不平等ナリ。然レドモ、●權利ハ、例ヘバ土地所有權ト謂ヒ、貸金請求權ト謂フガ如ク、●國民ハ、甲乙ノ區別ナク、等シク、之ヲ行使スルヲ得ルモノニシテ、即チ平等ノ力ナリ。而シテ、之ヲ行使スルニ付テハ、●國家權力ノ保護ニ依リテ、初メテ、其ノ要求ヲ完ウスルヲ得ルモノトス。

政體

故ニ國家ノ成立セザル以前ニ於テハ、未ダ權力ナルモノナカリシト共ニ權利ナルモノノ存スルコトナシ。狡智ニ長ジ、膂力ノ優レタルモノハ、何ノ理由モ原因モナクシテ、他人ノ財產ヲ奪ヒ、生命ヲ損シ、而カモ之ニ制裁ヲ加フルモノナケレバナリ。

國家ハ、其ノ組織ノ異同ニ從テ、政體ノ別ヲ生ズ。政體ハ、其ノ觀察點ニ從テ、二様ノ方面ヨリ之ヲ分類シ、更ニ之ヲ合シテ、四様ニ區別ス。

主權ノ孰レニ存在スルヤヲ以テ、標準ト爲ストキハ、政體ハ、君主國ト民主國トノ二種トナリ、余ハ更ニ之ニ君民國ナルモノヲ加ヘントス。

統治ノ方法ニヨリテ、政體ヲ區別スルトキハ、專制國及ビ立憲國ノ二種アリ。

今縱横兩様ノ觀察方法ヲ合シテ、政體ノ別ヲ示セバ、左ノ如シ。

- 君主國……………立憲君主國……………例、日本。
- ……………專制君主國……………例、土耳其。

君民國……………立憲君民國……………例、英國。

民主國……………立憲民主國(共和國)……………例、北美合衆國。

君民國ト民主國トニ、專制國ナキハ、其ノ組織ノ性質上、專制ヲ容サザンバナリ。

君主國及ビ民主國ハ、普ク人ノ知ル所ニシテ、之ヲ説クノ要ナカルベク、君民國トハ、其ノ主權ガ、我ガ帝國、其ノ他君主ヲ奉ズル普通ノ國家ニ於ケルガ如ク、元首一人ニ歸屬セズシテ、英國ニ於ケルガ如ク、君主ト國民(議會之ヲ代表ス)トガ、相須テ、主權者タルノ政體ヲ有スルモノヲ謂フ。

專制國トハ、主權者ハ、何者ニモ束縛セラルルコトナク、單ニ自己ノ意思ニ從テ、國權ヲ行使スルモノニシテ、立憲國トハ、主權者ハ、自ラ一定ノ準則ヲ制定シ、之ニ從テ、統治權ヲ行フモノナリ。其ノ準則ヲ憲法ト稱ス。

立憲國ニハ、國民ノ選出セル議員ヲ以テ組織セル議會アルヲ常トス。



南北亞米利加洲諸國ハ、皆新開國ナルヲ以テ、都テ立憲國タリ。近世文明ノ淵藪タル歐羅巴洲ニ於テハ、世界ノ最小國タルモナコ國ト、モンテネグロ國ト、半歐半亞ノ土耳其國トヲ除クノ外、各國共ニ亦立憲制ヲ以テ、其ノ政體トス。而シテ阿非利加洲ニハ、リベリヤ國、亞細亞洲ニハ、我が大日本帝國ノ外、立憲國アルコトナシ。

我が國ノ政體

我が國ノ政體ハ、古來專制君主國ナリシモ、明治二十二年二月十一日、憲法ヲ發布セラレ、翌二十三年十一月廿九日、帝國議會ノ開會ニ依リテ、立憲君主國トナレリ。

歐洲諸國ト雖モ、舊時ハ、東洋列國ト同ジク、專制君主國ナリシガ、其ノ憲法ヲ制定シテ、立憲政體ニ轉移スルニ際シテハ、血雨腥風ノ相隨伴セザルモノ少シ。然ルニ、我が國ノ憲法ハ、天皇親カラ國民ノ福利ヲ増進スルヲ念トシテ、欽定セラレタルモノニシテ、君民和氣霽々タル斐ニ、發布セラレタルモノナリ。是レ我が國民ガ、大ニ宇内列國ニ誇ル所トス。

蓋シ、我が國ハ、二千五百年來、天孫萬世一系之ニ君臨シ、而カモ上下一族ニシテ、君民相輯睦シ、君ノ民ヲ視ル、赤子ノ如ク、民ノ君ヲ仰グ、父母ノ如ク、宇内其ノ比儔ヲ見ザルノ國體ナリ。故ニ、君ノ軫念シタマフ所ハ、國民ノ休戚ニシテ、民ノ志ス所ハ、義勇奉公ノ誠ナリ。是レ我が憲法ガ、平和ノ間ニ制定セラレタル所以ナリトス。

帝國憲法

帝國憲法ハ、七章七十六條ヨリ成ル。第一章天皇、第二章臣民ノ權利義務、第三章帝國議會、第四章國務大臣及ビ樞密顧問、第五章司法、第六章會計、第七章補則トス。以上ノ各章ハ、統治權ノ歸屬、天皇ノ國法上ノ位置、大權事項、臣民ノ保障及ビ義務、議會ノ組織權限、國務大臣樞密顧問ノ職責、司法權ノ獨立、會計ノ確立等、政治上ノ大原則ヲ規定セリ。

憲法ハ、歐洲ニ於テハ、法律ノ一ナリトスルモノアレドモ、帝國憲法ハ、國法上最高特別ノ位地ヲ有スルモノニシテ、法律ニアラズ。固ヨリ勅令其ノ他ノ命令ニアラズ。法律命令ハ、憲法ノ下ニ在ルモノナリ。

帝國憲法ハ、天皇ノ親カラ設定セラレ、遵由セラルル條規ニシテ、決シテ天皇ノ主權ヲ制限スルモノニアラザルコトハ、尤モ注意ヲ要ス。次ニ天皇ノ章下ニ於テ、之ヲ詳述スベシ。

### 第二章 天皇

大日本帝國ハ、萬世一系ノ天皇之ヲ統治シタマフコト、二千五百年來、國史ノ説明セル萬古不易ノ國體ニシテ、又帝國憲法第一條ノ明記セル所タリ。

天皇ノ國法上ノ位地

天皇ハ、帝國ノ元首ニシテ、統治權ヲ總攬シタマフ、即チ主權者タリ。天皇ハ、憲法ノ條規ニ依リ、統治權ヲ行ハセラルルト雖モ、天皇ハ、憲法上ノ機關ニアラズ。憲法ハ、決シテ天皇ノ主權ヲ制限スルモノニアラズ。天皇ハ、憲法以上ニ在リ。憲法ハ、天皇ノ欽定セラレタル所ニシテ、憲法ガ、天皇ニ主權ヲ附與シタルニアラズ。是レ我が政體上、苟モ忘ル

ベカラザル所タリ。

天皇ノ憲法ニ遵ハセラルルハ、天皇親カラ準則ヲ定メラレタルニ過ギズ。憲法ハ、天皇ヲ束縛スルノ力ヲ有スベキモノニアラザルヲ以テ、國法上ノ見地ヨリスレバ、天皇ハ、憲法ヲ廢棄セラルルコトアルモ、主權者當然ノ行爲タリト謂ハザルベカラズ。

以上述ブル所ハ、我が國體上當然ノ推論ニシテ、毫モ疑ヲ容レザル所タリト雖モ、是レ國體上ノ名分ヲ正シタル國法論ニシテ、苟モ一タビ憲法ヲ制定シ、之ニ遵據スルコトヲ宣ラセタマヒタルニ於テハ、天皇ノ妄リニ此ノ大典ヲ變更セラルベキ理ナキコトハ、亦多言ヲ要セザルナリ。天皇ハ、神聖ニシテ侵スベカラズ。是レ憲法第三條ニ規定セル所ナリ。

神聖不可侵

神聖不可侵トハ、國法上ノ意義ニ於テハ、天皇ハ、國法ニ依リテ、何等ノ制限ヲ受クルコトナキノ意ニシテ、是レ我が歷史上、當然ノ事理ニ屬ス。

大權

皇位繼承

而シテ、其ノ道徳上ノ意義ニ於テハ、天孫ノ裔ニシテ、現神タリ。臣民苟モ忤ルベキニアラズ、又議スベキニアラズト謂フニ在リ。國史ノ粹ヲ説キ來リテ、簡且明ナリト謂ツベシ。

天皇ハ、大權ヲ總攬シタマフ。大權トハ、統治權ニシテ、主權者ノ力ナリ。

天皇ハ、國務大臣帝國議會、其ノ他凡百ノ機關ヲ設ケテ、政務ヲ行ハシメタマウ。是等ハ、皆大權ノ委任ニ依リテ、各其ノ職ヲ奉ズルモノナリ。政務ニ、天皇親カラ行ハセラルルモノト、機關ノ行フモノトアリ。天皇親カラ行ハセラルルモノヲ、大權事項ト稱ス。

大權事項ノ主要ナルモノハ、立法權、議會ノ召集開會閉會、停會、衆議院ノ解散、緊急勅令ノ制定、普通勅令ノ制定、陸海軍ノ統帥、宣戰講和、條約締結、戒嚴宣告、榮典授與、大赦、特赦等トス。

皇位ハ、祖宗ノ皇統ニシテ、男系ノ男子、之ヲ繼承シタマウ。皇位繼承

攝政太傅

ノ順位ハ、皇長子ヲ第一トシ、其ノ次ヲ皇長孫トス。皇長子孫アラザルトキハ、皇次子及ビ其ノ子孫トス。但シ、總テ嫡出ヲ先ニシ、庶出ヲ後ニス。故ニ皇嫡子孫皆在ラザルトキニアラザレバ、皇庶子孫ニ及バズ。

皇子孫皆在ラザルトキハ、皇兄弟及ビ其ノ子孫、皇伯叔父及ビ其ノ子孫、其ノ以上ノ最近親ノ皇族、順次大統ヲ紹キタマフ。

以上ノ順位ハ、皇嗣不治ノ大患アリ、又ハ重大ノ事故アルトキハ、皇族會議及ビ樞密顧問ニ諮詢シテ、變更セララルルコトアルベキモ、是レ固ヨリ、萬止ムヲ得ザル場合ヲ假定シテ定メラレタル規定ニ過ギズ。

天皇未ダ成年ニ達セラレザルトキハ、攝政及ビ太傅ヲ置ク。天皇久シキニ亘ルノ故障ニ由リ、大政ヲ親ラシタマウ能ハザルトキ、亦攝政ヲ置ク。

天皇ハ、滿十八年ヲ以テ、成年トス。

攝政ハ、皇族ニ限ル。其ノ順位ノ大要ハ、皇太子、皇太孫親王及ビ王、皇

后皇太后太皇太后内親王及ビ女王トス。共ニ成年以上タルヲ要シ、内親王女王ハ、配偶者アラザル場合ニ限ル。

太傅ハ、選命ヲ以テセラレザルトキハ、攝政ヨリ、皇族會議及ビ樞密顧問ニ諮詢シテ、之ヲ選任ス。

攝政ハ、天皇ノ名ニ於テ、大權ヲ行フモノニシテ、太傅ハ、天皇ノ師タリ。故ニ攝政ト大傅トハ、相兼スルヲ得ザルノミナラズ、攝政ノ子孫ハ、太傅ニ任ゼラルルヲ容サズ、又攝政ハ、獨斷ヲ以テ、太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ズ。

### 主要ナル列國ノ皇位繼承法ヲ、左ニ畧述スベシ。

列國ノ皇位繼承ノ制

英國。大不列顛及ビ愛耳蘭聯合王國ノ王位ハ、ハノーバー家ノソフア内親王ノ血統ニシテ、新教ヲ奉ズル者ニ限り、之ヲ繼承スルヲ得ルコト、維廉三世即位十二年ノ勅令第三章ノ定ムル所タリ。故ニ、英國ニ於テハ、女子モ亦王位ニ上ルコトヲ得。先王ビクトリアハ、有名ナル女王ナリ。

獨逸國。獨逸國皇帝ハ、千八百七十一年四月十六日制定ノ憲法ニ依リ、普魯西國

王當然其ノ位ニ即クヲ以テ國法トス。

普魯西國ノ王位ハ、ホーヘンツォルレルン家ノ男系ノ男子、嫡長ノ序ニ從テ、之ヲ繼承ス。

露國。露國ノ帝位ハ、ロマノフ家ノ世襲ニシテ、ピーター一世及ビホルノ勅令ハ、其ノ制ヲ定ム。其ノ制、正統ノ嫡出子ガ、長子相続ノ法ニ從ヒ、男ハ、女ニ先チテ、帝位ヲ繼グニ在リ。而シテ皇帝ハ、必ズ希臘正教徒タルコトヲ要ス。

清國。清國ノ皇位ハ、必ズシモ父子相承ケズ。皇帝ハ、己レヨリ年少ナル皇族中ヨリ、繼嗣ヲ選定ス。

暹羅。暹羅ノ王位繼承ノ制ハ、名義上父子相繼グニ在リト雖モ、事實ハ、必ズシモ然ラズ。王ハ、己レガ後嗣ヲ選定スルノ權アリ。

## 第三章 政治機關

政治ヲ分チテ、立法司法行政ノ三種ト爲シ、其ノ機關ハ、各獨立シテ、相侵スベカラザルモノナリトハ、佛國革命當時、盛ニ唱道セラレタル所ニシテ、之ヲ三權分立ト謂フ。

三權分立

政治機關ノ區別

三權分立ハ、正確ニハ、事實ニ適合セズ。蓋シ立法機關ハ、法ヲ定メ、司法機關ハ、之ヲ適用シ、行政機關ハ、法令及ビ裁判ノ下ニ於テ、裁量ニ依リ、政ヲ行フヲ以テ、三權分立ノ旨趣トスルニ在ルベシ。然レドモ、所謂三權ナルモノハ、決シテ機關ニ依リテ、劃然分別セルモノニアラズ。行政機關モ、立法ヲ爲シ、司法機關モ、行政ヲ爲シ、立法機關モ、法ヲ適用スル等、彼此相錯綜スルモノナレバナリ。唯三權分立ノ説ハ、各機關ノ最も主要ナル權限ニ從テ、分類シタルモノトスレバ、亦相當ノ意義アリ。故ニ本書ニ於テハ、世上普通ノ稱呼ニ從ヒ、政治ヲ立法司法行政ニ分チテ、既述スベシ。

政治ハ、機關ノ行フモノノ外、天皇ノ大權ニヨリテ、親カラ行ハセラルルモノアルコトハ、第二章ニ之ヲ述ベタリ。

大權事項ハ、天皇親カラ之ヲ行ハセラルルト雖モ、亦贊翼ノ機關ナクンバアラズ。茲ニ之ヲ大權機關ト名ヅク。

大權機關

立法機關

政治機關……司法機關

（行政機關

立法以下ノ三機關ニ付テハ、後ニ各篇ヲ改メテ、説明スベキヲ以テ、本章ニ於テハ、單ニ大權機關ニ關シテ、略述スベシ。

大權機關

大權機關ハ、國務大臣帝國議會樞密顧問ノ外、陸海軍機關中ニ、參謀總長、海軍軍令部長以下數多アリ。

國務大臣ハ、輔弼ノ重責ヲ負ヒ、帝國議會ハ、立法ニ協贊シ、樞密顧問ハ、諮詢ニ奉答シ、共ニ大權ノ發動ニ贊ス。

左ニ國務大臣及ビ樞密顧問ニ就テ、略述ス。其ノ他、帝國議會ニ就イテハ、第三篇立法、陸海軍ノ大權機關ニ就イテハ、第七篇第一章、第四章第四節、第五章第四節ニ於テ陳ツベシ。

國務大臣

●●●●●  
國務大臣ハ、憲法上ノ機關ナリ。憲法上ノ機關トハ、憲法ノ明文ヲ以テ、定メラレタル機關ノ義ニシテ、帝國議會、國務大臣、樞密顧問、會計検査院等、共ニ最も重要ナル機關ナリ。

樞密顧問

國務大臣ハ、天皇ヲ輔弼シテ、其ノ責ニ任ジ、凡テ法律勅令、其ノ他、國務ニ關スル詔勅ニ副署ス。是レ憲法第五十五條ノ定ムル所タリ。

國務大臣トハ、内閣總理大臣、各省大臣、及ビ特旨ニ依リ、内閣員ニ列セシメラルルモノヲ謂フ。各省大臣中ニハ、宮内大臣ヲ包含セズ。宮内大臣ハ、國務ニ與ルモノニアラズ。

特旨ヲ以テ、内閣員ニ列セシメラルル國務大臣ハ、極メテ例外ノ場合ニシテ、從來ノ例ニ於テハ、嘗テ樞密院議長ノ此ノ特命ヲ拜シタルコトアリ。現行ノ制、各省大臣ハ、外務、內務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信ノ九大臣トス。

國務大臣ハ、内閣ヲ組織ス。

内閣ハ、處務ノ便宜ノ爲メニ設ケタルニ過ギズシテ、國務大臣ハ、内閣ナル合議體ヲ成スニアラズ、各別ニ職權ト責任トヲ有スルモノナリ。

樞密顧問ハ、合議體ノ官府ナリ。其ノ官廳ヲ樞密院ト稱ス。

ス。樞密顧問ハ、元勳及ビ練達ノ人ヲ選ミ、天皇親臨シテ、重要ノ國務ヲ諮詢セラルル至高顧問府タリ。樞密顧問トハ、樞密院議長、副議長、樞密顧問官ノ總稱ナリ。顧問官ハ、二十八人ヲ定員トス。

内閣總理大臣及ビ各省大臣ハ、其ノ職權上、樞密顧問官タルノ地位ヲ有シ、議席ニ列シ、表決ヲ爲スコトヲ得。

樞密院ニハ、此ノ他、書記官長以下ノ職員アリ。

樞密院ニ諮詢セラルル事項ハ、(一)皇室典範ニ於テ、其ノ權限ニ屬セシメタル事項(皇位繼承順序ノ變更、攝政ノ設置、攝政順位ノ變更、太傅ノ選任、解職、皇室典範ノ改正)、(二)憲法及ビ附屬法律勅令ニ關スル草案及ビ疑義、(三)戒嚴ノ宣告、(四)緊急勅令、(五)罰則附ノ勅令、(六)列國交渉ノ條約及ビ約束、(七)樞密院官制及ビ事務規程ノ改正、(八)其ノ他、臨時ニ諮詢セラルル事項(例ヘバ、教育ノ基礎ニ關スル勅令、文官ノ任用分限、懲戒ニ關スル勅令)トス。

### 第三篇 立法

權力行為ハ、法規ト處分トニ大別ス。

法規トハ、將來ニ對スル一定ノ準則ニシテ、處分トハ、個々事件ノ處置ナリ。

法律勅令閣令省令府縣令郡令等ハ、法規ニシテ、營業免許ノ許否、租稅ノ賦課徵收ノ如キハ、處分ナリ。

立法トハ、廣義ニ於テハ、法規ヲ定ムルノ意ニシテ、上ハ、法律ヨリ、下、郡令ニ至ルマデ、苟クモ法則ヲ定ムルハ、立法ニアラザルコトナシ。然レドモ、本篇ニ於テ、立法機關ト稱スルハ、法律案ニ協賛スルモノノミヲ謂フ、帝國議會即チ是ナリ。

帝國議會ハ、立法ヲ爲スモノニアラズ。立法權ハ、元首ノ大權ナリ(憲法第五條)。議會ハ、法律案ニ協賛シテ、大權ノ發動ニ參與スル機關タルニ過ギズ。

立法ノ意義

立法ノ順序

議會ノ權限

立法ノ順序ハ、政府貴族院又ハ衆議院ヨリ、法律案ヲ提出シ、兩院ノ可決ニ依リテ、確定案トナリ、天皇ノ裁可ニ依リテ、法律ト爲リ、公布ニ依リテ、効力ヲ生ズ。

帝國議會ハ、貴族院及ビ衆議院ヨリ成ル。

帝國議會ハ、議會全體トシテ、職權ヲ有スルヲ本則トシ、或ル事項ニ付テハ、兩院各別ニ有スルコトアリ。

帝國議會ハ、合議體ノ議決官府ナリ。

帝國議會ノ權限ハ、(一)法律案ノ協賛、(二)豫算ノ協賛、(三)國債ヲ起スノ協賛、(四)豫算外國庫負擔契約ノ協賛、(五)決算ノ審査等ヲ主トシ、又憲法改正ノ企圖アルトキハ、勅命ヲ以テ、議會ノ議ニ附ス。是等ノ事項ハ、兩院ノ議、相合致スルコトヲ要ス。

政府ノ提出スル諸案ハ、兩院孰レヲ先ニスルモ可ナリ。唯豫算案ニ限リテハ、先ヅ衆議院ニ提出スルヲ要ス。

貴衆兩院各別ニ有スル權限ハ、(一)法律案ヲ提出スルコト、(二)上奏ヲ爲スコト、(三)政府ニ建議ヲ爲スコト、(四)人民ノ請願ヲ受ケ、之ニ意見ヲ附スルコト、(五)院内諸規則ヲ制定スルコト、(六)議員ノ資格ヲ審査議決スルコト、(七)議員ヲ懲罰スルコト等トス。

貴族院ハ、此ノ他、天皇ノ諮詢ニ應ジ、華族ノ特權ニ關スル條規ヲ議決ス。

貴族院ハ、皇族華族及ビ勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス。之ヲ細別スレバ、左ノ如シ。

- (1) 皇族議員
- (2) 華族議員
- (イ) 公侯爵議員
- (ロ) 伯子男爵議員
- (3) 勅任セラレタル議員

貴族院ノ組織

- (イ) 勅選議員
- (ロ) 多額納税議員

皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ、總テ貴族院議員ト爲ラル。皇族ノ成年ハ、皇太子皇太孫ハ、十八歳ニシテ、其ノ他ハ、二十歳トス。

公侯ノ爵ニ在ル者、滿二十五歳ニ達シタルトキハ、當然貴族院議員タリ。

伯子男爵ハ、當然議員トハ爲ラズ。滿二十五歳ニ達シ、其ノ同爵者ノ互選ニ當リタルトキハ、議員ト爲ル。

伯子男爵議員ノ數ハ、從來ハ、同爵者ノ五分ノ一ナリシガ、近年伯子男爵ノ著ク増加セルニ及ビ、明治三十七年四月、其ノ人員ヲ制限セリ。

制限ノ法、伯子男爵議員ハ、通ジテ、百四十三人ヲ超ユルヲ許サズ。之ヲ三爵ニ配當スルハ、各爵總人員ニ比例ス。若シ配當ノ結果、同爵者總員ノ五分ノ一ヲ超過スルトキハ、五分ノ一ヲ以テ限度トス。華族ニシテ、



勅選議員タル者ハ、固ヨリ此ノ制限ノ外タリ。明治三十七年ノ改選期ニ於テ、伯子男各爵ニ配當セラレタル議員ハ、伯十七人、子七十人、男五十六人トス。是レ此ノ制限ヲ設ケタル當時ノ現在ノ定數ナリ。

勅選議員トハ、國家ニ勲勞アリ、又ハ學識アル者ヨリ、特ニ勅任セラレタルモノニシテ、滿三十歲以上ノ男子タルヲ要ス。其ノ數ハ、百二十五人ヲ超過スルヲ許サズ。此ノ人員モ、亦伯子男爵議員ト同時ニ制限セラレタル數ニシテ、當時ノ勅選議員ノ現數ナリ。

多額納稅議員トハ、通俗所謂長者議員ニシテ、各府縣ノ富豪ヨリ選出シ、勅任セラレタルモノナリ。多額納稅議員ハ、各府縣ニ於テ、滿三十歲以上ノ男子、土地又ハ工業、商業ニ付、多額ノ直接國稅(地租所得稅、營業稅)ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ、一人ヲ互選ス。

伯子男爵議員及ビ多額納稅議員ヲ、被選議員ト謂フ。被選議員ニハ、任期アリ、七年ナリ。其ノ他ノ議員ハ、總テ終身議員トス。

第八表(別表)

貴族院議員數調

明治三十九年十月一日現在

合	北	沖	區 州 九						區 國 四				區 西 州 本						區 北 州 本						區 中 州 本														地 方 別																							
			鹿 計	宮 兒	大 分	熊 本	福 岡	佐 賀	長 崎	高 知	愛 媛	香 川	德 島	鳥 取	島 根	山 口	廣 島	岡 山	兵 庫	和 歌 山	奈 良	大 阪	京 都	青 森	岩 手	秋 田	山 形	宮 城	福 島	新 潟	富 山	石 川	福 井	滋 賀	岐 阜	三 重	愛 知	靜 岡		山 梨	長 野	群 馬	栃 木	茨 城	千 葉	琦 玉	神 奈 川	東 京														
三	一〇	二九																																															皇族	公爵	侯爵	伯爵	子爵	男爵	勸選議員	多額納稅議員	計					
一三	一〇	二九																																																			九	九	二二	一三	五三	三三	五〇	一八〇		
二			二	一	一				二	一	一																																												二	二	一	一	一	一	一	二
七〇			一										九								七																															六〇	三九	六一	一五	二二三						
五六			五	三					一				二	三	三						三																																二	二	一	一	一	一	一	二		
一二四			二六	一七	一	一	三	一	三	二	一		二四	一	〇	二	二	五		一	三	三																五		二													二	二	一	一	一	一	一	二		
三八			六										八								一																															三	三	一	一	一	一	一	二			
三五七			四二	二一	三	二	五	二	六	三	一		五四	二	四	一	六	三	二	七	三	二	一																														二	二	一	一	一	一	一	二		

備考 華族ニシテ勸選議員タルモノハ勸選議員ニ算入ス。

○

衆議院ノ組織

第八表  
貴族院議員數類  
別  
多額納稅議員五  
選權者

貴族院ニ議長及ビ副議長ヲ置ク。貴族院ノ議長副議長ハ衆議院ト異リ、選舉ノ法ニ依ラズ、議員中ヨリ、特ニ勅任セラル。若シ被選議員ニシテ、議長副議長ニ任セラレタルトキハ、議員ノ任期間、其ノ職ニ就クモノトス。

貴族院議員ノ數ヲ、各種毎ニ府縣別ニ示セバ、別表ノ如シ。

多額納稅議員ノ互選權ヲ有スル者十五人ノ直接國稅納額合計ハ、明治三十七年六月一日ノ現在ニ依レバ、新潟縣ノ十二萬圓ヲ最多トシ、大坂府ノ六萬五千圓、東京府ノ六萬一千圓、兵庫縣ノ五萬五千圓之ニ次ギ、其ノ他五萬圓ニ滿ツルモノナク、其ノ最少ナルハ、鹿兒島縣ノ一萬一千圓トス。

衆議院ハ、總テ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス。其ノ任期ハ、四年トス。但補闕議員ハ、前任者ノ殘任期間在任ス。

衆議院議員ノ定數ハ、三百八十一人トス。各選舉區ニ於テ、之ヲ選舉

選舉區

議員ノ現在數ハ、定數ニ二人ヲ缺ク。是レ沖繩縣ニハ、議員ノ配當アレドモ、未ダ之ヲ選出セザレバナリ。

衆議院ノ議長及ビ副議長ハ、議院ニ於テ、各三名ノ候補者ヲ選舉シ、其中ヨリ勅任セラル。候補者ヲ選舉スルノ點ニ於テ、大ニ貴族院ト異レリ。

議長、副議長ノ任期ハ、其ノ議員タルノ期間ニ伴フ。

各府縣ニ於テ、市ハ、各獨立シテ、其ノ他ノ部分ハ、全體トシテ、一ノ選舉區ヲ爲スヲ原則トス。之ニ左ノ例外アリ。

市ノ數ハ、全國五十八アレドモ、其ノ獨立ノ選舉區タルハ、五十三市ニシテ、吳佐世保豐橋宇治山田及ビ長岡ノ五市ハ、近年ニ至リテ、始メテ市制ヲ施行セラレ、未ダ獨立ノ選舉區タルニ至ラズ、今猶郡部選舉區ノ一部タリ。

議員數ノ配當

對馬佐渡隱岐及ビ大島鹿兒島縣下ハ、獨立シテ一ノ選舉區タリ。交通ノ關係上、内地ニ合スルノ不便アリテ、又其ノ地積人口ハ、以テ一選舉區ヲ成スニ足レバナリ。

北海道ニ於テハ、札幌函館小樽ノ各區ハ、獨立ノ選舉區ヲ爲シ、其ノ他ノ部分ハ、三選舉區ニ分ル。

沖繩縣ハ、全縣ヲ以テ、一選舉區トス。然レドモ、沖繩縣ニ選舉法ヲ施行スルニハ、別ニ勅令ノ發布ヲ要シ、而カモ、其ノ勅令ハ、未ダ制定セラレザルヲ以テ、沖繩縣ハ、未ダ議員ヲ選出セズ。

帝國ノ領土中、臺灣樺太ヲ除クノ外、衆議院議員ノ選舉區ニ屬セザルモノハ、小笠原島千島諸島宮古諸島及ビ八重山諸島トス。共ニ交通至難ニシテ、文化洽カラズ、未ダ議員ヲ選出セシムルノ程度ニ達セザレバナリ。

一市ニシテ二人以上ノ議員ヲ選出スルハ、孰レモ民口富力ノ豐富ナ

第九表  
衆議院議員選舉  
區別選出議員數

衆議院議員選舉  
權及被選舉權

ル都會地ニシテ、東京十一人、大坂六人、京都三人、橫濱、神戶、名古屋各二人ノ六市トス。

各府縣ノ中、最モ多數ノ議員ヲ出スハ、東京府ノ十六人ニシテ、兵庫、新潟、福岡ノ十四人、愛知ノ十三人ニ次ギ、其ノ最少數ナルハ、沖繩縣ノ二人ヲ除クノ外、宮崎ノ四人、奈良、山梨、福井ノ五人トス。

別表ニ衆議院議員ノ選舉區別選出議員數ヲ示ス。

衆議院議員ノ選舉權ハ、帝國臣民タル男子、年齡滿二十五歲以上ニシテ、滿一年以前ヨリ、其ノ選舉區内ニ住居ヲ有シ、且滿一年以前ヨリ、地租十圓以上カ、又ハ滿二年以前ヨリ、地租以外ノ直接國稅十圓以上、若クハ地租ト他ノ直接國稅ト合シテ、十圓以上ヲ納ムルモノ、之ヲ有ス。

被選舉權ハ、帝國臣民タル男子ニシテ、年齡滿三十歲以上ノ者ハ、他ニ何等ノ條件ヲ要セズシテ、總テ之ヲ有ス。

禁治產者、準禁治產者、家資分散又ハ破產ノ宣告確定シ、復權ノ決定確

衆議院議員選舉區別選出議員數表

地方別	市		郡		島		合計
	議員數	區	議員數	區	議員數	區	
東京	1	1	1	1	1	1	1
神奈川	1	1	1	1	1	1	1
埼玉	1	1	1	1	1	1	1
千葉	1	1	1	1	1	1	1
茨城	1	1	1	1	1	1	1
栃木	1	1	1	1	1	1	1
群馬	1	1	1	1	1	1	1
長野	1	1	1	1	1	1	1
山梨	1	1	1	1	1	1	1
静岡	1	1	1	1	1	1	1
愛知	1	1	1	1	1	1	1
三重	1	1	1	1	1	1	1
岐阜	1	1	1	1	1	1	1
滋賀	1	1	1	1	1	1	1
福井	1	1	1	1	1	1	1
石川	1	1	1	1	1	1	1
富山	1	1	1	1	1	1	1
新潟	1	1	1	1	1	1	1
福島	1	1	1	1	1	1	1
宮城	1	1	1	1	1	1	1
山形	1	1	1	1	1	1	1
秋田	1	1	1	1	1	1	1
岩手	1	1	1	1	1	1	1
青森	1	1	1	1	1	1	1
計	9	9	9	9	9	9	9
京都	3	3	3	3	3	3	3
大阪	7	7	7	7	7	7	7
奈良	1	1	1	1	1	1	1
和歌山	1	1	1	1	1	1	1
兵庫	3	3	3	3	3	3	3
岡山	1	1	1	1	1	1	1
広島	2	2	2	2	2	2	2
山口	1	1	1	1	1	1	1
島根	1	1	1	1	1	1	1
鳥取	1	1	1	1	1	1	1
計	21	21	21	21	21	21	21
徳島	1	1	1	1	1	1	1
香川	2	2	2	2	2	2	2
愛媛	1	1	1	1	1	1	1
高知	1	1	1	1	1	1	1
計	5	5	5	5	5	5	5
長崎	1	1	1	1	1	1	1
佐賀	1	1	1	1	1	1	1
福岡	4	4	4	4	4	4	4
熊本	1	1	1	1	1	1	1
大分	1	1	1	1	1	1	1
宮崎	1	1	1	1	1	1	1
鹿兒島	1	1	1	1	1	1	1
計	8	8	8	8	8	8	8
以上合計	73	73	73	73	73	73	73
沖繩	2	2	2	2	2	2	2
北海道	3	3	3	3	3	3	3
内地合計	381	381	381	381	381	381	381
總計	383	383	383	383	383	383	383

※地方制度上ハ郡ナレドモ衆議院議員選舉ニ付テハ郡部ヨリ獨立シテ一選舉區ヲ成ス。  
 ※札幌小樽岩内増毛宗谷上川空知室蘭浦河支廳管内一區函館釧路山越都管内一區根室。  
 釧路河内網走支廳管内千島諸島ヲ除ク一區合シテ三選舉區。

定セザルモノ、剝奪公權者、停止公權者、禁錮以上ノ刑ヲ宣告セラレタル者、華族ノ戶主、現役中ノ軍人、戰時事變ニ際シ召集セラレタル軍人、學生、生徒ハ、選舉權被選舉權、共ニ之ヲ有セズ。

此ノ他、尙被選舉權ノミヲ有セザルモノアリ。神官、神職、僧侶、諸宗教師、小學校教員、政府ノ爲メ請負ヲ爲スモノ、又ハ其ノ法人ノ役員、選舉事務ニ關係アル官吏及ビ吏員、宮内官、判事、檢事、行政裁判所長官、評定官、會計検査官、收稅官吏、警察官吏是ナリ。

選舉ハ、單記無記名ノ投票ヲ以テ、之ヲ行フ。

單記トハ、同一選舉區ヨリ選出スベキ議員數名アルトキト雖モ、投票ニ被選舉人一人ノミヲ記スルヲ要スルヲ謂フ。之ニ對スルモノヲ連記ト稱シ、選出セラルベキ議員數名アルトキハ、自己ノ選舉セントスルモノ數名ノ名ヲ、同一投票中ニ記スコトヲ得ルモノナリ。連記ハ、議員ニ名望家ヲ網羅スルノ利アレドモ、多數ノ黨員ヲ有スル黨派ガ議員ヲ獨占スルノ弊ヲ防ケニ由ナシ。單記ノ利害ハ、正ニ連記ト相反ス。

無記名トハ、投票ニ選舉人ノ名ヲ記セザルモノヲ謂フ。記名ハ、選舉人ヲシテ其ノ

單記無記名

選舉手續	<p>責任ヲ重シセシムルノ利アリ。而シテ、普通賄賂等ノ爲メニ、自由意思ヲ束縛セラルルノ害アリ。無記名ノ利害ハ、記名ト正反對ナリ。</p> <p>選舉ノ手續ハ、市町村ヲ以テ投票區トナシ、此ノ所ニ於テ、投票ヲ爲サシメ、郡市ヲ開票區トシ、市ノ投票ハ、其ノ市ニ於テ、町村ノ投票ハ、所轄郡ニ於テ、之ヲ開キテ點檢ス。地方長官ハ、選舉長ト爲リ、選舉會ヲ開キテ、當選者ヲ決定ス。其ノ他、詳細ナル手續ニ付テハ、茲ニ説カズ。</p> <p>兩議院ノ議長ハ、歳費トシテ、五千圓、副議長ハ、三千圓、議員ハ、二千圓ヲ受ク。但シ、皇族公侯爵及ビ官吏ニシテ議員タル者ハ、歳費ヲ給セラレズ。</p>
歳費	
通常會	<p>帝國議會ハ、毎年之ヲ召集ス。之ヲ通常會ト謂フ。其ノ會期ハ、三箇月ナルヲ以テ、原則トシ、必要アルトキハ、勅命ヲ以テ、延長セラルルコトアリ。</p>
臨時會	<p>通常會ノ外、臨時緊急ノ必要アルトキハ、臨時會ヲ召集セラル。其ノ</p>

召集	<p>會期ハ、勅命ヲ以テ、之ヲ定ム。</p> <p>議會ノ召集ハ、四十日前ニ、之ヲ發布スルヲ要ス。但シ、急ヲ要スル場合ニ於テハ、必ズシモ四十日ノ期間ヲ存スルヲ要セズ。明治二十七八年役ノ際、其ノ實例アリ。</p>
會議	<p>兩議院ノ議事ハ、各其ノ總議員ノ三分ノ一以上出席スルコトヲ要シ、議決ハ、出席者ノ過半数ヲ以テス。可否定數ナルトキハ、議長之ヲ決ス。之ニ一ノ例外アリ。若シ憲法改正案議院ニ上リタルトキハ、總議員ノ三分ノ二以上出席シ、出席數三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラザレバ、議決成ラズ。</p>
行政事務	<p>兩院ニ事務局アリ。議長ハ、之ガ事務長官ニシテ、書記官長以下ノ職員アリ。議院ニ關スル行政事務ニ從事ス。</p>
衆議院議員ト人口及ビ選舉權者	<p>衆議院議員ト人口及ビ選舉權者トノ關係等ヲ、各府縣別ニ記載スルハ、參政權ノ分配、及ビ地方政治思想ノ狀況ヲ知ルニ、有益ナルベシ。</p>



地方	當選者	選舉權者	人口千ニ	議員一人ニ付		選舉權者百ニ付	
				人口	選舉權者	平均得票數	投票者
東神奈川	一六	二二,六八九	九,三六六	一,五八二	一,四八一	九七六	八二,八三三
京	一	一三,一四三	一,二五〇	一,三二九	一,一八〇	一,一八〇	八九,四三二
玉川	八	二四,二三五	一九,五五四	一,三七八	二,六九三	二,〇〇六	九一,二六六
千葉	九	二五,五三一	一九,三三九	一,三一六	二,五五三	一,五九一	八三,四七七
茨城	一〇	二四,九七三	一〇,〇四八	一,二〇〇	二,四九七	一,五三七	八八,六六五
木城	七	一七,〇三〇	一八,〇六七	一,三〇三	二,四三三	一,六一三	八五,八八六
群馬	八	一四,七二五	一六,二二九	一,三〇〇	一,八四一	一,三二九	九〇,六六五
山梨	一〇	二二,四八〇	一六,〇六七	一,三〇八	二,二四八	一,六三三	九〇,九九八
長野	一〇	六,六四九	一〇,三三〇	一,〇八三	一,三三〇	一,〇〇五	九一,四四五
静岡	一	二〇,二七八	一五,〇六八	一,二九三	二,一〇八	一,五二八	八八,三三三
愛知	一三	三三,四〇七	一九,〇〇七	一,三四七	二,五七〇	一,六四二	八九,一四一
三重	一	二五,三二〇	二四,〇二四	一,二六〇	二,八二二	二,二二二	八七,九九四
岐阜	九	一五,四四六	一五,一一三	一,二七五	一,九三二	一,五八〇	九〇,八八九
滋賀	六	三三,四三五	三三,〇六九	一,一九四	三,九〇六	二,七二七	八五,四四五
福井	五	一三,〇五五	二〇,五三三	一,二七二	二,六一一	一,九九六	九一,七三三

地方	當選者	選舉權者	人口千ニ	議員一人ニ付		選舉權者百ニ付	
				人口	選舉權者	平均得票數	投票者
中本州	一四	二七,八七八	一五,〇六六	一,二七二	一,九六一	一,三九六	八一,四一〇
富石	六	一五,三三七	二〇,〇〇三	一,二八〇	二,五六五	一,九五〇	九一,〇三三
計	七	一五,七二八	二〇,〇二五	一,〇九七	二,二四七	一,七七九	八二,〇〇六
本州北區	一四	二七,〇九二	三三,二二〇	一,三〇五	二,八九九	一,八四一	八六,五五八
新潟	七	二二,六二三	一三,〇九三	一,二九四	一,八〇三	一,二七四	八八,三三一
山形	八	一七,〇一七	一九,〇三五	一,〇九九	二,一三七	一,四三七	九〇,七三三
秋田	七	一一,一〇二	一四,〇四五	一,一九六	一,七二九	一,一四二	八六,〇六五
岩手	六	九,四三〇	一二,三五九	一,一四九	一,五七二	九一〇	八六,〇八二
青森	六	八,三三九	一一,〇五一	一,〇九四	一,三八八	九五六	七〇,〇六六
計	五七	一一,三四七〇	一一,三三三	一一,二六八	一一,九九一	一一,三二八	八四,九九八
本州西區	一八	一七,〇三八	一六,〇一五	一,三一九	二,一三〇	一,三七八	八九,〇二九
京都	一三	三六,九六〇	一四,〇七九	一,四〇六	二,〇七四	一,四二二	八三,三三五
大阪	五	一一,一七三	二〇,〇一九	一,一六六	二,二五四	一,六七六	九〇,三三九
奈良	六	九,八二七〇	一一,三二九	一,一六三	一,五四五	一,二二〇	八九,〇六三
山梨	一	一八,二二八	一三,〇九七	一,三〇九	二,三九五	一,八〇八	八三,四四二
兵庫	一四	三三,三三四	一八,〇七〇	一,三二七	二,四六九	一,六五三	八一,〇六五
岡	九	二二,三三〇	二二,〇五三	一,二八〇	二,五五五	一,九五〇	九一,〇三三
計	六	一五,三三七	二〇,〇〇三	一,〇九七	二,二四七	一,七七九	八二,〇〇六
本州	一四	二七,八七八	一五,〇六六	一,二七二	一,九六一	一,三九六	八一,四一〇
計	七	二二,六二三	一三,〇九三	一,二九四	一,八〇三	一,二七四	八八,三三一
計	七	一七,〇一七	一九,〇三五	一,〇九九	二,一三七	一,四三七	九〇,七三三
計	七	一一,一〇二	一四,〇四五	一,一九六	一,七二九	一,一四二	八六,〇六五
計	六	九,四三〇	一二,三五九	一,一四九	一,五七二	九一〇	八六,〇八二
計	六	八,三三九	一一,〇五一	一,〇九四	一,三八八	九五六	七〇,〇六六
計	五七	一一,三四七〇	一一,三三三	一一,二六八	一一,九九一	一一,三二八	八四,九九八

地方	當選者		人口千ニ選舉權者		議員一人ニ付		選舉權者百ニ付	
	當選者	選舉權者	人口千ニ選舉權者	議員一人ニ付	選舉權者	平均得票數	投票者	選舉權者百ニ付
本州西區	一三	二〇、六九九	一三、七三二	一、七三九	八三、四八	一、〇六九	〇、七七	一五、七五
廣島	八	一三、六七九	一三、六八九	一、五八五	八七、五九	一、二七四	〇、〇九	一一、三三
山口	七	一一、〇九八	一〇、四七一	一、五八五	八九、〇九	一、〇四七	〇、四四	一〇、四七
島根	四	六、五三五	四、九九九	一、六三三	一一、六五	一、一六五	〇、〇二	九、七〇
鳥取	八	一七、三〇五	一五、七九九	一、九九二	一、四二一	八五、三九	〇、二五	一四、三六
計	一三	二〇、六九九	一三、七三二	一、七三九	八三、四八	一、〇六九	〇、七七	一五、七五
四國區	六	九、三三三	一三、〇〇五	一、五三九	一、〇九五	八四、八七	〇、〇一	一五、一一
德島	七	八、三一七	一一、六八九	一、二八八	八三、七	九〇、五七	〇、一四	九、二九
香川	八	一一、九六〇	一一、五五六	一、四九五	一一、三〇	八六、七七	〇、一八	一一、〇五
愛媛	六	七、四三八	一一、五五一	一、二四〇	七四、六	八九、五〇	〇、三六	一〇、一四
高知	七	三六、九四七	一一、九二二	一、三六八	九六、〇	八七、七〇	〇、一六	一一、一四
計	六	九、三三三	一三、〇〇五	一、五三九	一、〇九五	八四、八七	〇、〇一	一五、一一
九州區	八	七、七四二	七、六三二	九六、八	七一	八一、一五	〇、七〇	一八、一五
長崎	六	一六、三四三	二四、八一一	一〇、九〇九	二、七〇七	一一、二九	一	二二、二九
福岡	一四	二七、九〇三	一七、七六六	一、二二、三三六	一、四八三	八九、四〇	〇、三五	一〇、二五
熊本	九	一八、六一五	一五、五三三	一、三三、一六五	一、五八九	八六、七五	〇、一六	一三、〇九
大分	六	一一、四四五	一三、三三九	一、四二、四九七	一、九〇八	九〇、三七	〇、〇六	九、五七
宮崎	四	六、二七七	一一、五二二	一、二五、四八三	一、五六九	八一、四	〇、三八	七、八四
鹿兒島	九	九、三三二	七、八一	一、三三、五七二	一、〇二八	八〇、三〇	〇、二七	一八、四三
計	八	七、七四二	七、六三二	九六、八	七一	八一、一五	〇、七〇	一八、一五

地方	當選者		人口千ニ選舉權者		議員一人ニ付		選舉權者百ニ付	
	當選者	選舉權者	人口千ニ選舉權者	議員一人ニ付	選舉權者	平均得票數	投票者	選舉權者百ニ付
計	五六	九七、四七六	一三、〇九七	一、二四、六五五	一、七四二	一、三三〇	八五、六九	〇、二五
北海道	六	四、〇八〇	三、七四	一、八一、五八四	六八〇	三〇一	七七、六三	一一、三三八
總計	三七九	七五、七七八	一五、七七七	一、二六、八三五	一、九九九	一、四一〇	八六、五九	〇、一五

備考 人口、明治三十六年末現住人口ナリ。

是ニ由リテ、之ヲ觀レバ、我が國ニ於ケル衆議院議員選舉權者ハ、人口千人ニ付、十六人弱ヲ平均トシ、其ノ最モ少キハ、北海道ノ三人七四、之ニ次グハ、長崎鹿兒島二縣ノ八人弱、東京府ノ九人餘トシ、其ノ他ハ、總テ十人以上ニシテ、其ノ最多ナルハ、滋賀縣ノ三十三人弱、之ニ次グハ、佐賀縣ノ二十五人強、三重縣ノ二十四人強トス。而シテ、之ヲ通觀スレバ、本州中區ノ十七人五五、最多ニシテ、本州北區、本州西區、九州區、四國區、順次之ニ從ヒ、北海道ハ、四國區ノ三分ノ一ニ及バズ。選舉權者ノ多キハ、直

接國稅十圓以上ヲ納ムル者ノ多數ナルコトヲ示スモノトス。

衆議院議員ノ數ハ、人口平均凡十二萬七千人ニ、一人トス。

議員數ハ、本來人口ヲ主タル標準トシテ、配當シタルヲ以テ、各府縣ニ於ケル議員一人當ノ人口ニ大差ナク、香川縣ノ十萬人ヲ最少トシ、東京府ノ十六萬人弱ヲ最多トス。新開地ニシテ、議員ノ數少キ北海道ニ於テモ、十八萬人ヲ超ユルコト僅々タリ。

選舉權者中、被選舉人ノ氏名ヲ書スル能ハザル者ノ多少ハ、普通教育ノ成蹟ヲ示スモノニシテ、棄權者ノ多キハ、或ハ地方政弊ノ甚シキヲ表ハシ、或ハ政治思想ノ發達セザルコトヲ示スモノナリ。

選舉權者中、被選舉人ノ氏名ヲ記スルコト能ハザル者ハ、福島廣島長崎岡山ノ四縣著ク多シ。

選舉權者中、棄權者ノ多キハ、青森縣北海道及ビ佐賀縣ニシテ、鹿兒島長崎岡山新潟富山東京等ノ諸府縣之ニ次グ。

衆議院議員ノ職業ト年齢

我が國ノ衆議院ニ於テハ、農業者三分ノ一以上ノ議席ヲ占メ、辯護士、商業者等、之ニ次グモ、猶遠ク及バズ。而シテ、無職業者ガ農業者ノ半以上、全議員數ノ五分ノ一ヲ占ムルハ、憲政ノ爲メ、深ク憾トスル所ナリ。議員ノ年齢ハ、四十五歳ヨリ五十歳ノモノ、全員ノ四分ノ一強ヲ占メ、三十五歳ヨリ五十五歳迄ノ者、十分ノ八強ヲ占ム。

衆議院議員職業別左ノ如シ。

軍人	一人	醫師	三人	新聞及 雜誌記者	十三人
辯護士	五十七人	銀行員	十六人	會社員	十四人
商業	三十五人	農業	三十二人	工業	八人
鑛山業	四人	雜業	六人	無職業	七十三人
其他	十七人	合計	三百七十九人		

左ニ、主要ナル列國ノ議會ノ概況ヲ説クベシ。

英國。英國ノ議會ハ、上院ヲ貴族院 (House of Lords) ト稱シ、下院ヲ庶民院 (House of

外國ノ議會

Commons)ト呼ブ。

貴族院ハ、(一)世襲議員タルノ權ヲ有スル者(華族)、(二)勅選議員、(三)職務ノ結果議員タルモノ(爵正)、(四)選舉セラレタル終身議員、愛耳蘭ノ華族、(五)一任期間議員ニ選舉セラレタルモノ(蘇格蘭ノ華族)ヲ以テ組織セラル。其ノ人員四百九十五年ニ於テ、五百九十一人アリ。

庶民院ハ、(一)郡(County)、(二)市(Borough)、(三)大學校ヨリ選出セラレタル議員ヲ以テ成ル。其ノ數、一千九百六年ニ於テ、六百七十人アリ。

庶民院議員ノ選舉權者ハ、成年以上ノ者タルコトヲ要シ、其ノ他或ハ財産上ニ於テ、或ハ住所ニ付テ、資格ノ制限アリ、英愛蘇各其ノ制ヲ異ニシ、頗ル複雜ナルヲ以テ、之ヲ省ク。

一年九百六年ニ於テ、庶民院議員及ビ選舉權者ノ數ヲ示セバ、左ノ如シ。

英國庶民院議員及ビ選舉權者數

英 國 士	郡		市		大 學 校		合 計	
	議 員	選 舉 權 者	議 員	選 舉 權 者	議 員	選 舉 權 者	議 員	選 舉 權 者
	二五三、三三四、三八三	三三三、四六一、八九〇	三三三、四六一、八九〇	一八、七二二	五	一八、七二二	四九五、八二四、八八四	

第十一表

蘇格蘭	愛耳蘭	合 計
三九、四二、三三五	八五、五七三、〇六六	三七四、三三八、六七三
三二、三〇七、四〇〇	一六、一一三、五九五	二八四、二八二、八八五
三、二、六七六	四、七六二	九、五、一五〇
七三、七五〇、四〇一	一〇三、六九一、四三三	六七〇、七二六、七〇八

即チ人口ノ約六分ノ一ハ、選舉資格ヲ有ス。

庶民院議員ノ任期ハ、七年トス。

年齡二十一歳ニ滿タザル者ハ、國會議員タルコトヲ得ズ。

國會ハ、近時ノ慣行ニ從ヘバ、年々二月中旬ニ開會シ、八月下旬ニ閉會スルヲ例トス。

佛 國。佛國ノ上院ヲ元老院(Senate)、下院ヲ代議院(Chamber of Deputies)ト稱ス。

現役軍人ニアラザル滿二十一歳以上ノ者、六ヶ月以上一市町村内ニ住居スルトキハ、選舉權ヲ有シ、滿二十五歳以上ノ市民(Citizen)ハ、被選舉權ヲ有ス。

代議士ノ現在數ハ、五百八十四人ニシテ、選舉權者ハ一千〇八十六萬餘人アリ。代議士ノ任期ハ、四年トス。

元老院議員ハ、三百人アリ。

元老院議員ハ、滿四十歳以上ノ市民ヨリ選出セラレ、其ノ任期ハ、九年ニシテ、毎三年其ノ三分ノ一ヲ改選ス。選舉ノ方法ハ、複選ニシテ、各市町村會ヨリ選出シタル選舉人ト、其ノ縣ノ元老院代議院議員、縣會議員、郡會議員トヲ以テ成ル縣選舉會ニ於テ選

舉ス。此ノ議員數、二百二十五人ナリ。其ノ餘ノ七十五人ハ、上下兩院相合シテ、選舉團ト爲リ選出スル者ニシテ、終身議員タリ。此ノ終身議員ハ、西曆一千八百十四年以來ハ、缺員ヲ生ジタルトキハ、縣選出議員ヲ以テ、之カ闕ヲ補フコトトナレリ。兩院議員ハ、歳費トシテ、毎年九千「フラン」ヲ受ケ、議長ハ、別ニ七萬二千「フラン」ノ交際費ヲ給セラレ。

議會ハ、毎年一月第二火曜日ニ開會シ、少クトモ五ヶ月間之ヲ閉ケズ。

**獨逸國**。獨逸國ノ國會ハ、聯邦參議院(Bundesrat)帝國議院(Reichstag)ノ二トス。

聯邦參議院ニハ、五十八人ノ議員アリ。此ノ議員ハ、各會期毎ニ、聯邦ノ政府之ヲ任命ス。

獨逸帝國聯邦ノ數ハ、四王國六大公國、五公國七侯國、三自由市合計二十五アリ。

各聯邦ノ任命スル聯邦參議院議員ノ數ハ、普魯士王國ノ十七人ヲ最多トシ、巴威王國六人、撒遜及ビウールテンベルヒノ兩王國各四人、バーデン及ビヘッセン兩大公國各三人、ンクレンブルヒ、シユウエーリン大公國及ビプレンスウイック公國各二人ニシテ、其ノ他ハ、總テ一人宛トス。

帝國議院ノ議員ハ、任期五年ニシテ、一般國民ヨリ選舉セラレ。其ノ數三百九十七人(人口十三萬一千六百餘人ニ付一人)アリ。其ノ各聯邦選出數ハ、普魯士ノ二百三十

六人著ク多數ニシテ、其ノ他ハ、巴威ノ四十八人ヲ最多トシ、唯一人ノミヲ出スモノ、一聯邦アリ。

西曆一千九百三年ノ總選舉ニ於テ、帝國議院議員選舉權者數ハ千二百五十三萬餘人アリ。

**露國**。露國ハ、從來君主專制國ナリシガ西曆一千九百五年八月六日、代議院ノ制ヲ定メ、以テ立憲君主國ト爲レリ。

露國ノ議會モ、亦他ノ諸國ニ於ケルガ如ク、二院アリ。參議院(Council of the Empire)及ビ代議院(Gosuduyevnaya)ト稱ス。

參議院議員ノ半數ハ、被選議員ニシテ、半數ハ、勅選議員ナリ。

參議院被選議員ハ、州會(Zemstvo)ヨリ各一人、正教會ヨリ六人、大學ヨリ六人、商工團體ヨリ十二人、貴族ヨリ十八人、波蘭地主ヨリ六人ヲ選出ス。其ノ任期ハ、九年ニシテ、每三年、其ノ三分ノ一ヲ改選ス。

參議院議員ハ、年齡滿四十年以上ノ者タルヲ要ス。

參議院ノ議長及ビ副議長ハ、皇帝ノ任命スル所タリ。

被選議員ハ、開期中二十五日留ノ日當ヲ受ケ。

代議院議員ノ任期ハ、五年ニシテ、各州及ビ大都會聖彼得堡モスコ、及ビ他ノ二十

六市)ヨリ選出セラル。選舉ハ、間接方法ニシテ、各市區ヨリ選舉セラレタル者、相合シテ、各州及ビ大都會ノ選舉團ヲ組織シ、此ノ團體ニ於テ、議員ヲ選舉ス。

參議院ト代議院トハ、立法權發案權質問權等ニ於テ、總テ同等タリ。

露國ハ、此ノ如クニシテ、立憲政體ト爲リタリト雖モ、代議院ハ、開會第一回ニ於テ、甚シク政府ト衝突シ、終ニ解散ヲ命セラレ、今ヤ朝黨、民派ノ暗闘正ニ醜ナリ。將來ノ運命、未ダ豫測スルニ由ナシ。友邦ノ爲メ、深ク之ヲ憾ム。

**北米合衆國** 合衆國ノ上院ヲ、元老院(Senate)ト下院ヲ代議院(House of Representatives)ト稱シ、之ヲ合シテ議會(Congress)ト謂フ。

元老院ハ、各州議會ノ選出セル各州二名宛ノ議員ヲ以テ、組織ス。其ノ任期ハ、六年トス。

元老院議員タルベキモノハ、年齢三十歳以上ニシテ、九年以上合衆國人民ト爲リ、又其ノ選出州ノ住民タルコトヲ要ス。

代議院ハ、一般ヨリ選出セラレタル議員ヲ以テ成ル。議員ノ任期ハ、二年ニシテ、其ノ總數ハ、三百八十六人ナリ。之ヲ各州ニ配當スルノ方法ハ、毎十年ニ調査スル人口ヲ標準トス。現今ハ、ニューヨーク及ビペンシルヴァニアノ二州、最も多シ。

代議院議員選舉權ハ、各州其ノ制ヲ異ニス。年齢ハ、一般ニ二十一歳ナリ、其ノ他ハ、

按ニ之ヲ省ク

### 第四篇 司法

司法機關

司法機關トハ、民事刑事ヲ裁判スル機關ナリ。憲法ニ於テ之ヲ司法裁判所ト稱ス。普通ノ裁判所ハ、其ノ主ナルモノナリ。

下級裁判所ニ於テハ、民事訴訟事件ノ裁判ヲ爲スノ外、非訟事件ヲ取扱フ。裁判所ハ、公正以テ聽訟斷獄ノ事ニ從フベキモノニシテ、其ノ判官ハ、完全ナル能力ヲ有スルヲ要スルノミナラズ、行政機關ノ爲メニ左右セラルルガ如キコトアルベカラズ。故ニ、裁判官ハ、法律ニ定メタル資格ヲ有スルモノニ限り、之ニ任ゼラレ、刑法ノ宣告、又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外、免職セラルルナキハ、憲法ノ保障スル所ナリ。

裁判所ハ、分ツテ、通常裁判所及ビ特別裁判所ノ二種トス。

通常裁判所トハ、大審院以下、普通ニ裁判所ト稱スルモノニシテ、特別裁判所トハ、特定ノ土地又ハ事件ニシテ、普通ノ裁判所ノ管轄ニ屬セシ

(一) 通常裁判所

三審制度

ムルコトヲ得ザルモノヲ裁判スル爲メニ設ケタル裁判所タリ。

特別裁判所モ、亦民事刑事ヲ裁判スルモノニシテ、行政裁判所ノ如キハ、以テ特別裁判所ト稱スベカラズ。

特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタル事項ハ、通常裁判所ニ於テ受理スルコトヲ許サズ。一ノ事項ニ付、二個ノ獨立セル裁判アルベキノ理ナケレバナリ。

(一) 通常裁判所。通常裁判所ハ、大審院、控訴院、地方裁判所、區裁判所ノ四種トス。

裁判所ノ設置廢止及ビ管轄區域竝ニ其ノ變更ハ、法律ヲ以テ之ヲ定ム。普通ノ官廳ノ如ク、之ヲ勅令ニ一任セザルハ、亦司法權ノ獨立ヲ保障スル所以ナリ。

我が國ニ於ケル裁判ハ、三審制度ヲ採ル。第一審ノ裁判ニ不服ナル者ハ、控訴(第二審)ヲ爲シ、控訴裁判ニ服セザルモノハ、上告(第三審)ヲ爲ス

單獨制、合議制

コトヲ得ルノ制ナリ。控訴上告ヲ合シテ、上訴ト稱ス。

三審制ノ系統ハ、事件ノ輕重大小ニ從テ、二アリ。一ハ、區裁判所ヲ以テ、第一審トスルモノニシテ、一ハ、地方裁判所ヲ以テ、第一審トスルモノナリ。區裁判所ヲ以テ、第一審トスル事件ノ控訴ハ、地方裁判所ニ、上告ハ、控訴院ニ提起シ、地方裁判所ヲ以テ、第一審トナス事件ハ、控訴院ニ控訴シ、大審院ニ上告ヲ爲スベキモノナリ。

特別ノ事件ニ付テハ、必ズシモ三審制度ニ從ハザルモノアリ。皇族ニ對スル訴訟ノ如シ。然レドモ、是レ稀有ノ例外タリ。

裁判所ノ中、區裁判所ハ、單獨制ニシテ、其ノ他ハ、總テ合議制ナリ。單獨制トハ、一人ノ判事、裁判ヲ爲スモノニシテ、合議制トハ、數人合議シテ、裁判ヲ爲スモノナリ。

區裁判所ヲ單獨制ト爲シタルハ、事件ノ輕微ナルガ故ナリ。

各裁判所ノ長ハ、裁判所名ヲ冠シテ、之ヲ呼ブ。大審院長、控訴院長、地方裁判所長、區裁判所長、是レナリ。區裁判所ニ於テハ、長ト稱セズ、二人以上ノ判事アルトキハ、其ノ一人ヲ監督判事トス。

各裁判所ニ檢事局ヲ附置シ、檢事ヲ置ク。

檢事ノ上官ヲ、大審院ニ於テハ、檢事總長、控訴院ニ於テハ、控訴院檢事長、地方裁判所ニ於テハ、地方裁判所檢事正ト呼ブ。

檢事ハ、裁判所ニ對シテ、獨立ノ地位ヲ有ス。

檢事ノ職務ノ主要ナルモノハ、刑事ニ付キ、公訴ヲ提起シ、民事ニ付テモ、必要ト認ムルトキハ、意見ヲ述べ、又判決ノ執行ヲ監視スルニ在リ。

各裁判所ニ、書記ヲ置ク。大審院、控訴院ニハ、書記長アリ、又區裁判所ニハ、執達吏アリ。

區裁判所ノ裁判權ハ、單獨判事之ヲ行フ。

區裁判所ノ權限ノ概要ハ、民事ニ於テハ、二百圓以內ノ金品ニ關スル請求、建物ノ受取、明渡等ニ關スル訴訟、不動産ノ經界ニ關スル訴訟、占有

職員

區裁判所

方裁判所長是レナリ。區裁判所ニ於テハ、長ト稱セズ、二人以上ノ判事アルトキハ、其ノ一人ヲ監督判事トス。

各裁判所ニ檢事局ヲ附置シ、檢事ヲ置ク。

檢事ノ上官ヲ、大審院ニ於テハ、檢事總長、控訴院ニ於テハ、控訴院檢事長、地方裁判所ニ於テハ、地方裁判所檢事正ト呼ブ。

檢事ハ、裁判所ニ對シテ、獨立ノ地位ヲ有ス。

檢事ノ職務ノ主要ナルモノハ、刑事ニ付キ、公訴ヲ提起シ、民事ニ付テモ、必要ト認ムルトキハ、意見ヲ述べ、又判決ノ執行ヲ監視スルニ在リ。

各裁判所ニ、書記ヲ置ク。大審院、控訴院ニハ、書記長アリ、又區裁判所ニハ、執達吏アリ。

區裁判所ノ裁判權ハ、單獨判事之ヲ行フ。

區裁判所ノ權限ノ概要ハ、民事ニ於テハ、二百圓以內ノ金品ニ關スル請求、建物ノ受取、明渡等ニ關スル訴訟、不動産ノ經界ニ關スル訴訟、占有



地方裁判所

ニ關スル訴訟、一年以内ノ雇傭契約ニ關スル雇主ト雇人トノ訴訟、旅人ト旅店飲食店、又ハ水陸運送人トノ間ノ訴訟ヲ管轄シ、非訟事件ニ付テハ、禁治産者ノ後見人、管財人ノ監督、不動産登記、船舶登記、商業登記、特許意匠、商標ノ登記ヲ取扱ヒ、刑事ニ付テハ、遠輕罪、竊盜罪及ビ竊盜ノ贓物ニ關スル罪、二百圓ヲ超過スル罰金ヲ併科又ハ附加セザル本刑六月以下ノ禁錮ニ該ル罪、及ビ本刑二百圓ヲ超過セザル罰金ニ該ル罪ヲ裁判スルニ在リ。此等刑事事件ノ中ニ於テモ、豫審ヲ經クルモノハ、區裁判所ノ權限ニ屬セズ。

地方裁判所ノ裁判ハ、三人ノ判事ノ合議ヲ以テ、之ヲ行フ。

地方裁判所ノ主要ナル權限ハ、民事ニ於テハ、區裁判所及ビ控訴院ノ權限ニ屬セザル總テノ事件ノ第一審及ビ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴決定命令ニ對スル抗告ノ第二審、刑事ニ於テハ、區裁判所及ビ大審院ノ權限ニ屬セザル總テノ事件ノ第一審、及ビ區裁判所ノ判決ニ對スル

控訴院

控訴決定命令ニ對スル抗告ノ第二審、破産事件ノ裁判ヲ爲スニ在リ。

司法大臣ハ、地方裁判所ト、其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト、遠ク相隔リ、又ハ交通不便ナルトキハ、其ノ區裁判所ニ地方裁判所支部ヲ設置シ、地方裁判所ニ屬スル民事、刑事ノ一部ヲ取扱ハシムルコトアリ。

控訴院ニ於テハ、五人ノ判事ノ合議ヲ以テ、裁判ヲ爲ス。

控訴院ノ權限ハ、地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴、區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ、地方裁判所ノ爲シタル判決ニ對スル上告、地方裁判所ノ決定命令ニ對スル抗告ヲ、裁判スルニ在リ。

控訴院ニ於テハ、民事以外ニ於テ、衆議院議員ノ選舉ニ付キ、選舉訟訴及ビ當選訟訴ヲ受理ス。

東京控訴院ニ於テハ、前ニ掲グルモノノ外、特別權限トシテ、皇族ニ對スル民事訴訟ニ付キ、第一審及ビ第二審ノ裁判ヲ爲ス。此ノ場合ニ於テハ、第一審ハ、五人、第二審ハ、七人ノ判事ニ依リテ、裁判セラル。

大審院

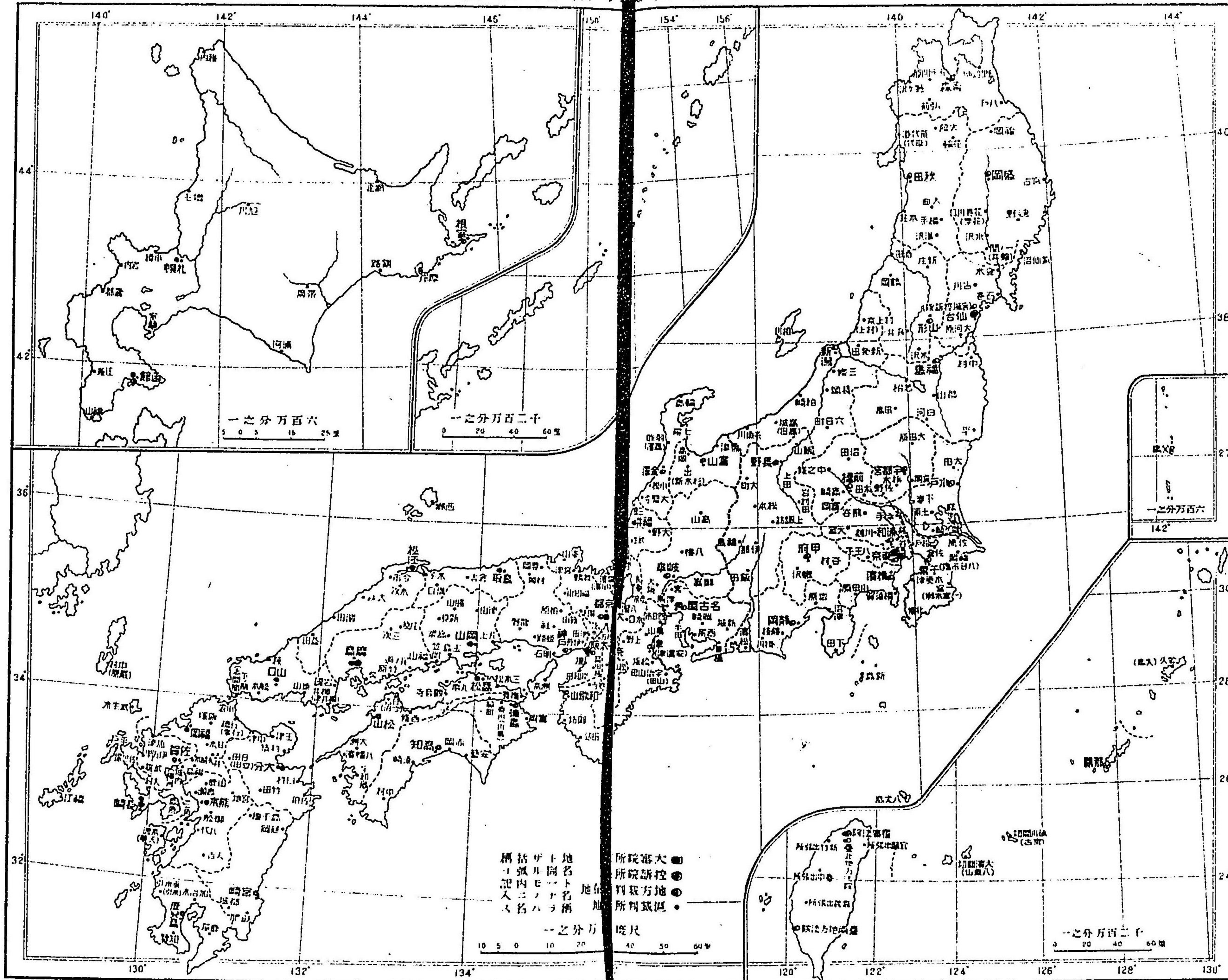
大審院ハ、最高裁判所ナリ。七人ノ判事、合議ヲ以テ、裁判ヲ爲ス。但シ、院内ノ或部ト或部トノ判決ニ於テ、法律上ノ意見相反スルモノアルトキハ、民事總部、刑事總部、又ハ民事刑事ノ聯合總部ニ於テ、裁判ヲ爲スコトアリ。

大審院ニ於テハ、終審トシテ、地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴及ビ皇族ニ對スル民事訴訟ニ付キ、控訴院ノ爲シタル判決ニ對スル上告、控訴院ノ決定命令ニ對スル抗告ヲ裁判シ、第一審且終審トシテ、刑法第二編第一章第二章ニ掲グル重罪、皇室ニ對スル罪及ビ國事ニ關スル罪、並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ、禁錮以上ノ刑ニ處スベキモノノ豫審及ビ裁判ヲ行フ。此ノ他、大審院ハ、選舉訴訟及ビ當選訴訟ニ付キ、控訴院ノ爲シタル判決ニ對スル上告ヲ裁判ス。

大審院ハ、東京ニ在リ。全國ヲ通ジテ、一ヶ所アルノミ。帝都ニ於テ、帝國內ノ裁判ヲ統一スルノ制ナリ。

裁判所ノ配置

日本帝國裁判所置圖



第一編 日本政治地理卷一

東京小田原印行

第十二表

控訴院ハ、七ヶ所アリ。東京大坂名古屋廣島長崎宮城函館是ナリ。全國ヲ七區ニ分チ、其ノ中樞地ニ控訴院ヲ置キ、管内ノ裁判事務ヲ統一スルノ制度ナリ。

地方裁判所ハ、府縣毎ニ各一ヶ所アリ。府縣廳所在地ニ在リ。北海道ニ於テハ、全道ヲ三區ニ分チ、函館札幌根室ニ地方裁判所ヲ置ク。

區裁判所ハ、地方裁判所管轄區域内樞要ノ地ニ之ヲ置ク。

大審院ノ外裁判所ハ、總テ其ノ所在地名ヲ冠稱ス。

裁判所ノ名稱位置ハ、別表ノ如シ。

區裁判所ノ管轄區域ハ、繁鑽ニ亘ルヲ以テ省ク。

裁判所表

明治三十九年三月一日現在

控訴院	地方裁判所	管轄區域	區裁判所
			八王子・東京・新

東						
東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府
島・八丈島・交島 ——五	橫濱・小田原・橫須賀——三	千葉・松戸・佐倉・一宮本郷・八日市場・佐原・水更津・北條——八	水戸・太田・土浦・麻生・龍ヶ崎・下妻——六	宇都宮・真岡・太田原・栃木・佐野——五	浦和・越ヶ谷・幸手・川越・熊谷・大宮——六	前橋・沼田・中之條・太田・高崎・富岡——六
靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣
下田・吉原・濱松・掛川——七	甲府・皷澤・谷村——三	長野・飯山・松本・上諏訪・大町・瀧島・飯田・伊那・上田・岩村田——十	新瀉・三條・新發田・村上・長岡・柏崎・六日町・高田・糸魚川・相川——十	六十九區裁判所	京都・伏見・木津・園部・宮津・峰山・福知山・舞鶴——八	六十九區裁判所
京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府
京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府
京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府

東					
東京府	東京府	東京府	東京府	東京府	東京府
島・八丈島・交島 ——五	橫濱・小田原・橫須賀——三	千葉・松戸・佐倉・一宮本郷・八日市場・佐原・水更津・北條——八	水戸・太田・土浦・麻生・龍ヶ崎・下妻——六	宇都宮・真岡・太田原・栃木・佐野——五	浦和・越ヶ谷・幸手・川越・熊谷・大宮——六
靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣
下田・吉原・濱松・掛川——七	甲府・皷澤・谷村——三	長野・飯山・松本・上諏訪・大町・瀧島・飯田・伊那・上田・岩村田——十	新瀉・三條・新發田・村上・長岡・柏崎・六日町・高田・糸魚川・相川——十	六十九區裁判所	京都・伏見・木津・園部・宮津・峰山・福知山・舞鶴——八
京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府
京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府
京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府

阪						
高知	德島	和歌山	大津	神戶	奈良	大阪
高知縣	德島縣	和歌山縣	滋賀縣	兵庫縣	奈良縣	大阪府
高知・安藝・赤岡・須崎・中村 五	德島・撫養・富岡・脇町・川島 五	和歌山・妙寺・田邊・御坊・新宮 五	大津・水口・八幡・今津・彦根・長濱 六	神戶・伊丹・明石・篠山・柏原・洲本・姫路・社・龍野・豐岡・村岡 十一	奈良・松山・高田・五條 四	大阪・池田・茨木・牧方・堺・岸和田・富田林 七

名古屋						計	
金澤	福井	岐阜	安濃津	名古屋	九地方裁判所	高松	
石川縣	福井縣	岐阜縣	三重縣	愛知縣		香川縣	
金澤・小松・大聖寺・七尾・高濱・輪島 六	福井・三國・武生・大野・敦賀・小濱 六	岐阜・八幡・大垣・御嵩・高山 五	安濃津・松坂・四日市・龜山・上野・山田・木木 七	名古屋・一ノ宮・津島・半田・岡崎・四尾・豐橋・新城 八	五十五區裁判所	高松・三木・松丸・龜・觀音寺 四	

					計	
廣					計	
岡	松	松	山	廣	六地方裁判所	富
山	山	江	口	島		山
岡	愛	島	山	廣		富
山	媛	根	口	島		山
縣	縣	縣	縣	縣		縣
山	岡山・片上・高梁・新見・玉島・笠岡・津山・勝山	松山・大洲・八幡濱・四條・今治・宇和島	松江・木次・今市・濱田・大森・益田・西郷	山口・徳山・岩國・柳井津・萩・赤間關・船木	三十九區裁判所	富山・魚津・高岡・杉木新

					計	
長					計	
熊	大	福	佐	長	六地方裁判所	鳥
本	分	岡	賀	崎		取
熊	大	福	佐	長		鳥
本	分	岡	賀	賀		取
縣	縣	縣	縣	縣		縣
高瀬・入吉・天草	熊本・三角・御船・宮地・八代・山鹿	大分・臼杵・佐伯・竹田・杵築・中津・玉津・豆田	福岡・甘木・飯塚・久留米・吉井・福島・柳河・小倉・行幸	佐賀・武雄・唐津・伊萬里	三十九區裁判所	鳥取・倉吉・米子・漕口

宮			計	崎		
山形	福島	仙臺	八地方裁判所	那須	宮崎	鹿兒島
山形縣	福島縣	宮城縣		沖繩縣	宮崎縣	鹿兒島縣
山形・新莊・米澤・長井・酒田・鶴岡	福島・郡山・中村・白河・平・若松・田島	仙臺・大河原・古川・石卷・登米・氣仙沼	五十二區裁判所	郡縣・宮古・八重山	宮崎・伊肥・都城・延岡・高千穂	鹿兒島・知覽・加治木・鹿屋・水引・大島
六	七	六		三	五	六

函			計	城		
根室	札幌	函館	六地方裁判所	青森	秋田	盛岡
根室・千島・北見一部・釧路・十勝	高・北見一部・後志一部 石狩・膽振大部・天鹽・日	渡島・膽振一部・後志一部		青森縣	秋田縣	岩手縣
根室・網走・厚岸・釧路・帶廣	札幌・旭川・浦河・増毛・室蘭・稚内・小樽・岩内	函館・江差・福山・森都	四十區裁判所	青森・野邊地・弘前・陸ヶ澤・五所河原・八戸・六	秋田・本莊・能代・大館・花輪・大曲・横手・湯澤・八	盛岡・花卷・遠野・瀧岡・宮古・磐井・水澤
五	八	四		六	七	七



計	三地方裁判所	十七區裁判所
合計	七控訴院 四十九地方裁判所	三百八區裁判所

(二) 特別裁判所

(二) 特別裁判所。特別裁判所トハ、司法裁判所ノ一種ニシテ、通常裁判所ニ相對シ、特定ノ土地ニ於テ、又ハ特定ノ人ニ對シ、或ハ特定ノ事項ニ付キ、通常裁判所以外ニ於テ、民事刑事ヲ裁判スル官廳ナリ。

特別裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ定ムルヲ要スルヤ、否ヤ、其ノ裁判官ノ資格ハ、法律ヲ以テ之ヲ限定スルヲ要スルヤ、否ヤ、裁判官ノ位置ハ、憲法上ノ保障ヲ受クルヤ、否ヤ等ハ、憲法論者ノ相爭フ所ナルベシ。然レドモ、現行ノ制度ニ於テハ、特別裁判所ニ付テハ、是等憲法上ノ規定ノ適用セラレザルモノトスルノ外ナシ。北海道ノ監獄ニ於テ、囚人ノ刑事ヲ裁判スルノ制度ガ、憲法附屬ノ法律タル裁判所構成法施行條例ヲ以

軍法會議

テ定メラレタルヲ以テ見ルモ、自ラ明カナルベシ。

特別裁判所ハ、現今六種アリ。軍法會議、樺戶、網走、十勝監獄、警察官署、憲兵部、臺灣法院、臺灣廳長是ナリ。就中、後ノ二者ニ付テハ、臺灣ノ政治機關ノ章ニ於テ之ヲ述ブベク、其ノ他ニ付テハ、以下順次、其ノ制度ノ概要ヲ説クベシ。

●軍法會議。軍法會議ハ、軍人ノ犯罪ヲ審判スル特別裁判所ナリ。軍人トハ、將官及ビ同相等官、上長官士官、下士諸卒ヲ謂フ。

●軍屬及ビ陸海軍所屬ノ諸生徒モ、亦其ノ犯罪ニ付テハ、軍人ト同ジク、軍法會議ニ於テ裁斷ヲ受ク。

●軍人トハ、陸海軍出仕ノ文官、其ノ他、總テ陸海軍ニ從事スル者ヲ謂フ。軍人ト雖モ、歸休兵及ビ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ、召集中ノ外、軍法會議ノ審判ヲ受クルコトナク、通常裁判所ノ管轄ニ屬ス。

●軍人、軍屬諸生徒ノ爲ニ、特ニ特別裁判所ヲ設ケタル所以ハ、彼等ハ、特

別ノ規律ニ服從シ、此ノ規律ヲ維持スルニハ、簡約敏速ナル方法ヲ以テ、犯罪ヲ裁斷スルヲ要シ、又軍事ニハ、特種ノ秘密アリ、其ノ秘密ノ目的ヲ達スルガ爲ニハ、軍人ヲ以テ組織セル裁判所ニ於テ、之ニ關スル犯罪ヲ審理スルノ要アレバナリ。

軍法會議ニ於テハ、常人ノ犯罪ヲ審判セザルヲ法一スト雖モ、軍中及ビ臨戰合圍ノ地ニ於テハ、常人モ亦軍法會議ノ管轄ニ屬スルコトアリ、蓋シ、是等ノ場合ニ於テハ、其ノ土地ガ、軍事的行動ノ下ニ在ルヲ以テ、此ノ如クスルニアラズンバ、以テ、軍事上ノ規律ト秘密トヲ、完全ニ維持スルヲ得ザレバナリ。

軍法會議ハ、判士長判士理事又ハ理事試補(海軍ニ於テハ主理又ハ主理試補)及ビ錄事ヲ以テ構成ス。判士長及ビ判士ハ、共ニ將校ニシテ、其ノ將校ノ地位ハ、被告人ノ身分ニ從ヒ上下アリ。軍法會議ハ、陸海軍各數種アリ。

陸軍軍法會議ハ、旅管軍法會議、師管軍法會議、高等軍法會議、合圍地軍法會議、混成旅團軍法會議、師團軍法會議、軍團軍法會議、臨時陸軍軍法會議等トス。旅管軍法會議、師管軍法會議、及ビ高等軍法會議ハ、常設ニシテ、其ノ他ハ、戰時事變ノ際ニ當リ、特ニ設置セラルルモノナリ。

旅管軍法會議ハ、特ニ指定シタル旅團司令部ニ之ヲ置キ、師管軍法會議ハ、近衛師團ヲ除クノ外、各師團司令部ニ設ケ、高等軍法會議ハ、東京ニ置ク。

高等軍法會議ハ、全國ヲ管轄シ、陸軍將官同相當官ノ犯罪ヲ審判シ、缺席裁判ニ對スルモノノ外、再審ノ審判ヲ爲ス。

旅管師管ノ軍法會議ハ、其ノ旅管師管ノ所管地方ヲ以テ、管轄區域ト爲シ、所屬陸軍上長官以下ノ犯罪ヲ審判ス。

合圍地軍法會議ハ、合圍地内、混成旅團、師團、軍團ノ軍法會議ハ、其ノ團所屬ノ犯罪ヲ審判ス。

臨時陸軍軍法會議ハ、戰時又ハ事變ニ際シ、特設又ハ分駐シタル陸軍軍銜又ハ陸軍團隊ニ、必要ニ應ジテ設クルモノニシテ、合圍地軍法會議ニ類スルモノナリ。

海軍ノ軍法會議ハ、鎮守府軍法會議、東京軍法會議、艦隊軍法會議、高等軍法會議、合圍地軍法會議、臨時海軍軍法會議等トス。

鎮守府軍法會議及ビ東京軍法會議ハ、常設ニシテ、其ノ他ハ、臨時之ヲ置ク。

東京軍法會議ハ、他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬セザル海軍上長官以下ノ犯罪ヲ審判ス。其ノ被告タルベキ者ノ多數ハ、東京ノ學校官銜等ニ勤務スルヲ以テ、之ヲ東京ニ置クナリ。

鎮守府軍法會議、艦隊軍法會議ハ、各其ノ鎮守府又ハ艦隊所屬ノ海軍上長官以下、合圍地軍法會議ハ、其ノ臨戰合圍地ニ於テ、海軍上長官以下ノ犯シタル罪ヲ審判ス。

樺戸網走十勝監獄

高等軍法會議ハ、海軍將官同相當官ノ犯罪ヲ審判シ、及ビ再審審判ヲ爲スモノニシテ、陸軍ノ高等軍法會議ニ類スルモ、陸軍ニ於ケルガ如ク、常設機關ニアラス。

臨時海軍軍法會議ハ、戰時又ハ事變ニ際シ、特ニ設ケタル司令長官又ハ司令官ノ下ニ置キ、其ノ部下ニ屬スル海軍上長官以下ノ犯罪ヲ審判シ、又艦隊司令長官、艦隊司令官分遣艦隊司令官、艦隊ニ屬スル艦船長ヨリ、審判ヲ委託シタル者ヲ審判スルノ機關ナリ。

樺戸網走十勝監獄、憲法施行ノ際、小笠原島伊豆七島及ビ沖繩縣ニハ、未ダ裁判所ノ設ナカリシヲ以テ、之ヲ設置スル迄、縣官吏又ハ島吏ヲシテ、裁判事務ヲ執ラシメ、又樺戸、空知、釧路、三集治監ノ囚人ノ輕罪以下ノ犯罪ハ、典獄ヲシテ、之ヲ裁判セシメタリ。是レ裁判所構成法施行條例ノ定ムル所ナリ。

然ルニ、其ノ後小笠原島伊豆七島沖繩縣ニハ、通常裁判所設置セラレ

警察官署

タルヲ以テ、此ノ例外ノ制度ハ、現今ハ、集治監ニ付テ存スルノミ。  
 現今ノ制、北海道ニ於テ、集治監ノ性質ヲ有スルモノハ、樺戸網走十勝  
 ノ三監獄アリ。此ノ三監獄ハ、往時ノ三集治監ニ該當スルモノニシテ、  
 依然トシテ、特別裁判所タリ。  
 樺戸網走十勝三監獄ニ於テハ、其ノ囚人罪ヲ犯シ、輕罪以下ニ該ルト  
 キハ、典獄之ヲ裁判ス。此ノ裁判ハ、地方裁判所ノ爲シタルモノト看做  
 シ、之ニ對シテハ、控訴院ニ控訴シ、大審院ニ上告セシム。  
 此ノ特別裁判所ヲ設ケタル所以ハ、北海道ハ、交通不便ニシテ、囚徒ノ  
 押送事容易ナラザレバナリ。  
 警察官署。警察署長分署長又ハ其ノ代理官吏ハ、其ノ管轄區域内ニ  
 於テ犯シタル違警罪ヲ即決スルノ職權ヲ有ス。即チ刑事ヲ裁判スル  
 モノニシテ、特別裁判所ノ一種ナリ。  
 即決トハ、裁判ノ正式ヲ用ヒズ、被告人ノ陳述ヲ聽キ、證憑ヲ取調ベ、直

憲兵部

(三) 領事裁判權

ニ言渡ヲ爲スモノナリ。  
 即決ノ言渡ニ對シテハ、區裁判所ニ、正式裁判ヲ請求スルコトヲ得。  
 一定ノ期間内ニ、此ノ請求ヲ爲サザルトキハ、即決ノ言渡ハ、確定シ、刑罰  
 ハ、執行セラル。  
 違警罪即決例ハ、微罪ヲ理スルニ簡便ナル方法ヲ採リタルモノナリ。  
 警察官署ハ、常人ノ違警罪ヲ即決スルモノナレドモ、又軍人軍屬ノ違  
 警罪ヲ即決スルコトアリ、次ニ之ヲ述ブベシ。  
 憲兵部。陸海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ、憲兵部ニ於テ、之ヲ即  
 決ス。憲兵部ノ設ナキ地ニ於テハ、警察官署之ヲ即決ス。  
 即決ノ言渡ニ對シテハ、軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得。  
 其ノ他ハ、普通ノ違警罪即決ノ場合ニ同ジ。  
 (三) 領事裁判權。國家ハ、其ノ版圖内ニ於テハ、内國人ニ關スルモ  
 ノハ、勿論外國人ニ關スルモノニ付テモ、裁判權ヲ有スルヲ普通トス。

然レドモ、司法制度ノ完備セザル國ニ於テハ、列國ハ、自國ノ國民ニ關係シテハ、裁判權ヲ留保シ、自國ノ領事官ヲシテ、之ヲ行ハシムルコトアリ。之ヲ領事裁判權ト謂フ。

我ガ國ハ、清國及ビ暹羅國ニ於テ、領事裁判權ヲ有ス。韓國ニ於テモ、我ガ國ハ、又領事裁判權ヲ有シタレドモ、明治三十九年二月一日、領事官ヲ廢シテ、理事官ヲ置キ、裁判權ヲ行ハシムルコトトナレリ。理事官ニ付テハ、韓國ノ篇ニ於テ、之ヲ詳説スベシ。

領事官ハ、後ニ示スガ如ク、民事、刑事ヲ裁判スルガ故ニ、司法機關タリト雖モ、固ヨリ通常裁判所ニアラズ、又特別裁判所ニモアラズ。

特別裁判所トハ、憲法ノ規定ニ依リテ定メラレタル名稱ニシテ、憲法ハ、外國ニ行ハルベキモノニアラザルガ故ニ、領事官ハ、特別裁判所ト稱スルコトヲ得ズ。

領事官ハ、我ガ國ノ制度ニ於テハ、駐在國ニ在留スル帝國臣民ノ輕罪

ヲ裁判シ、重罪ノ豫審ヲ爲シ、帝國臣民ガ被告人タル民事ヲ裁判シ、又非訟事件ヲ取扱フモノナリ。

領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ、其ノ事件、第一審ニ於テ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノナルトキハ、長崎地方裁判所、地方裁判所ノ權限ニ屬スルモノナルトキハ、長崎控訴院之ヲ管轄ス。領事官ニ付テハ、尙後ノ外政ノ篇ヲ參看スベシ。

### 第五篇 行政

行政ノ基礎

政治作用ノ形式ニ法規ト處分トアルコトハ第三篇ノ始ニ之ヲ述ベタリ。處分ニハ又法ノ適用ニ依ル處分ト自由裁量ニ依ル處分トアリ。法ノ適用ニ依ル處分トハ法令ヲ特定ノ事件ニ解釋適用スルノ處分ニシテ裁判ハ其ノ著キ例ナリ。自由裁量ニ依ル處分トハ法令ノ範圍内ニ於テ利害得失ヲ較量判定シテ行フ處分ニシテ多數ノ政治作用ガ此ノ範疇ニ屬スルコトハ普ク人ノ知ル所ナリ。

行政機關ハ法規ヲ定ムルコトアリ法ノ適用處分ヲ爲スコトアリト雖モ其ノ立法司法ノ兩機關ニ異ナル所ハ自由裁量處分ヲ以テ其ノ本領ト爲スニ存ス。

中央行政ト地方行政

行政ニ中央行政地方行政ノ別アリ。  
中央行政トハ内閣各省以下行政ノ中樞ヲ爲ス機關ノ行ラ所ニシテ

官治行政ト自治行政

其ノ管轄ハ全國ニ及ビ而シテ其ノ權限ハ一定ノ事項ニ限ラルヲ常トス。遞信省ガ交通事項ヲ限リテ全國ヲ支配スルガ如シ。

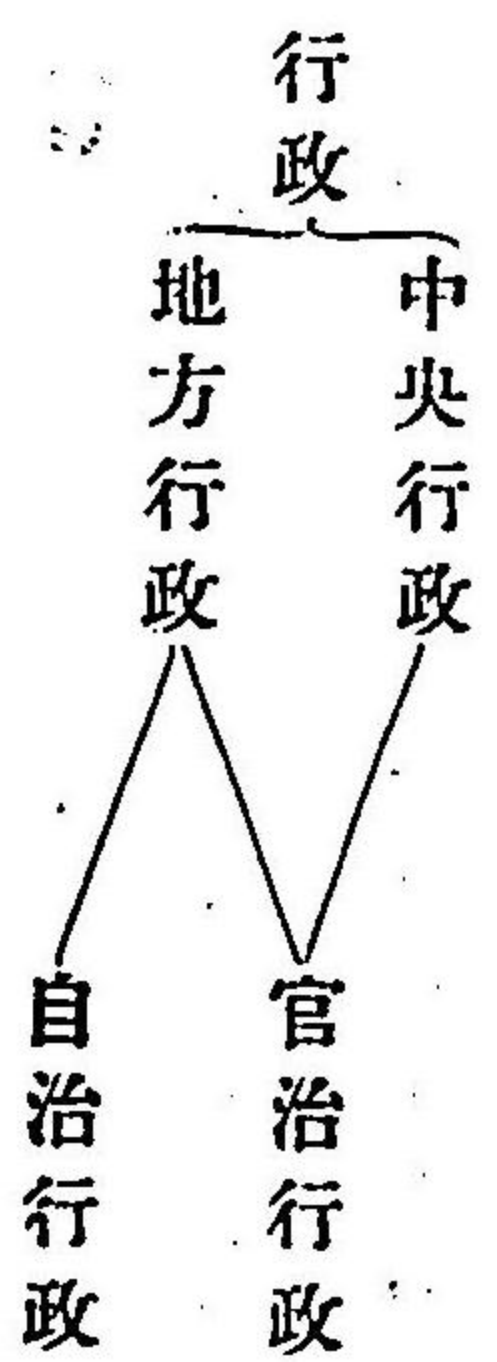
地方行政トハ一地方ヲ限リテ管轄區域トシ獨立シテ命令權ヲ行ヒ而モ其ノ命令權ハ各種ノ事項ニ及ブラ常トス。府縣知事ノ權限ノ如シ。

中央行政機關ノ中亦地方ヲ區劃シテ管轄スルモノナキニアラズ。稅務監督局林區署等ノ如シ。然レドモ是等ハ爲メニ中央行政機關タルコトヲ失ハズ。何トナレバ是レ中央ノ出張機關トシテ各省大臣直接ノ指揮ノ下ニ行動シ獨立ノ命令權ヲ有セズ。其ノ管轄區域ヲ有スルハ事務ノ便宜ニ出デタルニ過ギザレバナリ。

行政ニハ又官治行政ト自治行政トノ別アリ。  
官治行政トハ國家直接ノ行政ニシテ自治行政トハ自治體ト稱スル公法人ノ行フモノナリ。

官治ト、自治トハ、地方行政ノ區別ニシテ、中央行政ガ、總テ官治行政タルハ、言ヲ須タズ。

行政ノ種別ヲ示セバ、次ノ如シ。



### 第一章 中央行政

中央行政ノ首腦ハ、各省ニシテ、其ノ上ニ、内閣アリ、之ヲ統一ス。各省ノ下ニ、諸種ノ機關アリテ事ニ從フ。別ニ會計監督ノ機關トシテ、會計検査院アリ。行政監督ノ機關トシテ、行政裁判所アリ。

内閣。内閣ハ、國務大臣ヲ以テ組織ス。内閣總理大臣ハ、内閣ノ首班トシテ、機務ヲ奏宣シ、旨ヲ承ケテ、行政各部ノ統一ヲ保持シ、必要ナル

内閣

場合ニ於テハ、行政各部ノ處分、又ハ命令ヲ中止セシメ、勅裁ヲ待ツノ權限ヲ有ス。

内閣總理大臣事故アルトキハ、他ノ大臣臨時命ヲ承ケテ、其ノ事務ヲ代理ス。

凡ソ重要ナル國務ハ、閣議ヲ經ルヲ要ス。

閣議ヲ經ベキ主要ナル事項ハ、(一)法律案及ビ豫算決算案、(二)外國條約及ビ重要ナル國際條件、(三)官制又ハ規則及ビ法律施行ニ係ル勅令、(四)諸省ノ間ニ於ケル主管權限ノ爭議、(五)天皇ヨリ下付セラレ、又ハ帝國議會ヨリ、送致スル人民ノ請願、(六)豫算外ノ支出、(七)勅任官及ビ地方長官ノ任命及ビ進退、(八)其ノ他、高等行政ニ關シ、事體重キモノトス。事ノ軍機軍令ニ關スルモノハ、閣議ヲ經ズシテ、直チニ之ヲ上奏ス。之ヲ帷幄上奏ト稱ス。陸海軍ノ編制ハ、其ノ一ナリトス。

閣議ヲ經ベキ事項ニハ、行政機關トシテ行フモノト、大體機關トシテ

統計局	行ノモノトノ二様アリ。便宜ノ爲メ茲ニ行政機關ノ下ニ併セ述ブルノミ。大權機關ニ付テ陳ベタル所ト彼此對比スベシ。内閣所屬ニ統計局恩給局印刷局アリ。賞勳局法制局馬政局及ビ文官高等試験委員亦之ニ隸ス。
恩給局	統計局ハ行政各部ノ統計ノ統一ニ關スル事項及ビ行政各部ニ專屬セザル統計ニ關スル事項ヲ掌ル。
印刷局	恩給局ハ恩給及ビ扶助料ヲ受クベキ資格及ビ權利ノ審査裁決ニ關スル事項並ニ恩給及ビ扶助料ノ支給ニ關スル事項ヲ掌ル。
賞勳局	印刷局ハ官報法令全書職員録ノ編輯發賣官報其ノ他ノ印刷印紙類切手類諸證券類ノ製造抄紙ニ關スルコトヲ掌ル。
賞勳會議	賞勳局ハ勳位勳章年金ニ關スルコト記章褒章其ノ他ノ賞件ニ關スルコトヲ掌ル。賞勳局ニ賞勳會議ヲ置ク。
	賞勳會議ハ賞勳局總裁及ビ議定官勳一等以上ヲ有スル勅任官十五

法制局	入ヲ以テ組織シ勳位勳章年金ノ叙賜褫奪ノ當否ヲ議定ス。
馬政局	法制局ハ總理大臣ノ命ニ依リ法律命令案ヲ起草シ法律命令ノ制定廢止變更ニ付キ意見ヲ内閣ニ上申シ各省ヨリ閣議ニ提出スル法律命令案ヲ審査シ其ノ他總理大臣ヨリ諮詢セラレタルモノニ付意見ヲ上申スルヲ職トス。
	馬匹ニ關スル行政ハ性質上農務行政ニ屬シ從來牛ニ關スル行政ト共ニ農商務省ノ管スル所ナリシガ日露戰役後大ニ軍馬養成ノ必要ヲ感ジ又軍馬ト常用馬トノ養成上ノ調和ヲ計ルノ要アリ。明治三十九年六月新ニ馬政局ヲ設ケテ内閣ニ屬セシメ之ニ長官次長以下多數ノ職員ヲ置キ馬匹ノ改良蕃殖其ノ他馬政ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシム。其ノ結果トシテ從來農商務省ニ屬シタル種馬牧場種馬所ハ馬政局ノ管スル所ト爲リ尙別ニ種馬育成所ヲ新設スルコトト爲レリ。
	馬政局ニ馬政委員會附屬ス。馬政局及ビ農商務省ノ職員ト陸軍軍



種馬牧場種馬育成所

種馬所

人トヲ以テ組織シ、馬匹改良ニ關スル重要ナル事項ヲ審議セシム。  
種馬牧場ハ、種馬ノ蕃殖ヲ掌リ、種馬育成所ハ、幼種馬ノ育成及ビ調教  
ニ任ジ、種馬所ハ、種馬ヲ管理シ、種付ヲ行フ所トス。種馬牧場ハ三、種馬  
育成所ハ、一、種馬所ハ十五ヲ設クルコトヲ以テ、馬政ノ方針トセルモ、現  
今明治三十九年十一月存立セルハ、二種馬牧場十種馬所トス。

種馬牧場……

奥羽種馬牧場(青森縣上北郡七戸村)  
九州種馬牧場(鹿兒島縣始良郡牧園村)

宮城種馬所(宮城縣玉造郡西大崎村)

福島種馬所(福島縣西白河郡四郷村)

岩手種馬所(岩手縣岩手郡瀧澤村)

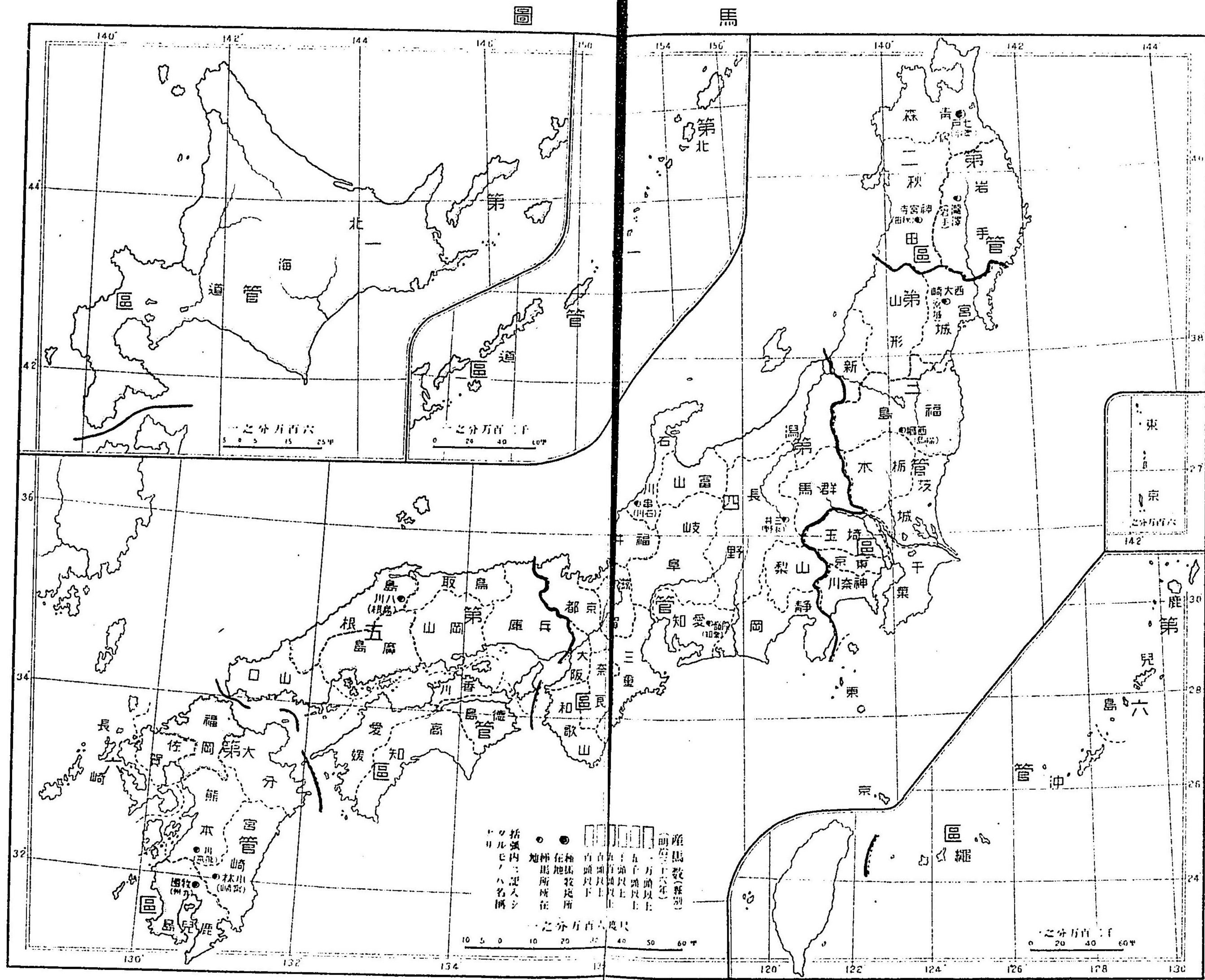
秋田種馬所(秋田縣仙北郡神宮寺村)

石川種馬所(石川縣能美郡串川村)

島根種馬所(島根縣仁多郡八川村)

熊本種馬所(熊本縣球磨郡川村)

種馬所……



宮崎種馬所(宮崎縣四諸縣郡小林村)  
長野種馬所(長野縣北佐久郡三井村)

種馬牧場ハ、馬產地トシテ最モ有名ナル奥州ト、鹿兒島トニ設ケタル  
モノニシテ種馬所モ亦全國中主要ナル産馬地方ニ適當ニ配置セルモ  
ノナリ。詳細ハ、馬政圖ニ就イテ、知ルベシ。

馬匹ノ改良ヲ計ルガ爲メ、全國ヲ六管區ニ分チ、擔任馬政官ヲ定メテ、  
馬匹監督ノ事ニ當ラシム。其ノ管區ノ名稱ハ、第一ヨリ順次第六ニ至  
ル。其ノ管轄區域ハ、馬政圖ニ示ス所ノ如シ。

文官高等試驗委員ハ、委員長・常任委員・臨時委員ヲ以テ成リ、文官高等  
試驗及ビ奏任文官任用ノ詮衡ニ關スル事務、竝ニ文官普通試驗科目ニ  
關スル事務ヲ掌ル。

各省ハ、各部行政ノ首腦ナリ。

省ヲ分チテ九トス、外務・內務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・遞信是ナ

馬政管區

文官高等試驗委員

各省

外務省

各省大臣ハ主任ノ事務ニ付、其ノ責ニ任ズ。  
 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付、法律勅令ノ制定廢止改正ノ案ヲ具シテ、  
 閣議ニ提出シ、省令ヲ發シ、警視總監北海道廳長官府縣知事ヲ監督シ、之  
 ニ指令訓令ヲ下シ、是等ノ命令處分ノ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ、權限ヲ犯  
 スモノ、停止取消ヲ爲スノ職權ヲ有ス。  
 各省ニ、次官以下ノ職員アリ。次官ハ、法律勅令ニ副署シ、省務ヲ敷奏  
 シ、内閣ノ議ニ列シ、省令ヲ發スルコトノ外、大臣事故アルトキハ、臨時其  
 ノ職務ヲ代理スルコトアリ。  
 各省ニ大臣官房及ビ局ヲ設キ、又其ノ下ニ課ヲ設キ、事務ヲ分掌セシ  
 ム。  
 外務省ハ、外國ニ關スル事務ヲ掌ル、政務通商ノ二局アリ。  
 公使館領事館其ノ他在外公館ニ付テハ、後ニ外政ノ篇ニ於テ、述ブベ

内務省

シ。  
 外務省ニ、外交官及ビ領事官、試験委員、附屬ス。  
 内務省ハ、神社地方行政議員選舉警察土木衛生地理宗教出版著作  
 權賑恤救濟ニ關スル事務ヲ掌ル。  
 内務省ニ、神社地方警保土木衛生宗教ノ六局ヲ置ク。  
 内務省ニ、神宮司廳、造神宮使廳、神部署、衛生試驗所、傳染病研究所、古社  
 寺保存會、中央衛生會、日本藥局、方調查會、附屬ス。  
 神宮司廳ハ、伊勢國山田ニ在リ。祭主及ビ大宮司以下ノ職員ヲ置ク。  
 祭主ハ、皇族ヲ以テ之ニ任ジ、大御手代トシテ奉齋シ、祭事ヲ管理ス。賀  
 陽宮邦憲王殿下、現ニ祭主タリ。  
 神宮司廳ニ、神宮皇學館ヲ置キ、學生ヲ養成ス。  
 造神宮使廳ハ、神宮造營及ビ神寶裝束調進ノ事ヲ掌ル。使、副使以下  
 ノ職員アリ。使ハ、神宮祭主ニシテ、副使ニハ、神社局長ヲ以テ充ツ。

神宮司廳

神宮皇學館

造神宮使廳

神部署

衛生試驗所

傳染病研究所

古社寺保存會

神部署ハ、神宮司廳ト同ジク、伊勢國山田ニ在リ。神宮大宮司ノ監督ニ屬シ、大麻曆ノ製造頒布及ビ臣民ノ奉齋ニ關スルコトヲ掌ル。衛生試驗所ハ、東京大坂横濱ノ三ヶ所ニ在リ。衛生上ノ試験ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス。東京大坂横濱ハ、全國中最モ繁盛ノ地ニシテ、衛生試験ノ需要多キガ故ニ、茲ニ試験所ヲ設ケタルナリ。傳染病研究所ハ、東京ニ一ヶ所アルノミ。傳染病其ノ他病原ノ檢索豫防治療方法ノ研究、豫防消毒治療材料ノ檢査、傳染病研究方法ノ講習及ビ痘苗血清其ノ他細菌學的豫防治療品ノ製造ニ關スル事務ニ従事ス。國庫ハ、古社寺ニシテ其ノ建造物及ビ寶物類ヲ維持修理スルコト能ハザルモノニ、保存金ヲ下附ス。此ノ保存金ヲ下付スベキ建造物、及ビ寶物類ハ、歴史ノ證徴、由緒ノ特殊、又ハ製作ノ優秀ニ付キ、古社寺保存會ニ諮詢シテ、内務大臣之ヲ定ム。

中央衛生會

日本藥局方調查會

土木出張所

大藏省

古社寺保存會ハ、此ノ他古社寺ノ保存ニ關スル内務大臣ノ諮詢機關タリ。中央衛生會ハ、公衆衛生及ビ獸畜衛生ニ付、各省大臣ノ諮詢ニ應ジ、又ハ建議ヲ爲シ、不良醫師ノ處分、其ノ他法令ヲ以テ規定セル事項ヲ議決ス。日本藥局方調查會ハ、日本藥局方改正ニ關スル調査ヲ爲ス所タリ。文明諸國ニハ、皆各其ノ藥局方アリ。藥局方ハ、藥種ノ製法成分等ヲ規定シ、以テ醫藥ノ精良ヲ期スルノ法令ナリ。此ノ他、内務省ニ於テハ、直轄土木工事、並ニ河川道路港灣砂防ノ調査ニ従事セシムル爲メ、全國ヲ四區ニ分チテ、土木出張所ヲ置ク。舊時ノ土木監督署ノ後身ナリ。土木出張所所在地ハ、東京大阪新潟名古屋ノ四ヶ所トス。大藏省ハ、財政經濟ニ關スル行政ノ中樞ナリ。之ヲ詳言スレバ、

臨時國債整理局

造幣局

會計出納租稅專賣國債貨幣預金保管物信託及銀行ニ關スル事務ヲ掌リ、府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ財務ヲ監督ス。

大藏省ニ主計主稅理財ノ三局ヲ置ク。

大藏省附屬諸機關ハ、臨時國債整理局造幣局稅關臨時建築部稅務監督局稅務署煙草專賣局鹽務局樟腦事務局釀造試驗所關稅訴願審查委員會臨時橫濱港設備委員會トス。

臨時國債整理局ハ、日露戰役ノ爲メ、多額ノ公債ヲ起シタルヲ以テ、之ガ整理償還ノ事務ニ從事セシムルノ目的ヲ以テ、特ニ設ケタル機關ナリ。

造幣局ハ、大阪ニ在リ、支局ヲ東京ニ置ク。貨幣ノ鑄造、賞牌ノ製造、地金銀ノ精製分析及ビ諸鑛物ノ試驗ヲ掌ル所トス。

當初造幣局ヲ大阪ニ置キタルハ、大阪ガ東京ヨリモ、金ノ主產地タル鹿兒島ニ近ク、又佐渡生野其ノ他ノ重要ナル金銀山トノ交通、便利ナリ

稅關

シガ故ニシテ、金貨制度ヲ施行セラレタル今日ニ於テモ、大阪ハ、鹿兒島縣ノ產金ヲ收ムルノ外、朝鮮及ビ臺灣ノ地金ヲ輸入スルニ便宜ナル位地ニ在リ。東京ニ支局ヲ置ク所以ハ、東北地方ヨリ產出スル地金、銀ヲ買收スルヲ以テ、主タル目的トス。

稅關ハ、關稅噸稅ニ關スル事務ヲ掌リ、併セテ輸入品ニ對スル内地消費稅ノ賦課、並ニ輸出品ニ對スル内地稅下戻及ビ輸出交付金ニ關スルコトヲ掌理ス。稅關ハ、橫濱、神戶、大阪、長崎、函館ノ五港ニ置ク。共ニ重要ナル貿易港タリ。新潟ハ、舊來五港ノ一ナリシモ、地勢上輸出入品極メテ少キヲ以テ、今ハ之ニ稅關ヲ置カズ。却テ從來五港ノ外タリシ大阪ニハ、稅關ヲ置ク。稅關ニ、稅關監視部ヲ置ク。

稅關ハ、全國ヲ五區ニ分チテ之ヲ管轄ス。然レドモ稅關ハ、外國貿易ニ關係スルモノナルガ故ニ、無海國ヲ管轄セズ。故ニ岩代、下野、上野、信濃、甲斐、美濃、飛騨、近江、伊賀、大和、河内、丹波、美作ノ十三國ハ、稅關管轄外ナ

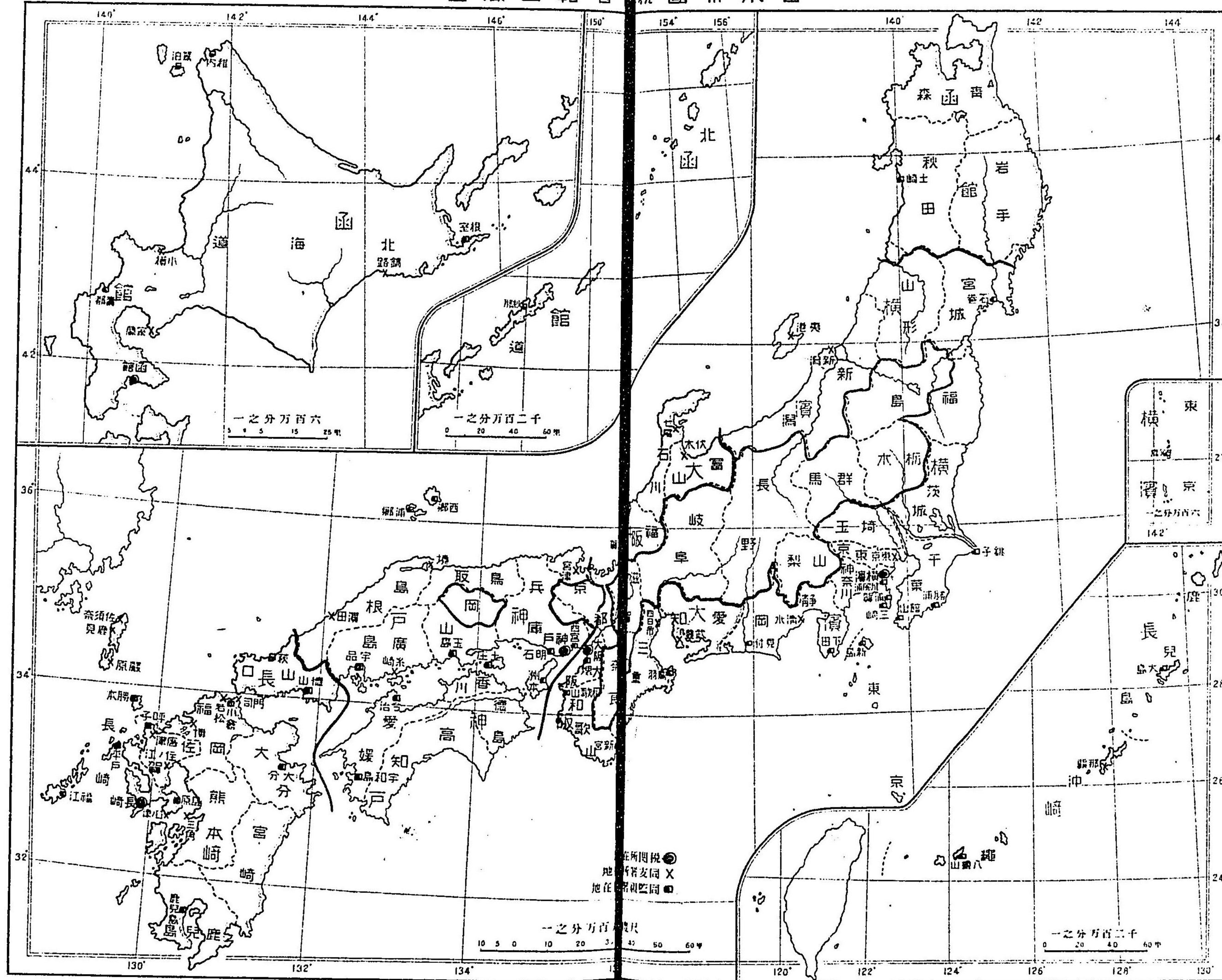
リ。唯山城國ハ、無海國ナルモ、坂神ノ地ニ近邇シ、淀川舟楫ノ便ハ、直ニ外國ト貿易ヲ爲スコトヲ得ルノ位地ニ在ルヲ以テ、大坂税關ノ管轄區域ニ屬セシメタリ。

税關ノ下ニ、税關支署及ビ税關監視署ヲ置ク。支署ハ、税關ヲ隔リタル重要ナル港灣ニ設ケ、一定ノ地域ヲ支配シテ、税關ノ事務ヲ分掌ス。支署ノ所在地ハ、開港タルヲ通則トス。唯東京ハ、開港ニアラザルモ、支署アリ。下ノ關青森ハ、開港ナルモ、支署ナシ。蓋シ、下ノ關青森ハ、各門司函館ト相依ルヲ以テ、門司支署及ビ函館税關ヲ以テ足レリトシ、東京ハ、横濱港輸出入貨物ノ通路ニ當ルヲ以テ、特ニ支署ヲ設ケタルナリ。

監視署ハ、密輸出入ヲ監視スルノ任ニ當ルモノナリ。開港場以外重要ナル港灣ニ之ヲ置ク。其ノ數、四十三アリ。

税關、税關支署、監視署ノ大多數ハ、太平洋方面ニ在リテ、日本海方面ニハ、僅ニ五六ヲ數フルノミナルハ、我が國ノ外國交通ハ、主トシテ、太平洋

日本帝國管轄區域圖



(第四圖) (日本政治地理卷一)



第十三表

沿岸ニ於テ行ハルルヲ以テナリ。

税 關		税 關 支 署		税 關 監 視	
位 置	管 轄 區 域	位 置	管 轄 區 域	署 位 置	
大坂(攝津)	三河・尾張・伊勢・志摩・紀伊・和泉・攝津(四成郡以東)・山城・若狹・越前・加賀・能登・越中ノ十三ヶ國	武豐(尾張) 四日市(伊勢) 敦賀(越前) 七尾(能登) 伏木(越中)	三河國・尾張國・伊勢國・志摩國・紀伊國・和泉國・若狹國・越前國・加賀國・能登國	鳥羽(志摩) 新宮(紀伊) 和歌山(紀伊) 堺(和泉)	
横濱(武藏)	陸前・磐城・常陸・下總・上總・安房・武藏・相模・伊豆・駿河・遠江・越後・羽前・佐渡ノ十四ヶ國及ビ小笠原島	東 京 新潟(越後) 清水(駿河)	武藏國東京市・南葛飾郡・南足立郡・北豐島郡・豊多摩郡・荏原郡 越後國・羽前國 駿河國・遠江國	石巻(陸前) 銚子(下總) 勝浦(上總) 館山(安房) 屏風浦(武藏) 浦賀(相模) 三崎(相模) 下田(伊豆) 大島新島(伊豆) 見付(遠江) 父島(小笠原島)	

第五篇 行政

神戶(攝津)											
攝津(川邊郡以四) 播磨(備前・備中) 備後(安藝・石見) 出雲(伯耆・因幡) 但馬(丹後・隱岐) 伊豫(土佐・阿波) 讃岐(淡路ノ十八ノ國)											
夷港(佐渡)		絲崎(備後)		境(伯耆)		宮津(丹後)		門司(豐前)		若松(筑前)	
佐渡國		備後國・安藝國		出雲國・伯耆國		因幡國・但馬國・丹後國		周防國・長門國・豐前國・豐後國・日向國		筑前國ノ中、遠賀・鞍手・嘉穂・朝倉・宗像ノ五郡	
		四宮(攝津) 洲本(淡路) 宇和島(伊豫) 今治(伊豫) 土庄(讃岐) 明石(播磨) 玉島(備中) 宇品(安藝) 四那(隱岐) 酒郷(隱岐)								肥前國ノ中、東松浦・四松浦・北松浦ノ三郡	
										博多(筑前)	
										唐津(肥前)	
										肥後・筑前・筑後	
										周防・長門・肥前	

長崎(肥前)											
豐前・豐後・日向・大隅・薩摩・壹岐・對馬・琉球ノ十四ノ國											
陸奥・陸中・羽後・渡島・後志・石狩・天鹽・北見・根室		小樽(後志)		那覇(琉球)		鹿見(對馬)		佐須奈(對馬)		殿原(對馬)	
		後志國・石狩國・天鹽國・北見國		琉球國		對馬國上縣郡ノ中、齊見村・中原村・佐護川以南		對馬國上縣郡ノ中、琴村・舟志村・佐護川以北		對馬國ノ中、下縣郡	
		土崎港(羽後) 根室(根室) 紗那(千島)								肥前國ノ中、佐賀市及佐賀・小城・杵島・藤津ノ四郡	
										肥前ノ國中、南高來・北高來ノ二郡	
										大隅國・薩摩國・肥後國・筑後國	
										住ノ江(肥前)	
										口ノ津(肥前)	
										三角(肥後)	
										前(福江) 肥前(小) 介(豐前) 大分(豐後) 大島(大隅) 鹿兒島(薩摩) 勝本(壹岐) 八重山(琉球)	

稅務官署

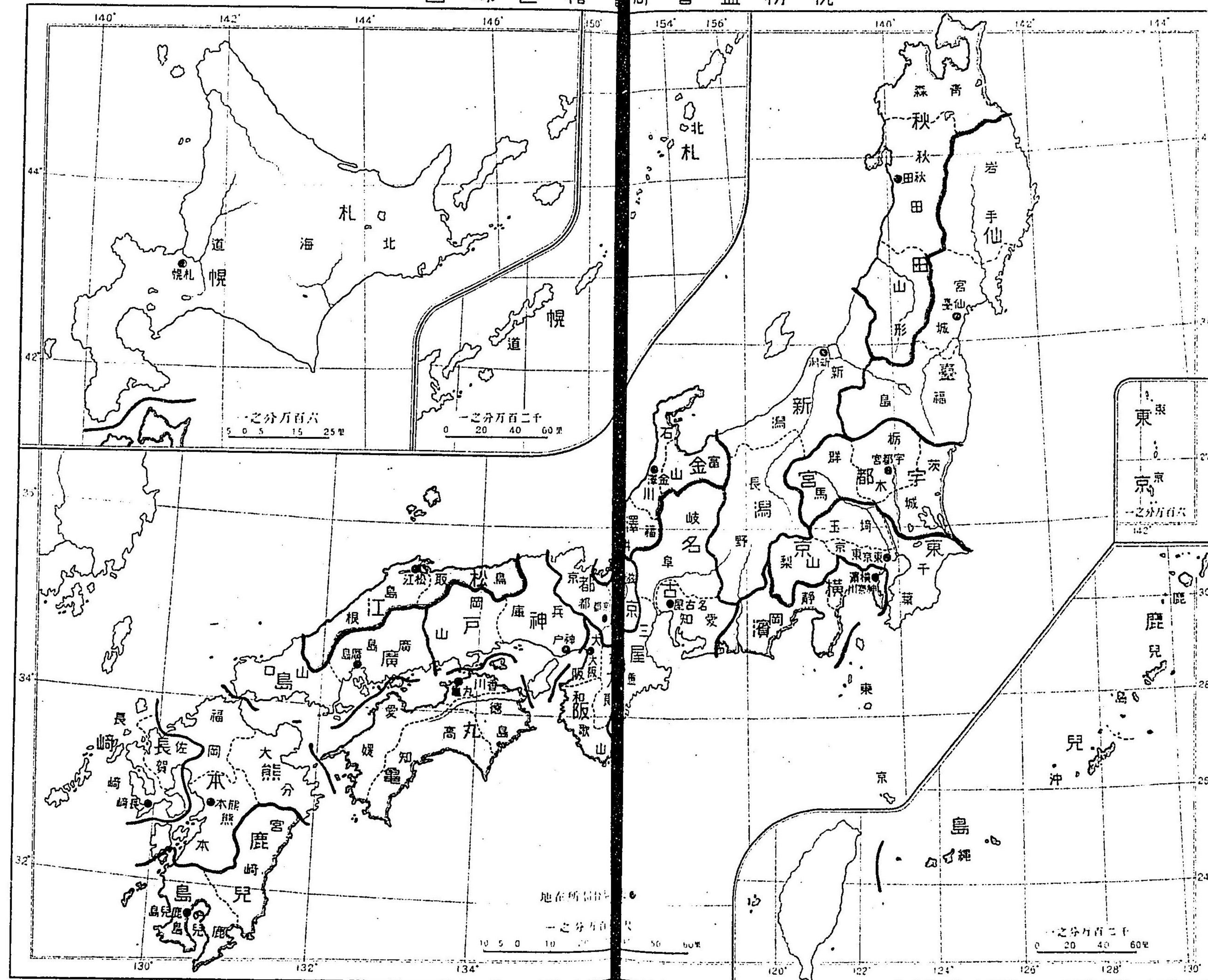
計合	函館(渡島)		根室國・釧路國・十勝國・千島國	稚内(北見) 釧路
	千島・釧路・十勝・日高・膽振・ノドケケ國			
五稅關	二十七支署	室蘭(膽振)	日高國・膽振國	北見(海部(後志))
		四十三監視署		

稅務監督局及稅務署ヲ通ジテ、通常之ヲ稅務官署ト稱ス。內國稅徵收ノ事ヲ司ル官廳ナリ。稅務署ハ、直接徵稅ノ任ニ當リ、監督局ハ、之ヲ監督スル組織ナリ。

稅務監督局ハ、其ノ數十八アリ。全國ヲ分チテ、之ヲ管轄ス。其ノ下ニ四百九十三ノ稅務署アリ。

稅務署ハ、一郡一署ナルヲ以テ、普通トシ、又市ハ、郡ト共ニ一署ノ下ニ在ルヲ通例トス。然レドモ、東京、京都、大坂等ノ大市ニ於テハ、一市内ニ二以上ノ稅務署アリ。一市一署ナルモノアリ。又一稅務署ニシテ、二

稅務監督局轄區圖



第五卷 日本政治地理卷